ふくしま道徳教育推進プラン

道徳教育推進校
報告書

平成２４年度道徳教育総合支援事業

平成２５年３月

福島県教育委員会

ふくしまから
はじめよう。
Future From Fukushima.

はじめに

本報告書は、平成２４年度道徳教育総合支援事業（文部科学省）の委託事業「ふくしま道徳教育推進プラン」として、県内６地区における小・中・高等学校７校により実践研究を行い、推進校が１年間に取り組んだ道徳教育の実践内容を紹介するものです。

各推進校は、自校での取組を次のプロットに従って報告しております。今年度は、「道徳教育全体計画の改善がどのように図られたのか、道徳教育推進教師は自校でどのような役割を果たしているのか、道徳教育における校長の指導の方針等はどのように伝えられたのか」の３つの柱を立てました。

なお、各校の全体計画、年間指導計画は、平成２４年度と２５年度で比較することができるようになっており、教育課程の編成を経てどのように変更されたのかが分かります。

また、１年間で取り組んだ各校の実践の特徴は、次のとおりです。

福島市立北信中学校	道徳性診断テストと教師アンケートを活用した道徳教育
平田村立蓬田中学校	魅力ある道徳授業のためのゲストティーチャー活用
矢祭町立東舘小学校	心の教育推進委員会との協働と公開授業
下郷町立江川小学校	道徳教育の基盤となる学級集団づくり
県立新地高等学校	規範意識と自尊感情をはぐくむ生徒の生き方在り方教育
いわき市立田人第一小学校	学級課題と重点指導
いわき市立川部中学校	道徳性検査と保護者アンケート活用した道徳教育

【報告書のプロット】

１　学校概要
２　研究テーマ
３　テーマ設定の理由
４　研究計画
５　児童生徒の実態及び地域の課題
６　道徳教育における校長の指導の方針
７　平成２４年度　道徳教育の全体計画の特徴（１）
８　平成２４年度　道徳の時間の年間指導計画の特徴（２）
９　平成２４年度　学級における指導の計画の特徴（３）
１０　道徳教育推進教師等における実践レポート
１１　道徳の時間にかかる資料
１２　平成２５年度　道徳教育の全体計画の特徴　改訂版（１）
１３　平成２５年度　道徳の時間の年間指導計画の特徴　改訂版（２）
１４　成果と課題

《道徳教育推進教師の役割》

ア　道徳教育の指導計画の作成に関すること
イ　全教育活動における道徳教育の推進、充実に関すること
ウ　道徳の時間の充実と指導体制に関すること
エ　道徳用教材の整備・充実・活用に関すること
オ　道徳教育の情報提供や情報交換に関すること
カ　授業公開など家庭や地域社会との連携に関すること
キ　道徳教育の研修の充実に関すること
ク　道徳教育における評価に関すること

（「学習指導要領解説道徳編」より）

平成２４年度ふくしま道徳教育推進プラン

道徳教育推進校報告書

《目次》

はじめに

１　道徳教推進校報告

（1）県北地区	福島市立北信中学校	１
（2）県中地区	平田村立蓬田中学校	１９
（3）県南地区	矢祭町立東舘小学校	３７
（4）会津・南会津地区	下郷町立江川小学校	５５
（5）相双地区	県立新地高等学校	７３
（6）いわき地区	いわき市立田人第一小学校	９１
	いわき市立川部中学校	１０９

２　資料

○　地域に根ざした推進校へ！

道徳教育地区別推進協議会に係る道徳教育推進校の役割について

○　平成２４年度道徳教育総合支援事業「ふくしま道徳教育推進プラン」

【県北地区】福島市立北信中学校

推進校紹介

<table>
<tr><td>学　校　名</td><td>福島県福島市立北信中学校</td></tr>
<tr><td>所　在　地</td><td>福島県福島市鎌田字御仮家２０番地</td></tr>
<tr><td>学校長名</td><td>吉川　博</td></tr>
<tr><td>学校の教育目標</td><td>○ 確かな学力を身につける生徒
○ 豊かな心を身につける生徒
○ たくましい活力を身につける生徒</td></tr>
<tr><td>学級 及び 生徒数
（平成24年5月1日現在）</td><td>
<table>
<tr><td rowspan="2">学年</td><td colspan="2">通常学級</td><td colspan="4">特別支援学級</td></tr>
<tr><td rowspan="2">生徒数</td><td rowspan="2">学級数</td><td colspan="2">知的障がい</td><td colspan="2">情緒障がい</td></tr>
<tr><td>生徒数</td><td>学級数</td><td>生徒数</td><td>学級数</td></tr>
<tr><td>１年</td><td>２９４</td><td>１０</td><td>1</td><td rowspan="3">1</td><td>1</td><td rowspan="3">1</td></tr>
<tr><td>２年</td><td>２７２</td><td>8</td><td>1</td><td>2</td></tr>
<tr><td>３年</td><td>２６５</td><td>8</td><td>1</td><td>－</td></tr>
<tr><td>計</td><td>８３１</td><td>２６</td><td>3</td><td>1</td><td>3</td><td>1</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>道徳教育にかかる
取組みの概要</td><td>1　努力目標の設定にあたって
教育目標「豊かな心を身につける生徒」の達成のための努力目標を，「心の教育の一層の充実を図り，豊かな人間性・社会性の育成に努める。」とした。
2　教育課程編成・実施にあたって
(1)　生命尊重や思いやりの心を育てる機会と場の意図的な設定
(2)　総合的な学習の時間との関連づけ
ボランティア活動や体験的な学習を通して生徒の内面に根ざした道徳性や規範意識を向上させる。
併せて，教師と生徒及び生徒相互の好ましい人間関係を深められるようにする。
(3)　年間指導計画の改善と授業時数の確保
学校教育全体で行う道徳教育の要となる道徳の時間の年間指導計画を改善し，授業時数の確保に努める。
3　道徳教育に取り組む組織，授業実践などについて
(1)　現職教育委員会に，道徳教育推進教師を配置する。
(2)　現職教育の研究主題を道徳教育に関するものとする。
(3)　研究授業の実践は，全教師で取り組むものとする。
(4)　生徒の実態を客観的に把握し，研究的に授業を実施する。
4　福島市で取り組む幼・保・小・中連接事業の推進にあたって
教科等部会の中に，道徳部会を設定し，小・中が連携した道徳教育に取り組む一助とすることとする。</td></tr>
</table>

1　研究テーマ

研究主題	生徒一人一人の内面的自覚を深め，道徳的実践力を身につける道徳の授業はどうあればよいか
副主題	資料の選択・分析と効果的な導入のあり方

２　テーマ設定の理由

(1)　新学習指導要領（平成 20 年３月告示）の全面実施にあたって

平成２４年度は新学習指導要領全面実施初年度にあたる。この学習指導要領においても，生きる力の理念は継承され，それを構成する柱のひとつは「豊かな人間性」であり，学校の道徳教育を今まで以上に重視するものとなっている。

(2)　新学習指導要領の４つの改善点から

①　指導内容の重点化(「主体的に社会の形成に参画すること」)
②　生徒が感動を覚えるような魅力的な教材の開発と活用
③　道徳教育推進教師を中心とした指導体制の充実
④　道徳の時間の授業公開，家庭や地域社会との共通理解・相互連携

(3)　東日本大震災，原発事故に伴う教育活動の停滞から

被災した体育館修理期間（平 23.4 ～ 10 月の約６ヶ月）に全校集会，学年集会ができなかったことに伴い，集団の規律に関する意識，規範意識の欠如がみられた。

(4)　平成２３年度の学校評価結果，教師のアンケートの結果から

①　「道徳の授業の充実に関して」の学校評価（４段階評価）から　　(　)内は平成２２年度

評価者	１　学　期	２　学　期
教　員	２．８３（２．６４）	２．６３（２．６１）
保護者	－	２．７２（３．０４）

４：ほぼ課題解決
３：解決の方向へ
２：要努力
１：意識不足
０：よくわからない

②　具体的な課題

- 道徳の時間の授業時数が十分確保されず，指導が不十分である。
- 道徳の時間については指導が形式化して，実効があがらない。
- 学年に応じた道徳教育の重点が見えにくい。
- 教育活動全体と道徳の時間の相互関連が十分でない。

以上の４点と後述する生徒の実態から，テーマを設定した。

３　研究計画

月	研究協議会	地区別道徳教育推進協議会	県中教研道徳部会
4	今年度の研究主題・計画 教科部会（組織編成など） 新道徳性検査の実施	授業者・指導案の検討 （～９月）	授業者・指導案の検討 （～ 10 月）
5		道徳講演会（前福島市教育実践センター所長 佐藤吉郎先生）	
6	生徒の実態～教科経営計画作成 （新道徳性検査，NRT 検査結果）	指導案の検討 ～ 事前授業（～９月） 小･中連接事業に伴う，小学校教員への道徳の授業公開	
7		市教育実践センター招聘 東京学芸大学教授 永田繁雄先生講演ビデオ視聴会	
8･9	１学期授業実践の振り返り， 重点実践の確認	１～３年道徳の授業公開	県大会に向けた指導案完成 事前授業の実施
10			中教研県大会の準備・当日
11	学校評価の実施，結果確認 新道徳性検査の実施(抽出学級)		県大会の反省のまとめ 次期開催地引継事項の検討
12	教育課程編成準備開始		
1	・今年度の成果と課題のまとめ ・教職員研究物の出品　・道徳教育推進協議会の実施報告書作成・提出 ・次年度の道徳教育全体計画，年間指導計画の見直し・作成（～３月）		
2	次年度学校経営ビジョンの確認，教育課程実施届の作成		
3	次年度の研究主題・計画案作成		

４　生徒の実態及び地域の課題

(1)　生徒の実態

①　自制心や規範意識の希薄化（道徳性検査「HUMAN Ⅲ」，道徳意識調査から）

②　生活習慣の確立が不十分　（平成 23 年度「学校保健だより」等から）

(2)　地域の実態

①　位置　　福島市信夫山の北部に位置し，飯坂温泉が近く，伊達市に隣接している。

②　地域　　奥州街道の宿場町とした栄えた瀬上・鎌田地区
　　果樹栽培の盛んな余目地区
　　商業施設の多い矢野目地区
　　} ４地区から成り立っている。

③　学区　瀬上・鎌田・余目・矢野目小学校を抱え，８３７名中５０５名が自転車通学となる広い学区である。

５　道徳教育における学校長の指導の方針　（資料１）

(1)　各領域と密接な関連を図りながら，人間としての生き方についての自覚を深め，道徳的実践と関連を十分図りながら道徳的実践力の育成を図る。

(2)　教師と生徒，生徒相互の人間関係を一層深め，総合的な学習の時間との関連を図りながら，ボランティア活動など豊かな体験の場の確保に配慮する。

(3)　心豊かで生き生きと生活できる生徒の育成をめざし，発達段階に応じて，規律ある生活態度の確立，自他の生命の尊重，思いやる心の指導に重点をおく。

(4)　本校の道徳教育全体計画を常に見直して改善・実施するとともに，道徳の時間の確保に努め，多様な授業形態を取り入れる。

６　平成２４年度　道徳教育全体計画の特徴　（資料２）

(1)　前年度の学校評価，指導の成果と課題や学校経営ビジョンを踏まえたものとした。

(2)　教育目標 ～ 道徳教育の重点目標 ～ 学年別指導の重点目標 ～ 道徳の時間の指導方針 ～ 各教科・特別活動・総合的な学習の時間・生徒指導・進路指導まで，一環した指導ができるようにした。

７　平成２４年度　道徳の時間の年間指導計画の特徴　（資料３）

(1)　道徳の時間の指導の重点を全学年共通とし，指導の一貫性を保てるようにした。

(2)　平成２３年３月１１日の東日本大震災に伴う教育活動の制限，各学年生徒の実態，本校の教育課題などを踏まえ，４つの価値項目のうち，何に重点化を図ったかを明確に示した。

８　平成２４年度　学級における指導の計画の特徴　（資料４）

(1)　学年共通の道徳年間指導計画をもとに，学級，生徒の実態を踏まえて指導ができるよう配慮した。

(2)　生徒の実態を具体的に記述することによって，共通の年間指導計画を柔軟に取り扱えるように配慮した。

(3)　指導にあたっては，次の点を配慮する。

①　生徒の実態を把握・踏まえ，教師の願い，想いを含めて資料の選択・分析をする。

②　問題の意識化や中心価値の方向づけ，焦点化を図る効果的な導入に努める。

・資料分析，中心発問の検討

・視覚的教材の活用，実態調査結果や他教科との関連を図った導入の工夫

③　内面的自覚を図る振り返りの時間の設定

９　道徳教育推進教師等における実践レポート

本校は今年度中教研道徳県大会発表校として，現職教育主任と協力し，全校が一丸となって道徳教育を推進してきた。クラス担任による最低１回の授業公開を義務づけ，小・中連接授業公開においては，３学年の全クラスが道徳の授業を公開した。

また，授業時数の管理面から，教務主任と連携し，全クラスの道徳の授業時間を同じ時間に一斉に取り，年間３５時間の授業時数を確実に確保した。

研究においては，学習指導要領で求める力を分析するため，道徳推進教師と道徳に造詣の深い教員（３名　計４名）が全国レベルの研修に参加し，それを現職教育部で共有し，先生方に広めることを行ってきた。

研究の出発点を本校の生徒，教員の実態をとらえることとし，それらを改善していくことを研究の主眼とした。

その上で，「価値の方向付けや問題の意識化」という導入部分と，「価値の追求や自己の振り返り」のための資料の選択，効果的な終末を柱として，研究を進めた。

そこで，授業の中で大切となる資料について，「生徒の実態に応じた資料」の選択･分析に焦点をあて，先生方に資料分析の方法などについて提案し，研修を深めることを通じ，授業を構想する際に役立てることができた。

また，「効果的な導入」のために「問題の意識化」「価値の方向付け」「資料の方向付け」を柱とし，実践を積み重ねた。

さらに，展開後段で重要になる「自己の振り返り」の方法について，先行研究や文献などから効果的な事例を取り入れ，実践してきた。

各研修で報告し，大変好評を得た，先生方自作のＤＶＤを終末に活用した。授業の中の価値項目をさらに深めたり，継続していこうという意欲につながったこと等が生徒たちの声からうかがえ，効果の大きさを検証することができた。

１０　道徳の時間にかかる資料

（資料５）

１１　平成２５年度　道徳教育の全体計画の特徴　改訂版（１）　**（資料６）**

- 「道徳意識調査」によってとらえた生徒の実態を表記
- 道徳教育の重点事項を整理
- 道徳の時間の指導方針に今年度の研究の視点を加味

１２　平成２５年度　道徳の年間指導計画の特徴　改訂版（２）　**（資料７）**

教育課程編成の際，中学校ではどうしても教科主任等を中心とする年間計画の作成となってしまう傾向がある。そこでは，もちろん各主任が中心となって行事等との調整を図って時間配当などを決めてはいるが，それが一斉に行われることがなかった。そこで，行事，総合的な学習の時間，道徳，学級活動の月内における横断的な指導を図るため，学年主任を中心とし，行事と総合的な学習の時間，道徳，学級活動を連動して見直すこととした（平成２５年度分については，行事が動く可能性がまだあるので，現時点での予定)。

１３　成果と課題

Ⅰ　研究の成果

（1）　生徒の実態に基づく資料の選択と分析

①　資料選択

○　文部科学省の資料集や教科書会社の副読本をそろえたことで，豊富な資料の中から生徒の実態に適合しているかどうか，道徳的価値がどのように含まれているかといっ

た観点から資料を選択することができた。

○　教師が多くの資料から選択できたことは，今までの授業実践や「生徒の意識調査」の「１　道徳の時間の勉強は好きだ」の項目が上昇していることからも裏付けられる。

② 資料分析の一例

【資料名】　『奇跡の一週間』 【出典名】　中学道徳２『明日をひらく』（東京書籍）			
登場人物	私(甲斐裕美さん)，北村春男さん，甲斐さんの母親		
主 要 場 面	場面ごとの気持ちの変化	道徳的価値	主 な 発 問
【ホスピスでボランティアをしていてよくされる質問の答え】 ホスピスの患者さんに対する思いが北村さんとの出会いによって変化する。	・　あたりまえでしょ。悲しくないわけないじゃない。→「北村さんとの出会い」大きなまちがいだった。(ホスピスの患者さんへの認識の変化)	3－(1) 生命の尊重	○　ホスピスの患者さんに対する甲斐さんの気持ちの変化について考えよう。
【童話『うろこ雲』の挿絵の依頼】 パソコンソフトを使って描いた北村さんの絵のファンになり，童話の挿絵の依頼をした。	・　北村さんの絵に一目でファンになる。 ・　自分の童話の挿絵をお願いするが，体力が低下していく北村さんの姿に，依頼したことを後悔する。	3－(1) 生命の尊重	
【北村さんの真剣さに打たれ，真剣に注文をつける私】 北村さんの思いに応えようと，真剣になって注文をつけることにした。	・　北村さんの思いに応えよう。 ・　まさか新しい作品を20点近く仕上げるなんて。こちらも真剣に向き合わなければ，北村さんに失礼だ。	3－(3) 人間の強さと気高さ，生きる喜び	○　北村さんが亡くなるまでの一週間が奇跡といえるのはなぜか。
【亡くなるまでの奇跡の一週間】 まるで自分の体からあふれてくるものを，一生懸命両手ですくおうとしているようだった。	・　精神的になんて強い人なのだろう。 ・　北村さんのパワーと奇跡を信じる。 ・　「静かにかがやいた目」から，一生懸命描くことで，満足感，充実感が感じとれる。	3－(1) 生命の尊重	○　「自分の体からあふれてくるもの」とは何だろう。
【価値項目】　３－(１)生命の尊重			

（２）　効果的な導入

① 事前のアンケート調査等の資料の提示

② 資料に関する絵画や写真，VTR，DVDなどを用いた視覚的な印象づけ

③ 主題のねらいにかかわる新聞記事，生徒作文，詩や短歌の提示

○　数十回の授業研究会を実施していく中で，生徒の実態やねらい，資料に適したさまざまな導入を検討し，授業に生かすことができた。

○　効果的な導入は，生徒の問題意識を高め，道徳的価値への方向付けをするだけでなく，中心発問や振り返りまで一貫した授業展開ができることが分かった。

（３）　生徒の変容（道徳の時間を肯定的にとらえる生徒の増加）

○　「道徳の時間の勉強は好きだ。」については，６０％以上，「道徳の時間の勉強はためになると思う。」については，実に８０％以上の生徒が肯定的なとらえ方をした。

資料の選択・分析，導入のしかたの工夫が生徒の情意面の上昇につながったものと読み取れる。

○　「他の人の考えを聞きながら自分のことについてよく考える」という質問についても，約７０％の生徒が友だちの考えをよく聴いている。これは，授業の展開前段で，登場人物の行為について考え，班活動や席の形態を工夫したことで，友だち同士積極的に話し合って価値の追求をしたことの表れである。それが展開後段で資料から離れて中心価値と照らし合わせてこれまでの自分を振り返り，さらには内面的自覚へとつなげることができた。

（４）　教師の変容（道徳の授業に積極的に取り組む教師の増加）

先生方の意識調査から，「道徳の授業」を積極的に取り組んだ教師は，

３５％　→　６５％

と約２倍に上昇した。大きな理由としては，「他の先生の道徳の授業を観る機会ができ，とても役だった。」があげられた。

一般に，教科の授業と違って道徳の授業は，学校全体が同じコマに設定している場合が多い。したがって，教員同士道徳の授業を観る機会がほとんどない。

今年度は，「生徒一人一人の内面的自覚を深め，道徳的実践力を身につける道徳の授業はどうあればよいか」という研修主題のもと，研修主任，道徳推進教師が中心となっ組織的・計画的に研究を進めてきた。また，道徳の授業研究会でお互いの授業を観るだけではなく，日ごろから情報交換をしたり，学び合ったりしたことが協力しながら取り組むことができた。

先生方の声として，

○　道徳の授業に対する私たちの意識が変わった。（５名）
○　自分自身の道徳の授業に対する基礎が固まった。（４名）
○　道徳の授業を「おもしろい」と感じることができた。（３名）
○　資料の大切さや分析・吟味の必要性について痛感した。（２名）
○　生徒の変容が見られた。（２名）

も聞かれ，大きな成果となった。

Ⅱ　今後の課題

（１）　生徒の変容から

道徳的心情と道徳的判断力の側面では，道徳的心情が１回目よりもＩの回答が少ない傾向にある。また，先生方の学校評価から，規範意識と自律心，思いやりの心がまだ十分に育っていないことがあげられた。今後は，それらの道徳的心情に指導の重点を置き，共感的・感動的な資料を選定し，道徳的な心情を高めるような指導を工夫する必要がある。

（２）　課題解決のために

①　道徳全体計画の見直し

HUMAN Ⅲの「本校のすがた」から，特に視点４「主として集団や社会とのかかわりに関すること」が４月と比較して望ましくない傾向にある。そこを次年度の本校の重点目標に挙げて取り組む必要がある。

②　道徳，各教科，総合的な学習の時間，学校行事等と関連させた横断的な指導

HUMAN Ⅲの「本校のすがた」，「各学年の項目別集計表」が参考になる。

各教科で扱う内容や教材を道徳の時間に活用したり，道徳での学習内容を教科の時間に生かしたりすることで，生徒の道徳性をさらに深めていく必要がある。主題の配列に当たっては，生徒の実態をふまえ，「道徳的実践力」をさらに高めるため，道徳，学級活動，総合的な学習の時間，行事を十分に考慮していくことが大切である。

（３）　授業実践の工夫

①　道徳的価値の明確化と具体的発問の準備

道徳の授業は５０分なので，本時のねらいからぶれないことが必要である。道徳的価値への方向付けをいかに端的に行うか，価値の追求のしかた，発問構成を工夫して

いかなければならない。そのためには，資料の中の道徳的価値を明確にし，具体的に何を考えさせるのか，その考えを深める具体的な発問をあらかじめ準備しておく必要がある。

② 考えを深める交流の場の工夫

生徒の意見交流を活発にさせるには，話し合いの中で生徒のさまざまな意見を教師が整理し，自分の考えとの違いに気づけるようにすることが大切である。生徒同士が顔を見て話し合うことができるような座席の配置やロールプレイング等の指導の手法などを含めた授業形態を工夫し，生徒が生き生きと活動しさらに自分の考えを深められる場面を設定していくことが必要である。

③ 実態把握と学びの累積

「道徳的実戦力」をどのようにして「道徳的実践」につなげていくか，生徒の変容をどのように把握するかについて適切にとらえることが求められている。可能な限り生徒の心の変容をさまざまな方法でとらえ，それらを日常の指導や個別指導に生かしていくことが大切である。また，生徒が書いたものはファイルなどすることによって，自分自身の考え方の変化を振り返り成長を実感したりするなど，有効に活用することができる。

※ ＜研究を進める上での校内における課題＞

① 教育環境整備について

・ 破損した施設の修理を市教委に要望書を提出し，進捗状況を問い合わせながら，その実現を図る。

・ 教室環境の整備と掲示教育の充実により，より望ましい心豊かな生徒の育成を図る。

② 小・中連接事業の充実について

今年度北信中学区の小･中連接推進事業の組織の一つである「教科等部会」に「道徳」を設置した。その中での協議を深めながら，小中の「道徳」の授業公開などをとおして，小中が共通して目指す子ども像「北信の子五つのやくそく」にせまりたい。

③ 道徳教育の充実を図る外部講師の招聘

道徳的心情をはぐくむために，望ましい講師を選ぶとともに，ＰＴＡの理解を得ながら予算を確保し，外部講師を継続的に招聘する。

資料1

平成２４年度　学校経営ビジョン

福島市立北信中学校

第６次福島県総合教育計画基本理念
福島市教育委員会学校教育指導の重点

基本理念："ふくしまの和"で奏でる，こころ豊かなたくましい人づくり

子どもたちの育ちを総合的・連続的にとらえ，「生きる力」をはぐくむ学校教育の推進

1 豊かな心の育成を目指す教育活動の推進
- すべての教育活動における道徳教育の推進
- 豊かな人間性や社会性の育成

2 確かな学力の育成を目指す教育活動の推進
- 幼・保・小・中学校の連携を基盤とした教育の推進
- 家庭の教育力を生かす連携や実践活動の推進
- 新学習指導要領の趣旨を踏まえた確かな学力の確立，自ら学び、自ら考える力を育てる総合的な学習の時間の充実

3 健やかな体の育成を目指す教育活動の推進
- たくましい心と体をつくる体育・健康に関する指導の充実
- 保健教育，保健管理 及び 食に関する指導の充実

教育目標

○ 確かな学力を身につける生徒
○ 豊かな心を身につける生徒
○ たくましい活力を身につける生徒

北信中学校学区小・中連接事業の推進

○ 教科の系統性を活かした授業研究の推進
○ 生徒指導の諸問題の解決を図るための連携
○ 小中交流事業の推進と地域との連携

学校経営方針

1 教育目標具現のため，情熱と創意工夫のもと，組織的な教育活動を推進する。
2 教育課題を明確にし，課題解決のための実践力のある学校経営を推進する。
3 教職員の指導力 及び 資質の向上を目指した研修を推進する。
4 学校事故防止へ万全を期するとともに，開かれた学校教育を推進する。

求める教師像

○ 研修で磨かれ，授業で勝負する教師
（ 指導力，授業力，専門性 ）
○ 生徒に敬われ，一枚岩で実践する教師
（ 人間力，教育愛と使命感・連帯感 ）
○ 次代を読んで研修に励み，変容する教師
（ 教師力，意識の改革 ）

学校課題

1 生きる力をはぐくむ確かな学力の向上と学習習慣の育成（ 学力向上を図る組織的な取組の充実，主体的に学習する家庭学習の充実 ）
2 豊かな人間性・社会性をはぐくむ心の教育の充実　（ 生命尊重・思いやりの心を育てる道徳，生き生きと活動し、心をはぐくむ特別活動・部活動の充実 ）
3 望ましい人間関係に基づく生徒指導・生徒支援の充実　（ 生徒理解と教育相談の充実，不適応生徒への支援 ）

教育目標	確かな学力を身につける生徒	豊かな心を身につける生徒	たくましい活力を身につける生徒
重点目標	「わかる・できる授業」づくりに努めます	自己指導能力を育む活動を支援します	健やかな心身の育成を推進します
具体的な取り組み	1 「わかる・できる」授業の質的改善 (1) めあてとまとめの整合性を図る板書 (2) 個を生かす指導の工夫，学び合いの場の設定 2 学習意欲の向上 (1) 家庭学習の習慣化 〈 道しるべ 〉〈 自主学習ノート 〉の活用 (2) 朝の読書活動の推進 3 小・中連接事業の推進 (1) 小・中授業交流会，小・中交流行事の充実 (2) 教科の系統性を生かした授業力の向上	1 豊かな心の教育の充実（ 道徳の授業の充実 ） (1) 生命尊重，自尊感情や思いやる心を醸成する指導 (2) 生徒が感動を覚える資料の選択，導入，発問の工夫 2 特別活動の充実 (1) 生徒会・学級活動の充実 (2) キャリア教育による望ましい職業観や勤労観の育成 （発達段階に応じた教育，地域ボランティア） 3 学年・学級経営の充実 (1) 学年目標にそった学年経営，学年リーダーの育成 (2) 学級目標に添った学級経営，学級リーダーの育成	1 生徒指導，部活動の充実 (1) 基本的生活習慣の確立 (2) 登下校時の安全指導と自転車事故防止 (3) 「北信のこども５つのやくそく」の徹底 (4) 部活動による豊かな心と健やかな体の育成 2 不適応生徒への支援（不登校など） (1) 生徒支援委員会による組織的対応 (2) 教育相談の充実 （日常の言葉かけ，定期教育相談，相談室・ＳＣ活用）
推進者	現職教育委員会，司書教諭，小・中連接推進事業推進者	道徳教育，生徒会・学級活動推進者，学年主任	生徒指導・生徒支援委員会，部活動・安全指導推進者

開かれた学校づくり --- 授業参観・保護者会の工夫，学校行事のオープン化，学校評価（自己評価，）の改善・活用，学校からの情報発信（各種たより，５校連Ｐとの密接な連携・協力）

平成２４年度　道徳教育全体計画

資料２

福島市立北信中学校

教育関係法規
- 日本国憲法　第13条，第14条
- 教育基本法　第1条・2条
- 学校教育法　第46条(21条)
- 学習指導要領　道徳

教育目標

「いのち」「こころ」「ことば」を大切にする指導・支援を基調として教育目標の達成を図る。

○ 確かな学力を身につける生徒
○ 豊かな心を身につける生徒
○ たくましい活力を身につける生徒

時代や社会の要請
- 国際化，情報化などの社会の変化への対応
- いじめや不登校などの問題行動の解消
- 生涯教育の推進

学校経営の努力目標

① 自ら学ぶ力を育てるために，自己学習力の育成に努める。
② たくましく生きるための健康や体力を身につけ，生き生きと活動できる生徒の育成に努める。
③ 信頼関係を基盤とした教育を推進するために，生徒一人一人の個に応じた援助指導に努める。
④ 心の豊かさを育むための教育環境の整備に努める

道徳教育の重点目標

心豊かに，生き生きと生活できる生徒の育成

- 生命を大切にする。
- 自他を認め合う。
- 正しい判断の上に立って自主的に行動し，自己の向上に努める。

道徳教育の方針
- 各領域と密接な関連を図りながら，人間としての生き方についての自覚を深め，生徒の内面に根ざした道徳性の育成を図る。
- 教師と生徒，生徒相互の人間関係を一層深め，家庭や地域社会との連携を図りながら，豊かな体験の場の確保に配慮する。
- 心豊かで生き生きと生活できる生徒の育成をめざし，発達段階に応じて規律ある生活態度の確立，自他の生命の尊重，思いやる心の指導に重点をおく。
- 本校の全体計画を常に見直して改善し実施するとともに，道徳の時間の確保に努め，多様な授業形態を取り入れる。

学年別指導の重点目標

１学年	２学年	３学年
・望ましい生活習慣を身につけ，節度と調和のある生活をするとともに，自主的・自律的に行動できるようにする。 ・生命の尊さを理解し，かけがえのない生命を大切にするようにする。	・中堅学年として自主的自律的に行動するとともに，個性を伸ばして充実した生き方を求めるようにする。 ・他の人々に対して敬愛の念を深め，思いやりの心を持って生活するようにする。 ・自然との関わりを深めるとともに，生命の尊さを理解し，かけがえない自他の生命を尊重するようにする。	・最高学年としての自覚を深め，より高い目標を立て，希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志を持つようにする。 ・温かい人間愛の精神を深めるとともに，謙虚に学ぶ広い心を持つようにする。 ・自然を愛し，生命に対する畏敬の念を深め，人間として強く生きることに喜びを見いだすようにする。

道徳の時間の指導方針
- 学校教育全体で行う道徳教育を補充・深化・統合する「かなめ」の時間。
- 道徳的価値及び人間としての生き方について自覚を深める。
- 生徒一人一人の道徳的心情を豊かにし，道徳的判断力を高め，道徳的実践意欲と態度の向上をめざす。
- 総合的な学習の時間など，体験的な活動と密接に関連させて指導する。
- ティームティーチングや役割演技，写真・ＶＴＲの使用，保護者や地域の人材の活用など創意工夫ある指導をする。

各教科	特別活動	総合的な学習の時間	生徒指導	進路指導
各教科の目標達成に努める中で，道徳的実践力の指導に留意する 体験的な学習や問題解決的学習を重視する。	集団生活を通して集団の一員としての自覚を高め，自主的実践的な活動を通して，人間としての生き方について自覚を深める。	問題を主体的に解決する力，情報収集や発表，討論する力を身につけ，定着させていく。 自分自身を見つめ，互いに認め合い，高め合うとともに，自分なりの価値観を育めるよう援助する。	共感的な人間関係の育成を図るとともに，生徒一人一人が目標を持って将来を展望し，自己実現が図れるよう援助する。	自分の特色や将来の生き方を考え，自分にふさわしい進路を選択するとともに，その実現に向けて努力する。

道徳的実践の場

教育環境の整備

道徳教育を効果的に進め，人間としての生き方についての自覚を深めるための，環境作りに努める。

- 人間関係の充実
- 校舎・校庭や教室の整備
- 言語環境の改善

豊かな経験

道徳的実践を促したり，育成したりするための豊かな体験の場の充実に努める。

- 各授業
- 学級活動，生徒会活動
- 部活動
- 様々な行事

家庭・地域社会などとの連携

家庭や社会との交流を密にし，協力体制を整える。

- 保護者や地域の人材を授業に活用
- 学校，学年，学級だより
- ＰＴＡ活動
- 学校，家庭，地域連絡会
- 体験活動

資料３

平成２４年度　第１学年　道徳　年間指導計画

道徳
指導の重点
心豊かで生き生きと生活できる生徒の育成を目指し，人間としての生き方についての自覚を深め，生徒の内面に根ざした道徳性の育成を図る。
作成上の工夫・配慮事項
総合的な学習の時間との関連を図りながら豊かな体験活動の場を確保するとともに，規律ある生活態度の確立，自他の生命の尊重，思いやる心の指導の主題を多く配当した。

月	価値項目 1	2	3	4	単元（題材・主題）名	時数
4	1			2	心がけたいこと ※ 違法，権利義務，社会の秩序と規律	2
5	3	5	2	3	広い心で 誠実な生き方 命を見つめ命を支える よりよい社会をめざして	4
6	1	3	3	4	集団生活の向上 ※人間の強さと気高さ，生きる喜び 正義を貫く 友情の尊さ	4
7		2 1			人間への愛 心と形	2
8	3				自主と責任	1
9			1	3 1	自然のすばらしさ ※ 公徳心，社会連帯の自覚 集団の中での協力	3
10		2 1		7 6	感謝と思いやり みんなのために ※ 礼儀，適切な言動 明るい家庭	4
11			2	8 5 2	ふるさとに生きる 働く喜び 権利と義務 生命の尊さ	4
12	5	2		10	反省と努力 世界の子供たちとともに やさしい心くばり	3
1	2	4	2		やり抜く心 男女の理解と協力 生きることの大切さ	3
2	2		3	9	※ 違法，権利義務，社会の秩序と規律 日本のよさ 広い心	3
3	4			7	※ 愛校心，校風の樹立 生きがいのある人生	2
計	7	8	6	14		３５

［ 内容 ］

1　主として自分自身に関すること
2　主として他とのかかわりに関すること
3　主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること
4　主として集団や社会とのかかわりに関すること

平成２４年度　第２学年　道徳　年間指導計画

道徳
指導の重点
心豊かで生き生きと生活できる生徒の育成を目指し，人間としての生き方についての自覚を深め，生徒の内面に根ざした道徳性の育成を図る。
作成上の工夫・配慮事項
各行事や総合的な学習の時間との関連を図り，体験活動の場とクロスしながら，内容項目４の「主として集団や社会とのかかわりに関すること」に関する主題を多く配当した。

月	価値項目 1	2	3	4	単元（題材・主題）名	時数
4	1			4	望ましい生活習慣 役割の自覚	2
5	5 4	2 5			思いやりの輪 人と人との交わり 自分を探そう 理想の実現	4
6	2 3		1	1	新しい命 着実にやり抜く意志 自立と責任 きまりを守る	4
7		4		5	健全な異性観 人々のために	2
8		1			礼儀の大切さ	1
9		3	1	2	よりよい社会の実現 友に学ぶ 人間の尊厳	3
10		3		8 9 10	郷土を愛する心 身近な日本の文化 真の友情 身近な国際理解	4
11	3	2	2	3	自然への畏敬 愛と感謝 公害に抗して 誠意ある行為	4
12		6	3	6	温かい家庭 人間の気高さ 感謝をあらわす	3
1		5	1	3	相手の立場で 差別・偏見の克服 かけがえのない命	3
2	5			5 10	友に支え合う 反省と向上 国境を越えた愛	3
3				10 7	人間みなきょうだい よりよい校風の樹立	2
計	7	9	5	14		３５

資料４

１年９組　道徳の指導計画

生徒の実態

○　男子１６名　女子１３名　計２９名である。全体的に明るく元気で，人なつこい生徒が多い。
　自分自身の考えをはっきりと発言し，行動力のある生徒が多い反面，まだまだ幼く，楽観的な面も見られことから，「規律ある生活態度の確立」を意識し，指導に取り組みたい。
　また，集団で行動する場合，悪気はないものの，今の自分自身の欲求や興味・好奇心を最優先して行動したり，行きすぎた沿道でお互いを傷つけ合ったりするような行動も見られる。そこで，「自他の生命の尊重」「思いやる心」に重点を置き，指導していきたい。
○　「自分自身の欲求を抑え，集団で一つのことを協力してやらなければならない」という意識を持たせることを日頃から大切にして，学級作りに努めたい。

指導の重点

○　心豊かで生き生きと生活できる生徒の育成を目指し，人間としての生き方についての自覚を深め，生徒の内面に根ざした道徳性の育成を図る。

配慮事項

○　総合的な学習の時間との関連を図りながら豊かな体験活動の場を確保するとともに，規律ある生活態度の確立，自他の生命の尊重，思いやる心の指導の主題を多く配当した。

月	価値項目 1	2	3	4	単元（題材・主題）名	時数
4	1			2	心がけたいこと ※ 違法，権利義務，社会の秩序と規律	2
5	3	5	2	3	広い心で 誠実な生き方 命を見つめ命を支える よりよい社会をめざして	4
6	1	3	3	4	集団生活の向上 ※ 人間の強さと気高さ，生きる喜び 正義を貫く 友情の尊さ	4
7		2 1			人間への愛 心と形	2
8	3				自主と責任	1
9			1	3 1	自然のすばらしさ ※ 公徳心，社会連帯の自覚 集団の中での協力	3
10		2 1		7 6	感謝と思いやり みんなのために ※ 礼儀，適切な言動 明るい家庭	4
11			2	8 5 2	ふるさとに生きる 働く喜び 権利と義務 生命の尊さ	4
12	5	2		10	反省と努力 世界の子供たちとともに やさしい心くばり	3
1	2	4	2		やり抜く心 男女の理解と協力 生きることの大切さ	3
2			3	2 9	※違法，権利義務，社会の秩序と規律 日本のよさ 広い心	3
3	4			7	※ 愛校心，校風の樹立 生きがいのある人生	2
計	7	8	6	14		３５

資料５

道徳の時間にかかる資料

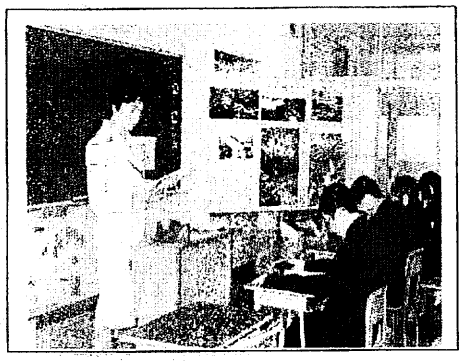
１　授業実践

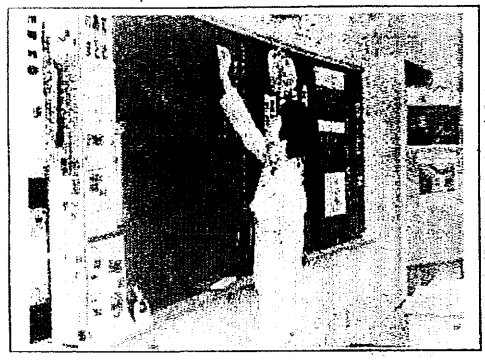
（１）　福島県中学校教育研究協議会

【第１学年】　八巻　智子先生

【主題名】『節度ある行動』，　【中心価値】「節度節制」

【資料名】「山に来る資格がない」（中学道徳１『明日をひらく』東京書籍）





①　授業者の自評

資料の選択と分析，提示では，ＨＵＭＡＮⅢ（新道徳性検査）によると，節度節制の項目が低いという結果がでたので，それを中心価値として資料を選択した。

手だての有効性については，山の写真を用いたり妙高山の標高などのデータを提示したり，登山のイメージを持たせる工夫をした。また，中学生の山の遭難記事も提示した。

授業は，教師対生徒の一問一答になってしまったので，突然生徒間の話し合いを入れた。やや中心価値を導くための誘導発問になってしまった。

ワークシートには，体験談が生き生きと表現されていた。

②　指導助言（福島県教育庁県中教育事務所指導主事　高橋みどり先生）

○　資料の選択は，はじめに生徒の実態を把握する。次に，授業者が資料からインパクトを受けたと言っていたが，そのような資料選択の仕方でよい。

○　授業は５０分なので，ねらいからぶれないことが必要。今回の導入時間は５分でよい。価値への方向づけをいかに端的に行うかを研究してほしい。

○　小学校からの発展性を念頭に入れて，中心価値を指導するとよい。道徳の時間は，考える時間にしてほしい。

【第２学年】　阿部　朋子先生

【主題名】『命の尊さ』，【中心価値】「生命の尊重」

【資料名】「奇跡の１週間」（中学道徳２『明日をひらく』東京書籍）

①　授業者の自評

ＨＵＭＡＮⅢ（新道徳性検査）では，項目３「主として自然や崇高なものに関すること」に落ち込みがあった。また，生徒が「死ぬ」「殺す」といった言葉を安易に口にする様子からも，生命の重さの実感が不足していると感じ，「生命の尊重」を中心価値にして授業を行った。

「生命の尊重」についてじっくり考えさせるために発問後の時間を十分にとり，考えさせる場面を設定した。しかし，時間が足りず，発問の難しさを実感した。

②　指導助言（福島県教育庁県北教育事務所指導主事　板橋　竜男先生）

○　資料分析表をつくると，資料にはさまざまな価値項目が含まれていることが分かる。中心価値を踏まえると，発問をどこに持っていくかがこの表の中から見えてくる。

○　資料の選択・導入の工夫については，よく考えられていた。特に，導入では，次の３つの効果的な工夫があった。

ア　始業前に脈拍を計ったこと

イ　「あと一週間しか生きられないとしたらどうするか」と問いかけたこと

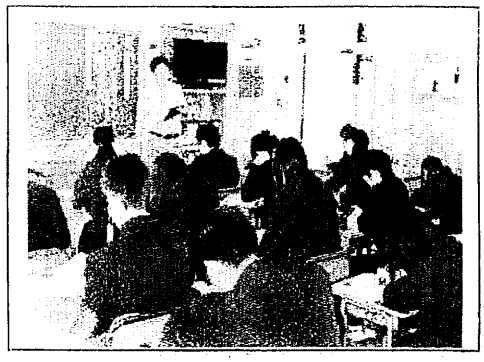
ウ　関心を高めるために最後にさし絵を提示したこと

○　今後の検討事項は生徒の姿の評価である。中心価値の生命尊重からぶれないようにしていくことが大切である。

【第３学年】　山内　崇司先生

【主題名】「試練が育てる友情」，中心価値「友情」

【資料名】「ライバル」（中学生の道徳３『自分をのばす』あかつき）



①　授業者の自評

ＨＵＭＡＮⅢ（新道徳性検査）では，項目２「主として他の人とのかかわりに関すること」に着目した。３学年の進路選択を前にして揺れ動く友人関係を見つめ直すのにふさわしい資料であると考え，この資料を選択した。

導入の工夫では，国語科で学習した「走れメロス」を取り上げ，メロスとセリヌンティウスの友情を想起させることで価値への方向づけと教科との関連づけを図った。

話し合いを活発化させるために，康夫が手紙を書くにいたるまでの心情の変化に焦点を当てた中心発問を投げかけた。

終末では，価値の深化につながるよう，自作ＤＶＤを作成し視聴させた。

②　指導助言（福島県教育庁義務教育課指導主事　渡邉　真魚先生）

○　導入が工夫され，「走れメロス」を用いたことで，教科との関連が図られていた。

○　資料の内容を時系列に確認させるのではなく，感動の中心にポイントを当てて切り込んでいくと効果的である。

○　ワークシートは道徳的思考を促すための作業であり，生徒に発表させるために書かせるものになってはいけない。

○　終末のＤＶＤに指導案の内容が凝縮されており，生徒へのサプライズとなった。

資料６

平成２５年度　北信中学校　道徳教育全体計画

教育関係法規

・日本国憲法　第13条、第14条
・教育基本法　第1条
・学校教育法　第21条
・学習指導要領　道徳

本校の教育目標

「いのち」「こころ」「ことば」を大切にする指導・支援を基調として、教育目標の達成を図る。

・確かな学力を身につける生徒
・豊かな心を身につける生徒
・たくましい活力を身につける生徒

時代や社会の要請

・国際化、情報化などの社会の変化への対応
・いじめや不登校等の問題行動の解消
・生涯教育の推進

学校経営の努力目標

①自ら学ぶ力を育てるために、自己学習力の育成に努める。
②たくましく生きるための健康や体力を身につけ、生き生きと活動できる生徒の育成に努める。
③信頼関係を基盤とした教育を推進するために、生徒一人一人の個に応じた援助指導に努める。
④心の豊かさを育むための教育環境の整備に努める

道徳教育の重点目標

心豊かに、たくましく生きる生徒の育成

・生命を大切にする。
・自他を認め合う、思いやりの心を育てる。
・正しい判断の上に立って自主的に行動し、自己の向上に努める。

道徳教育の方針

・各領域と密接な関連を図りながら、人間としての生き方についての自覚を深め、生徒の内面に根ざした道徳性の育成を図る。
・心豊かでたくましく生きる生徒の育成をめざし、発達段階に応じて規範意識や自律心のの確立、自他の生命の尊重、思いやる心の指導に重点をおく。
・前年度の研究により、「道徳の授業に積極的に取り組む教員」が３５％から６５％に向上したが、今年度も継続的な取り組みをしてさらなる向上をめざす。
・同様に、「道徳が好きな生徒」が６７％「道徳の授業で自分のことをよく考えている生徒」が７２％に向上しているので、これらの点もさらに向上するように道徳の授業を充実させる。

学年別指導の重点目標

１　学　年	２　学　年	３　学　年
・望ましい生活習慣を身につけ、節度と調和のある生活をするとともに、自主的・自律的に行動できるようにする。 ・生命の尊さを理解し、かけがえのない生命を大切にするようにする。	・中堅学年として自主的自律的に行動するとともに、個性を伸ばして充実した生き方を求めるようにする。 ・他の人々に対して敬愛の念を深め、思いやりの心を持って生活するようにする。 ・自然との関わりを深めるとともに、生命の尊さを理解しかけがえない自他の生命を尊重するようにする。	・最高学年としての自覚を深め、より高い目標を立て、希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志を持つようにする。 ・温かい人間愛の精神を深めるとともに、謙虚に学ぶ広い心を持つようにする。 ・自然を愛し、生命に対する畏敬の念を深め、人間として強く生きることに喜びを見いだすようにする。

道徳の時間の指導方針

・全体で行う道徳教育を補充・深化・統合する「かなめ」の時間。
・道徳的価値及び人間としての生き方について自覚を深める。
・生徒一人一人の道徳的心情を豊かにし、道徳的判断力を高め、道徳的実践意欲と態度の向上をめざすことにより、道徳的実践力から「道徳的実践」につなげる。
・体験的な活動と密接に関連させ、指導する。
・読み物資料の他、ティームティーチングや役割演技、写真・ＶＴＲ・ＤＶＤの使用、保護者や地域の人材の活用など創意工夫ある指導をする。

各　教　科	特　別　活　動	総合的な学習の時間	生　徒　指　導	進　路　指　導
各教科の目標達成に努める中で、道徳的実践力の指導に留意する 体験的な学習や問題解決的学習を重視する	集団生活を通して集団の一員としての自覚を高め、自主的実践的な活動を通して、人間としての生き方についての自覚を深める。	問題を主体的に解決する力、情報収集や発表、討論する力を身につけたり定着させていく。 自分自身を見つめ、互いに認め合い、高め合うとともに、自分なりの価値観を育めるよう援助する。	共感的な人間関係の育成を図るとともに、生徒一人一人が目標を持って将来を展望し、自己実現が図れるよう援助する。	自分の特色や将来の生き方を考え、自分にふさわしい進路を選択するとともに、その実現に向けて努力する。

道徳的実践の場

教育環境の整備

道徳教育を効果的に進め、人間としての生き方についての自覚を深めるための、環境作りに努める。

・人間関係の充実
・校舎・校庭や教室の整備
・言語環境の改善

豊かな経験

道徳的実践を促したり、育成したりするための豊かな体験の場の充実に努める。

・各授業
・学級活動
・部活動
・様々な行事

家庭・地域社会などとの連携

家庭や社会との交流を密にし、協力体制を整える。

・保護者や地域の人材を授業に活用
・学校、学年、学級だより
・ＰＴＡ活動
・学校、家庭、地域連絡会
・体験活動

資料７　　平成２４年度　第１学年　（１０）道徳　　（１１）学級活動

道徳 学活	道　徳	学　級　活　動
	指　導　の　重　点	指　導　の　重　点
	○　心豊かで生き生きと生活できる生徒の育成を目指し，人間としての生き方についての自覚を深め，生徒の内面に根ざした道徳性の育成を図る。	◎　望ましい集団活動や体験活動の場を確保し，自ら考え主体的に生活する習慣の育成に努める。 ◎　ガイダンスの機能を十分生かして指導にあたる。
	作成上の工夫・配慮事項	作成上の工夫・配慮事項
	○　総合的な学習の時間との関連を図りながら豊かな体験活動の場を確保するとともに，規律ある生活態度の確立，自他の生命の尊重，思いやる心の指導の主題を多く配当した。	○　生徒の発達段階および学校行事との関連に配慮し，自己の将来に対する意識を養うことができるよう工夫した。

月	主な行事（学校・生徒会）・総合的な学習の時間	価値項目 1	2	3	4	単　元（題材・主題）名 1 主として自分自身に関すること 2 主として他の人とのかかわりに関すること 3 主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること 4 主として集団や社会とのかかわりに関すること	時数	活動内容 1	2	3	単　元（題材・主題）名 1 学級や学校の生活づくり 2 適応と成長及び健康安全 3 学業と進路	時数
4	始業・入学式 ・オリエンテーション ② 新入生歓迎会 全校集会（任命） 部活動入部	1			2	心がけたいこと ※ 違法，権利義務，社会の秩序と規律	2	○ ○			○ 学級目標を決定する。（中学生活の決意） ○ 前期の学級組織を作成する	2
5	生徒総会 全校集会 （陸上激励会） 中間テスト 応援練習 ・校外学習を成功させよう ④	3	5	2	3	広い心で 誠実な生き方 命を見つめ命を支える よりよい社会をめざして	4	○ ○	○	○	○ 生徒総会議案書を検討する。 ○「学び方」を知ろう。（「道しるべ」の理解） ○ 充実した学級生活の実現に向けて話し合う。（「５つのやくそく」について） ○ う歯と健康について学ぶ。（歯科講話）	4
6	支部中体連選手激励会 全校集会 （表彰・吹奏楽激励） ・働くことを考えよう ⑥	1	3	3	4	集団生活の向上 ※ 人間の強さと気高さ，生きる喜び 正義を貫く 友情の尊さ	4	○	○	○ ○	○ 学ぶ喜びを知ろう。（学ぶことの意義） ○ 学習計画をたてる。（計画的な学習） ○ 健康な生活と安全　（生活習慣，食生活） ○ 予習復習の仕方について話し合う。	4
7	全校集会（表彰） 終業式		2 1			人間への愛 心と形	2	○		○	○ 夏休みの計画を作る。（有意義な夏休み） ○ 中学校生活を向上させるため話し合いをする。（学級生活の改善（１））	2
8	始業式 全校集会 （合唱・英語弁論激励） ・「職業人に聞く会」に向けて ⑤	3				自主と責任	1	○			○ 白雲祭の意義について話し合う ・白雲祭に参加しよう	1
9	生徒会立会演説会 応援練習 新人戦選手激励会			1	3 1	自然のすばらしさ ※ 公徳心，社会連帯の自覚 集団の中での協力	3	○ ○		○	○ 将来の希望を発表する。 ○ 前期の学級生活を反省し後期の学級組織を編成する。（後期学級組織作り） ○ 学級生活の改善に向けた実践内容を話し合う。（学級生活の改善（２））	3
10	全校集会 （任命・表彰） ・「心のケア」講演会 ① ・白雲祭を成功させよう ③		2 1		7 6	感謝と思いやり みんなのために ※ 礼儀，適切な言動 明るい家庭	4		○ ○	○ ○	○ 放射線について理解を深める。(1) ○ 放射線について理解を深める。(2) ○ 職業の条件と自分が希望する職業を理解する。（働く人々の姿） ○ 仕事に就く人々の考えについて調べ，話し合う。（働く人たちの仕事）	4
11	・「職業人に聞く会」に向けて ⑦ ・防災教育全校集会 ①			2	8 5 2	ふるさとに生きる 働く喜び 権利と義務 生命の尊さ	4	○	○	○ ○	○ 自分について理解する。（人と個性） ○「将来の希望」を発表し，自己分析をする。（自分の特色（１）） ○ 友達のよさを見つけ発表する。 ○ 歯磨き実習を通して健康について考える。（歯磨き実習）	4
12	・クリーン活動に向けて ② ・働くことを考えよう ④ 全校集会 終業式	5	2		10	反省と努力 世界の子供たちとともに やさしい心くばり	3	○	○	○	○ 冬休みの生活と学習の計画をたてる。（有意義な冬休み） ○「男は仕事・女は家庭」を考え話し合う。（男女の理解と協力） ○ 自分の特色をまとめ自分の希望する職業と適性を理解する。（自分の特色（２））	3
1	始業式 全校集会 （生徒活動） ・将来について考えよう ⑫	2	4	2		やり抜く心 男女の理解と協力 生きることの大切さ	3	○		○ ○	○ 学級生活の改善点を話し合う。（集団の一員としての心構え） ○ 悩みを共有し解決法を話し合う。（中学生としての自覚） ○ 自分の特色のまとめ（希望する職業と適性）	3
2	生徒総会 ３年生を送る会	2		3	9	※ 違法，権利義務，社会の秩序と規律 日本のよさ 広い心	3	○ ○		○	○ 進路計画の必要性を理解する。（進路計画の必要性） ○ 先輩の進路計画を学ぶ。（進路計画の立て方 (1)） ○ 生徒総会議案書を検討する	3
3	・次年度の課題を考えよう ④ 卒業式 修了式	4			7	※ 愛校心，校風の樹立生きがいのある人生	2	○		○	○ 進路計画を作成する。（進路計画の立て方 (2)） ○ １年間の学習と生活を反省し新年度の決意を発表する。（１年間を振り返って）	2
計	１年総合　５０	7	8	6	14	※：要教材開発	35	17	6	12		35

【県中地区】平田村立蓬田中学校

推進校紹介

学　校　名	石川郡平田村立蓬田中学校
所　在　地	石川郡平田村大字上蓬田字切山１番地
校　長　名	三　森　　朗
学校の教育目標	【基本目標】 自ら考え、正しく判断できる、心豊かなたくましい生徒の育成 〈具体目標〉 ・英知　　すすんで学習する生徒 ・友愛　　思いやりのある生徒 ・剛健　　健康でたくましい生徒
学級及び生徒数	７学級　１１４名
道徳教育にかかる取組みの概要	望ましい人間としての生き方を追求し、共によりよく生きようとする生徒の育成を目指し、「いのちを大切にし、共によりよく生きようとする生徒の育成」を主題に掲げ、魅力のある道徳の授業づくりについて研究、実践を行う。 主題に迫るために以下の４つの視点をおいて実践にあたるとともに、重点項目（○）を設定し、研究を深めることとする。 視点１　資料の選択や導入の工夫　○資料の選択、分析 視点２　授業展開の工夫　○言語活動の工夫 視点３　終末の工夫　○効果的な終末の工夫 視点４　授業と体験活動との関連　○道徳的価値の共有を図る工夫

１　研究テーマ

□研究主題　『いのちを大切にし、共によりよく生きようとする生徒の育成』
□副 主 題　『魅力のある道徳の授業づくりを目指して』

２　テーマ設定の理由

今日の少子化・核家族化、急速な情報化社会の進展に伴い、人・社会・自然との関わりが希薄になり、いのちの有限さやかけがえのなさを理解したり、実感したりする機会が少なくなってきている。また、東日本大震災を経験した今だからこそ、「生命の尊さ」や「いのちについて考える」ことのできる道徳教育を推進し、生徒の心の発達に寄与する教育活動が求められている。

また、本校では、「自ら考え、正しく判断できる心豊かなたくましい生徒の育成」という教育目標のもと、知・徳・体の調和がとれた、生きる力を身につけた生徒をはぐくむことを目指している。生きる力の核となる豊かな人間性を育てるのは、心の教育であり道徳教育である。そのためにも、全教育活動で行う道徳教育とその要となる道徳の時間を充実させ、いのちを大切にし、共によりよく生きようとする心をはぐくむ教育を実現することが求められている。

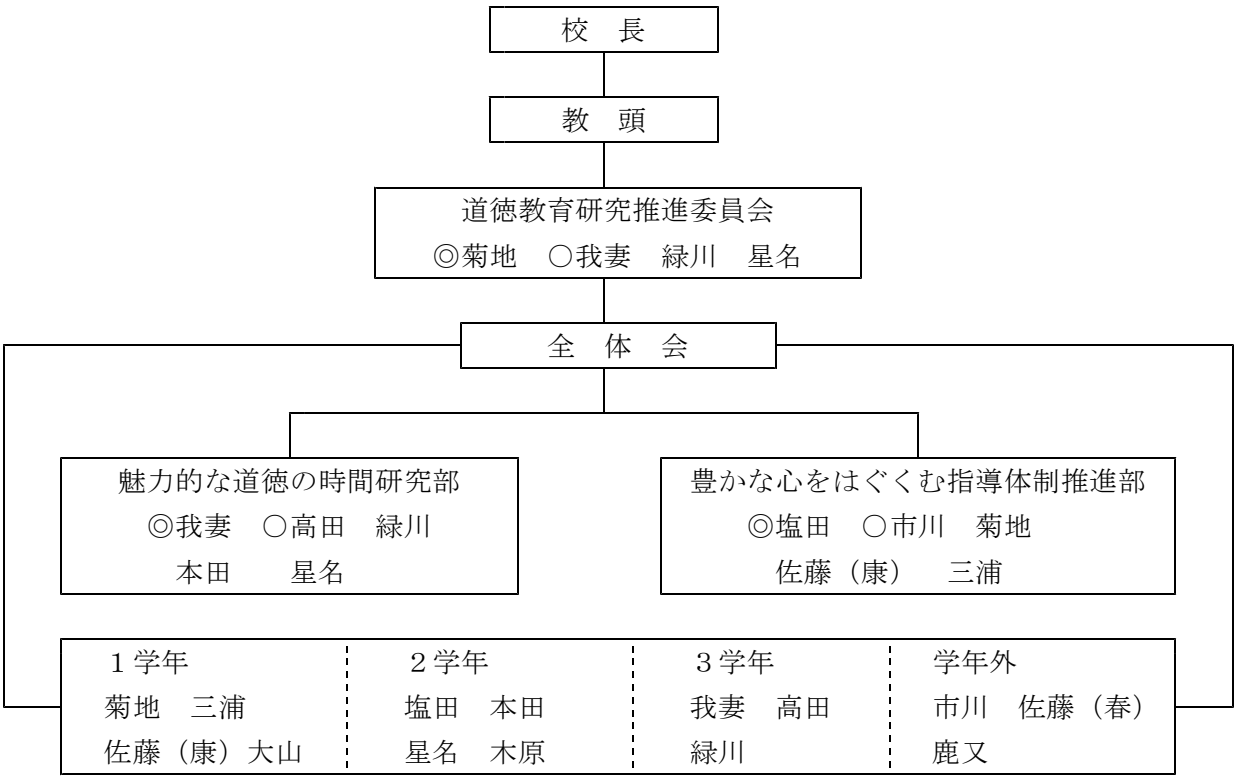
このような理由から、急激に変化していく社会において、人と協調しつつ自立的に社会生活を送ることができ、自他のいのちを大切にし、共によりよく生きようとする生徒の育成を目指して、研究主題を「いのちを大切にし、共によりよく生きようとする生徒の育成」と設定した。

３　研究計画

（１）年間計画

月	魅力的な道徳の時間 研究部	豊かな心をはぐくむ 指導体制推進部	体験活動 との関連
４月	□組織作り □研究目標・内容の検討	□組織作り □研究目標・内容の検討	□交通安全教室 （9日） □避難訓練（地震） （10日）
５月	□研究部の研究計画の立案 □指導案形式の検討 □学級の道徳教育全体計画作成 □授業ＧＴの選定	□実態把握調査内容検討 □研究部の研究計画の立案 □第１回実態把握調査・分析 □研究主題に関わる資料収集 □職員室ＧＴの選定	□避難訓練（22日） （不審者対応）
６月	□授業ＧＴの依頼 □第１回授業研究の計画 □第１回授業研究指導案検討 □授業ＧＴの活用	□効果的な資料の収集 □資料の検討 □校内研修会の実施①（18日） （職員室ＧＴ活用）	□福祉体験学習の 計画立案 □職場体験学習の 計画立案
７月	□第１回授業研究（6日） □第１回授業研究の反省 □授業ＧＴの依頼	□第１回授業研究のまとめ □教育講演会（13日） アクアマリンふくしま □指導方法の研究 □体験活動と道徳の時間の連携 体験活動の選定	□栄養改善教室 （2日） □救命救急法講習 会（11日） □保護者との連携 教育講演会 （13日）
８月	□第２回授業研究の計画 □第２回授業研究指導案検討	□２学期の研究の見通し □体験活動と道徳の時間の連携 関連価値項目の設定	
９月	□第２回授業研究（20日） □第２回授業研究の反省	□校内研修会の実施② □第２回授業研究のまとめ □公開授業の持ち方 についての検討	□福祉体験学習 （12日） □職場体験学習 （12、13日）
10月	□第３回授業研究の計画 □第３回授業研究指導案検討 □第３回授業研究（12日） □第３回授業研究の反省	□校内研修会の実施③ □第３回授業研究のまとめ	□交通安全教室 （5日）
11月	□道徳教育研究公開（20日） □道徳教育研究公開の反省	□道徳教育研究公開のまとめ □第２回実態把握調査・分析	□火災避難訓練 （2日）
12月	□成果と課題の洗い出し	□成果と課題の洗い出し	□携帯安全教室 （15日） □保護者との連携
１月	□研究のまとめと反省	□研究のまとめと反省	
２月	□次年度の重点指導内容の検討	□次年度の指導体制と その取り組み内容の確認	
３月	□来年度の研究構想の 提案・決定	□来年度の研究構想の 提案・決定	

（２）研究組織



４　生徒の実態及び地域の課題

本校生徒の実態として、素直で何事にもまじめに取り組み、与えられた事に対しては責任を持って取り組む生徒が多いことがあげられる。また、学校生活でも明るく楽しく生活している生徒が多く見られる。しかし、時として、日常生活において、危険な遊びや友達の心を深く傷つける言動など、自他のいのちの大切さを実感できない子どもの姿が少なからず見られる。

保護者や地域の人たちは、生徒の成長をとても真剣に考えており、温かく見守ってくれている。そのため学校に対する期待は大きい。しかし、子どもと真剣に向き合って話し合う時間は、どの家庭においても減少している。さらに核家族化が進み、いのちについて考える場面に相対する機会も少ない。

石川郡では、東日本大震災による被害は少なく、津波で命を奪われたり、家屋が倒壊し住むことができなくなったりということはなかった。放射線量も県内では低い方に入る。震災後、活動の制限は多少あったが、現在は通常の教育活動が行われている。そのような比較的恵まれた環境から、生命の尊厳について深く考えた経験が少ない。

５　道徳教育における校長の指導の方針　　（資料１）

（１）道徳の時間を要として、学校の教育活動全体を通じて道徳教育を行う。

①道徳の時間は、道徳教育における中核的な役割を果たすことを自覚し、道徳の時間の指導を充実させる。

○道徳の時間による「道徳的実践力」の育成

○ゲストティーチャーの活用

○道徳の時間の授業公開

②体験活動を重視し、道徳教育の充実を図る。

○職場体験学習や福祉体験学習などの道徳的実践活動を通して、道徳性の育成を図る。

③道徳教育の目標に基づき、道徳の時間との関連を考慮しながら、各教科や総合的な学習の時間、特別活動などの特質に応じた適切な指導を行う。

（２）道徳教育をコーディネートする道徳教育推進教師がその役割を十分に果たせるように、校内の協力体制を整え、教職員の研修意欲を高め、道徳教育の一層の充実を図る。

（３）生徒の実態から目指す生徒像を明らかにし、道徳教育の重点目標を設定して各学年ごとに具現化を図る。

６　平成２４年度　道徳教育の全体計画の特徴　（資料２）

○全体計画を道徳教育推進教師を中心に全教師の協力によって作成し、学校として一貫した道徳教育の組織的な展開ができるようにした。

○生徒の実態や保護者の願い、教師の願いを十分に考慮し、各学年の発達段階に応じて、道徳教育の重点目標・重点価値項目を設定した。

○重点目標を具現化するとともに、指導方針を明確にし教師間の共通理解のもと、学校の教育活動全体を通じて実践できる計画とした。特に、各学年間で系統性を持たせ、発達段階に応じて発展的に指導できるように計画の具現化を図った。

○各教科、特別活動、生徒指導、家庭、学級・学校環境、地域社会、小学校や高等学校との連携を総合的に示し、豊かな心をはぐくむ道徳の全体計画を作成した。

７　平成２４年度　道徳の時間の年間指導計画の特徴　（資料３）

○生徒の実態に合わせた資料を配当し、学校行事との関連も考慮して計画を作成した。年間を通して、系統性を持たせた発展的な指導ができるように主題を配列した。

８　平成２４年度　学級における指導の計画の特徴　（資料４）

○道徳教育全体計画に基づき、学級担任の願いや学級の実態を十分に考慮して、それぞれの学級における道徳教育の重点項目を設定した。

○学級における道徳の時間の指導方針をより具体的にすることで、道徳教育の重点目標が生かされるように配慮した。

９　道徳教育推進教師等における実践レポート　（資料５・６）

○道徳教育の指導計画の作成に関すること

生徒や保護者、地域の実態、行事や体験的な活動等を考慮しながら、全教職員が全体計画、指導計画の作成に主体的に参画できる体制を整え、検討・改善に取り組んだ。

○全教育活動における道徳教育の推進、充実に関すること

ＰＴＡ主催の講演会、総合的な学習の時間「福祉について考える」（１年）・「職場体験から考える」（２年）・「ボランティア活動から考える」（３年）を充実させ、道徳的価値を大切にした取り組みを全教職員で行えるように働きかけた。

○道徳の時間の充実と指導体制に関すること

道徳授業研究会を実施した（４回実施）。事前・事後研究会では、中心となって運営・助言等にあたり、道徳の授業の改善・充実を図った。また、全教職員で取り組めるような指導体制の工夫を図った。

○道徳教育の研修の充実に関すること

研修会において資料の提示を行い、道徳の授業に対する意識や指導力の向上に努めた。

＜配付資料＞　「中学校道徳における目標の分析の基盤となる考え」

「ゲストティーチャーの活用方法とポイント」
「展開前段のねらいと方法」
「展開後段のねらいと方法」
「授業に生きる事前指導」
「事後指導のねらいと方法」

１０　道徳の時間にかかる資料

○研究公開について　**（資料５）**
○研究授業に関する資料（指導案）　**（資料６，７）**

１１　平成２５年度　道徳教育全体計画の特徴　改訂版　**（資料８，９）**

○全体計画を道徳教育推進教師を中心に全教職員の協力によって作成し、指導の重点化や効率化を図れるようにした。
○生徒の実態（アンケート調査）から目指す生徒像を明らかにし、道徳教育の重点目標を設定し、各学年の発達段階に応じて、重点目標の具現化が図られるようにした。
○道徳の時間の指導方針を明確にし、３年間を見通した系統的・組織的な指導ができるようにした。特に、各学年間で系統性を持たせ、発達段階に応じて発展的に指導できるようにした。
○各教科、特別活動、総合的な学習の時間との関連、家庭、学級・学校環境、地域社会、小学校や高等学校との連携を示し、豊かな心を育む道徳教育の充実が図られるように全体計画を作成した。

１２　平成２５年度　道徳の時間の年間指導計画の特徴　改訂版　**（資料１０）**

○教育活動全体を通して行う道徳教育を充実させるために、道徳の時間を要として学校行事、総合的な学習の時間との関連を意識した計画とした。
○道徳の時間において、補充・深化・統合された様々な道徳的価値を、学校行事、総合的な学習の時間と関連させることにより、道徳的実践力が育成できるよう配慮した。
○総合的な学習の時間では、福祉体験活動（１年）、職場体験活動（２年）、ボランティア活動（３年）などの体験活動を重視し、道徳教育の充実が図られるように工夫した。
○本年度の重点価値項目の時数と配置を工夫し、道徳教育の重点目標の達成が図られるようにした。

１３　成果と課題

（１）成果

①　今年度、魅力のある道徳の授業づくりを目指して、導入・展開・終末それぞれの段階で視点を設け、豊かな心の育成を目指した授業を展開した。その取り組みから、年間３５時間の道徳の時間を、計画的にそして毎時間を大切に扱う雰囲気が高まり、授業力の向上につながった。さらに、職員室ＧＴを招聘し助言をいただいたことにより、全教職員が道徳教育の原点に立ち返り、共通理解のもと生徒の豊かな心の育成を目指して、実践研究を推進することができた。

②　授業ＧＴの活用においては、ねらいとする価値の自覚を深めるために、「どのような人材を」「どの場面で」「どのような方法で活用するか」といった視点から研究を行った。公開授業では、授業のねらいから、地元の警察官２人、パラリンピック車椅子バスケットボール選手と授業づくりにあたった。そのことによって、心が揺さぶられ、いのちについて真剣に考えようとする生徒の姿が見られた。このように、授業ＧＴの活用は、生徒の道徳的価値の自覚を大いに

深めることができ、とても効果的な指導法であることがわかった。

③　道徳の時間と体験活動との関連においては、体験活動における道徳的価値の気づきを、道徳の時間で補充、深化、統合する場面を設定した。そのことから、体験に基づいた自分の考えを発表したり、他者への思いやりをあらわす生徒の姿が多く見られた。また、学んだことを自分の生活に生かそうとする意欲の高まりが見られた。

（２）課題

①　授業展開の工夫において、言語活動を位置づけ、自分の考えや思いを書かせることは有効であり、伝え合う場面では、多くの生徒が発言できるようになってきた。今後は、多様な価値観を受け入れられるような学級づくりに力を入れていきたい。また、生徒が自らの成長を実感できるように、ある程度の期間にわたって、生徒のワークシート等を収集し、考えや思いの変容を自分自身で振り返り、確かめられる場面を設定することも必要であると考える。

②　道徳推進校として様々な授業ＧＴを活用させていただき、ねらいに迫るための活用方法を検討することで、大きな成果を残すことができた。一方で、授業ＧＴとの綿密な打合せの機会が必要であること、授業ＧＴの知識やスキルに個人差があることなどから、授業ＧＴを活用した授業には、教師の豊かなコミュニケーション能力と高度な指導力が問われるというシビアな側面があることを認識する結果となった。今後は、地域に目を向け、地域人材の活用や授業ＧＴの活用の仕方について研修を深めていく必要がある。さらに、同村や同地区との連携を図り、授業ＧＴリストを作成することも有効であると考える。

③　道徳の時間と体験活動との関連では、主に体験活動で気づいた道徳的価値を、道徳の時間において補充・深化・統合する手立てを講じた。そのことにより、生徒の道徳的心情が高まってきた。今後は、道徳の時間に深めた道徳的価値を、体験活動を通じて生徒が自分なりに発展させることができるような指導・支援の在り方を研究していきたい。

④　「いのちを大切にし、共によりよく生きようとする生徒の育成」という研究主題のもと、魅力のある道徳の授業づくりを目指して実践を重ね、多くの課題を教職員間で共有することができた。今年度の研究実践を次年度へとつなげ、生徒の豊かな心を育てるために、学校の教育活動全体を通じて、以下の視点から指導体制の整備を図っていきたいと考える。

１　道徳教育全体計画の改善

２　学校行事、総合的な学習の時間との関連を図った道徳の年間指導計画の作成

３　道徳的価値とその価値を深める教育活動の整理

（資料１）

平成２４年度　平田村立蓬田中学校学校経営・運営ビジョン

平田村の教育指針

すくすく　いきいき　未来を拓く　ひらたの教育
～人を愛し、故郷を愛し、
“生きる力”を身につけた、
健康でたくましい人間の育成～

☆ 世界に羽ばたき、故郷に貢献する人材の育成
☆ 小中一貫教育で確かな学力の保障
☆ ふるさと教育の実践

生徒の実態　（育てたい力）
○確かな学力　　○思いやりのある豊かな心
○自主・自立　　○困難を克服する強い意志

《　教　育　目　標　》

自ら考え、正しく判断できる、心豊かなたくましい生徒の育成

生　徒　像
（具体目標）

○　英知　～　すすんで学習する生徒
○　友愛　～　思いやりのある生徒
○　剛健　～　健康でたくましい生徒

◆ 目指す教師像
○教育愛と情熱に満ちた教師
○生徒とともに学び成長する教師
○研修に努め、授業に真摯に取り組む教師
○倫理観に満ちた自覚ある行動ができる教師

◆ 目指す学校像
○生き生きと躍動している学校
○教師と生徒が真剣に学習に取り組んでいる学校
○落ち着いて楽しく安定した生活ができる学校

学校経営方針

1　豊かな心と生きる力を育む教育を推進する。
2　生徒一人ひとりを大切にする人間尊重の精神を基盤として、教育活動を推進する。
3　教職員の専門性を尊重しながら個性と能力を結集した学校運営を推進する。
4　学習指導・生徒指導の充実を計画的・組織的に推進する。
5　保護者・地域との密接な連携・協力により信頼関係を醸成し、教育効果の向上を図る。
6　教職員のコンプライアンスの向上を図り、不祥事の絶無に努める。

基礎的・基本的な学習内容の着実な定着をめざすとともに、習得した内容を活用する力の向上を図る

個性や立場を理解し、互いに励まし合い、他人を思いやる豊かな心を育てる

心身を鍛え、強い意志を持ち、何事にも根気強く取り組む態度を育てる

学　校　目　標（本年度の重点）

英知（知）

【わかる授業の充実】
○学び合い、高め合う集団的思考学習を通した、わかりやすい授業を展開し、確かな学力の向上を図る
【進路目標の達成】
○進路計画の改善、資料の準備、指導法の改善に努める
○適切かつ充実した進路情報の提供に努める

◎家庭学習の習慣化を図り、学力向上に努めます。
○定着確認シートや学力テストの分析結果などを活用し、学力の実態に応じて学習形態を工夫しながら、基礎学力の定着を図ります。
○ＩＣＴを積極的に活用する授業の展開に努めます。
○各種コンクールを通して基礎・基本の定着を図ります。
◎集団的思考学習など習得した内容を生かす学習活動を通して活用力を育てます。
○総合的な学習の時間の職場体験学習や福祉共生の学習を通して職業観や生き方の指導を行います。
○一人ひとりの進路目標達成のため適切な進路指導に努めます。
◎読書活動を通して、豊かな心と柔軟な思考力を育みます。

友愛（徳）

【道徳教育の充実】
○全教師、全教育活動で行う体験活動を通して道徳教育の充実に努める
【生徒会活動の充実】
○主体的な生徒活動への取り組みを図る
【教育相談の充実】
○生徒一人ひとりの理解を深め、自己実現のための支援に努める

◎道徳的価値の高い資料などを活用し、充実した道徳の授業を実践します。
○自ら気付き、行動できる自主的な活動の充実を推進します。
○生徒主体の学校行事を通し、達成感のある取り組みをさせます。
◎蓬田中「三本柱」（あいさつ・校歌・清掃）を土台に学校生活の向上を図ります。
○学級活動、生徒会活動を通して集団生活の向上を目指します。
○ボランティア活動を通して奉仕の精神や豊かな心を育てます。
◎教育相談の充実に努め、生徒一人ひとりを理解し、楽しい学校生活が送れるよう支援します。

剛健（体）

【望ましい生活習慣の確立】
○節度ある学校生活の習慣化を図る
○安全・安心な生活指導の推進を図る
【主体的な運動への取り組み】
○日常的な運動習慣を形成して、体力の向上を図るとともに、困難に負けない強い意志を育てる

◎時と場に応じた適切な言葉遣いができるよう指導します。
○登下校における交通安全の指導を随時行います。
◎全員部活動入部のもと、積極的な取り組みをさせ、体力と忍耐力を育てます。
○避難訓練、交通安全教室、防犯教室等を通して、安全意識の高揚を図ります。
○「蓬中のしおり」に基づいた指導を徹底し、基本的な生活習慣を身に付けさせます。
◎大震災を想定した訓練を通して、危険回避能力を育てます。
○専門職（外部講師など）と連携した健康教育を実施します。
○清潔な身だしなみや衛生習慣の確立に努めさせます。

（資料２）

平成２４年度

道　徳　教　育　全　体　計　画

蓬田中学校

生徒の実態

・素直でまじめに取り組む。
・学校行事に積極的に参加する。
・係活動などに責任を持って取り組む。
・自主性や向上心が足りない。
・適切な言葉遣いやあいさつ、返事が十分習慣化していない。

保護者の願い

・善悪の判断をきちんと身に付けてしてほしい。
・誰に対しても思いやりを持って接してほしい。
・あいさつや礼儀をきちんと身に付けてほしい。

教師の願い

・思いやりのある生徒を育てたい。
・自主的に行動し粘り強く取り組める生徒を育てたい。
・節度ある学校生活の習慣化を図りたい。
・郷土を大切にする生徒を育てたい。

学　校　の　教　育　目　標

自ら考え正しく判断できる心豊かなたくましい生徒の育成
英知　**すすんで学習する生徒**
友愛　**思いやりのある生徒**
剛健　**健康でたくましい生徒**

日本国憲法・教育関係諸法規

・教育基本法　　・学校教育法
・その他関係法規、準則等
・関係教育機関の方針・目標等

学　習　指　導　要　領

社会の要請、白書、各答申等

道徳教育の重点目標

・より高い目標を持ち、何事にも根気強く自主的に取り組む生徒を育成する。
・礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動がとれる生徒を育成する。
・生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する。
・地域社会の一員としての自覚を持って郷土を愛する生徒を育成する。
重点価値項目　1-(2)　2-(1)　3-(1)　4-(8)

重点目標の各学年での具現化

１学年	・望ましい生活習慣を身につけ、自主的、自律的に行動できるようにする。 ・相手の人格を尊重し、相手に対して敬愛する気持ちを育成する。 ・生命の大切さを知り、自分や他人の命を尊重する心を育成する。 ・地域社会の一員として自覚を持ち、郷土の自然や文化について愛着を持たせる。
２学年	・強い意志を持って行動し、希望を持って何事にも粘り強く行動できるようにする。 ・時と場に応じた適切な言動を取ろうとする心情、態度を育てる。 ・生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重するようにする。 ・地域社会に尽くしてきた先人や高齢者への尊敬と感謝の気持ちを育てる。
３学年	・より高い目標をめざし、夢と希望を持って着実にやり抜こうとする意欲を高める。 ・公徳のモラルを大切にし、より望ましい社会を実現しようとする態度を育てる。 ・生命に対する畏敬の念を深め、人間として強く生きることに喜びを見いだすようにする。 ・郷土に対する認識を深め、郷土を愛しその発展に努めようする態度を育てる。

特　別　活　動

学級活動	望ましい生活習慣を身につけ、自分の役割を自覚し、協力して学校生活を送るための態度を育成する。
生徒会活動	よりよい学校生活を送るために､進んで活動に参加し、自分に与えられた役割を果たそうとする態度を育てる。
部活動	それぞれの個性を生かしながら、集団への所属感・連帯感を高める。
学校行事	諸行事に積極的に参加し、集団への自覚を深め、よりよい生活を築こうとする態度を育てる。

各　教　科

国語	人間としての生き方を古文・現代文を通して学習させる。
社会	歴史や社会の仕組みについて学習し、よりよく生きていこうとする精神を学習させる。
数学	問題解決に取り組むことにより忍耐力・遂行力を高める。
理科	自然に対する興味関心を高め、自然を愛護する心を育てる。
音楽	表現や鑑賞の活動を通して、豊かな情操や生きることの喜びを育てる。
美術	創造的な表現力を生かし、生活に役立てる力を身につけさせる。
保体	ルールを守り、協力して役割を果たす態度を身につけさせる。
技家	豊かな生活ができるようにその技術を身につけ、日常の生活に生かすことができる。
英語	国際協調の精神を学ぶと共に他国の文化を理解し、その良さを日常の生活に生かす。

生徒指導・その他

道徳性を育てるための、実践の場として捉え、指導する。
①登下校では、明るく元気よくあいさつし、きまりを守って登下校できるようにする。
②休み時間では、時間を守り時と場に応じた適切な行動ができるようにする
③給食では、あたたかな雰囲気の中で食事ができるようにする。
④清掃活動では、無言で、協力して学校をきれいにしようとする態度を育てる。

道徳の時間の指導の方針

・教育活動全体を通して行い、道徳教育の充実に努める。
・生徒とのよりよい人間関係を築き、道徳性の高揚を図る。
・地域や生徒の実態を踏まえ、全教職員の共通理解のもと、指導の重点化や効率化を図る。
・３年間を見通した、系統的・発展的な指導を実践していく。
・道徳の時間にあっては、時間の確保はもとより、学級の実態に応じて計画的に実践していく。

家庭との連携

家庭との連携を深め道徳的実践力を高める。
・学級、学年、学校だよりの発行
・学年ＰＴＡ活動、学年学級懇談会
・授業参観、奉仕作業

学級・学校環境

・教師と生徒、生徒相互の人間関係を豊かにする。
・言語環境を整え、時と場に応じた適切な言葉遣いができるようにする。
・あたたかな学級経営を目指す。
・より良い伝統を樹立する。

地域社会との連携

・地域の理解と協力を得るため、積極的に地域の活動に参加する。
・学校教育に対する協力が得られるようにＰＴＡとの連携を密にする。
・総合学習などを生かし、積極的に地域の人に学ぶ。

小学校や高等学校との連携

積極的に、情報交換を行い、互いに連携を密にし、小中高の課題を共有する。

平成２４年度年間指導計画　　（資料３）

(2) 道徳の指導計画

計画作成上特に工夫、配慮した事項	生徒の実態に合わせた資料を配当し、また、学校行事等との関連も考慮して、計画を作成した。3年間を通して、系統性を持たせ発展的に指導ができるように主題の配列を考慮した。

	第　1　学　年		第　2　学　年		第　3　学　年	
月	主　題　名	時数	主　題　名	時数	主　題　名	時数
4	・感謝、報恩 2-(6) ・自然の愛護 3-(2) ・誠実と責任 1-(3)	3	・身近な国際理解　4-(10) ・着実にやり抜く意志　1-(2) ・友に学ぶ　2-(3)	3	・生きる力　3-(1)　(1) ・集団と役割　4-(4)　(1) ・規則の意義　4-(1)　(1)	3
5	・生命の尊重 3-(1) ・正しい異性理解と人格の尊重 2-(4) ・個性や立場の尊重　2-(5)	3	・礼儀の大切さ　2-(1) ・望ましい生活習慣　1-(1) ・思いやる心　2-(2)	3	・希望に向かって　1-(2)　(1) ・郷土への思い　4-(8)　(1) ・仕事に生きる　4-(5)　(1)	3
6	・差別・偏見の克服　4-(3) ・人間愛、思いやり　2-(2) ・人類愛　4-(10) ・勤労、社会への奉仕　4-(5)	4	・母校の誇り　4-(7) ・人間の尊厳　3-(1) ・郷土を愛する心　4-(8) ・人と人との交わり　2-(5)	4	・感謝を伝える　2-(6)　(1) ・真の国際貢献　4-(10)　(1) ・自己を見つめる　1-(5)　(1) ・限りある命を　3-(3)　(1)	4
7	・望ましい生活習慣　1-(1) ・強い意志　1-(2)	2	・きまりを守る　4-(1) ・自分を探そう　1-(5)	2	・生活のリズム　1-(1)　(1) ・日本人の心　4-(9　(1)	2
8	・礼儀、適切な言動　2-(1)	1	・愛と感謝　2-(2)	1	・心の平和を求めて　4-(10)　(1)	1
9	・校風の樹立　4-(7) ・友情・信頼　2-(3) ・役割と責任の自覚　4-(4) ・公徳心　4-(2)	4	・温かい家族　4-(6) ・人間みな兄弟　4-(10) ・差別・偏見の克服　4-(3) ・感謝をあらわす　2-(6)	4	・畏敬の念　3-(2)　(1) ・差別偏見のない社会　4-(3)　(1) ・心の触れ合い　2-(1)　(1) ・母校を愛する　4-(7)　(1)	4
10	・家族愛　4-(6) ・自主自立　1-(3) ・節度節制　1-(1) ・思いやり　2-(2)	4	・ともに支え合う　4-(5) ・身近な日本の文化　4-(9) ・反省と向上　1-(5) ・新しい生命　3-(1)	4	・友情に支えられて　2-(3)　(1) ・家族の願い　4-(6)　(1) ・責任ある行動　1-(3)　(1) ・人間の弱さ醜さの克服　3-(3　(1)	4
11	・公正公平　4-(3) ・社会の秩序と規律　4-(1) ・生命の尊重　3-(1) ・郷土愛　4-(8)	4	・集団生活の向上　4-(4) ・自然と人間　3-(2) ・理想の実現　1-(4) ・誠意ある行為　1-(3)	4	・思いやりの心　2-(2)　(1) ・コミュニケーションの原点　2-　(1) ・生きがいを求めて　1-(4)　(1) ・生き抜く力　3-(1)　(1)	4
12	・公共の福祉　4-(5) ・理想の実現　1-(4) ・国際理解と平和　4-(10)	3	・相手の立場で　2-(5) ・健全な異性観　2-(4) ・人間の気高さ　3-(3)	3	・男女の人格の尊重　2-(4)　(1) ・差別を許さない心　4-(3)　(1) ・個性や立場の尊重　2-(5)　(1)	3
1	・誠実と責任　1-(3) ・生きる喜び　3-(3) ・個性の伸長　1-(5)	3	・公害に抗して　4-(3) ・人々のために　4-(5) ・よりよい社会の実現　4-(2)	3	・人間への慈しみ　2-(2)　(1) ・奉仕の心　4-(5)　(1) ・自分の生き方　1-(3)　(1)	3
2	・伝統の継承と文化の創造　4-(9) ・集団生活の向上　4-(4) ・生命の尊重　3-(1)	3	・自律と責任　1-(3) ・かけがえのない命　3-(1) ・国境を越えた愛　4-(10)	3	・人類への愛　4-(10)　(1) ・公徳のモラル　4-(2)　(1) ・命をいとおしむ　3-(1)　(1)	3
3	・畏敬の念　3-(2)	1	・自然への畏敬　3-(2)	1	・自然を守る　3-(2)　(1)	1
	計	35	計	35	計	35

学級における道徳指導計画　（資料４）

第１学年　組　担任

道徳教育の重点目標

○より高い目標を持ち、何事にも根気強く自主的に取り組む生徒を育成する。
○礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動がとれる生徒を育成する。
○ 生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の命を尊重する生徒を育成する。
○地域社会の一員としての自覚を持って郷土を愛する生徒を育成する。
重点価値項目　１－（２）　２－（１）　３－（１）　４－（８）

第１学年における重点目標の具現化

・望ましい生活習慣を身につけ、自主的、自律的に行動できるようにする。
・相手の人格を尊重し、相手に対して敬愛する気持ちを育成する。
・生命の大切さを知り、自分や他人の命を尊重する心を育成する。
・地域社会の一員として自覚を持ち、郷土の自然や文化について愛着を持たせる。

道徳の時間の指導方針

・教育活動全体を通して行い、道徳教育の充実に努める。
・生徒とのよりよい人間関係を築き、道徳性の高揚を図る。
・３年間を見通した、系統的・発展的な指導を実践していく。
・道徳の時間にあっては、時間の確保はもとより、学級の実態に応じて計画的に実践していく。

学級担任の願い

・相手の立場になって考え、思いやりを持って生活できる生徒を育てたい。
・心からのあいさつやていねいな言葉遣いができる生徒を育てたい。
・何事にも協力して一生懸命取り組める生徒を育てたい。

学級における道徳教育の重点

・相手の立場になって物事を考え、思いやりを持って行動できる生徒の育成に努める。
・心のこもったあいさつや言葉遣い、時間を守るなど基本的生活習慣が身につけられる生徒の育成に努める。
・集団の一員として、自分の役割を理解し、粘り強く取り組める生徒の育成に努める。

学級の実態

・素直な気持ちを持っている生徒が多い。
・とても明るく元気である。また、男女問わず仲良く生活している。
・時にけじめが付けられないときがある。

学級における道徳の時間の基本方針

・人間としての生き方についての自覚を深めるために、生徒の実態に即した資料の開発と指導方法の工夫に努める。
・共によりよく生きるための人間関係を構築し、認め合う雰囲気を高めるための言語活動の工夫に努める。
・道徳的実践力を高めるため、積極的に豊かな体験との関連を図る。

平成２４年度福島県教育委員会道徳教育総合支援事業『ふくしま道徳教育推進プラン』（資料５）

平田村立蓬田中学校道徳教育研究公開

１　期　日　　平成２４年１１月２０日（火）
２　会　場　　平田村立蓬田中学校
３　指導助言者　　福島県教育庁県中教育事務所指導主事　髙橋みどり　様
　　平田村教育委員会学校教育指導員　水野　岩雄　様
４　日　程

12:10	12:30~13:00	13:10~14:00	14:10~14:30	14:30~16:30
受付	開会行事（20′） 授業説明（10′）	研究授業（50′）	全体会（20′）	授業研究会（120′）

５　授業者
　高田　秀人　３年１組・道徳　生命の尊重3-(1)　「極限の救出劇」
　緑川　　修　３年２組・道徳　人間の強さ・気高さ3-(3)　「さよならのあとに」

＝研究協議の様子＝

【主催者あいさつ】

【学校長あいさつ】

【研究の経過：パネルによる掲示】

【増子恵美さんによる講話】

＝質疑応答～ゲストティーチャーの活用について＝

Q1：GT を見つけるための情報はどうやって集めたのか。GT との打合せは何回くらい行ったか。
A1：村教育委員会を経由通して県警に確認し、駐在所勤務の署員の方がいることがわかりお願いした。

Q2：GT がうまく子どもたちを揺さぶっていた。どのような役割をお願いしたのか。
A2：GT には（二者択一の）どちらかの意見が圧倒的に多くなった場合は、反対の意見から話してほしいとお願いしていた。

Q3：GT の話で資料を作ってもよかったのではないか。
A3：打合せが１回しかできず、非常に忙しい方だったので GT としての登場のみとした。

Q4：職員 GT のどう活用したか。
A4：２年生の授業の終末で３年生の担任が話をした。校長・教頭が GT になるのもいいと思う。

主題【かけがえのない生命】価値項目【３－（１）生命の尊重】

道徳学習指導案

日　時：平成２４年１１月２０日（火）５校時
場　所：３年１組教室　　指導者：高田　秀人

研究主題：いのちを大切にし、共によりよく生きようとする生徒の育成
副主題：魅力のある道徳の授業づくりを目指して

１　主題名　「かけがえのない生命」【３－（１）生命の尊重】

２　資料名　「極限の救出劇」（出典名：埼玉県教育委員会道徳教育資料集より一部抜粋）

３　主題設定の理由

（１）価値観・資料観

内容項目３－（１）では、「生命の尊さ」を理解し、自らの生命の大切さを深く自覚させるとともに、他の生命を尊重する態度を身につけさせることが大切である。

この資料は、釜石市で働く森さんが、自らが津波からの避難中であるにもかかわらず、危機にある他人の生命を救おうと危険を冒してまでも懸命に努力し救出を成功させた実話である。自分も生き、他人も救う。その姿から、かけがえのない自他の生命を尊重しようとする強い意志が感じられる資料である。

（２）生徒観

本学級の生徒数は男子１２名、女子６名の計１８名である。落ち着いていて、男女の仲も良く、気軽に話すことができる。しかし、道徳の時間では一部の生徒が積極的に発言することが多く、周りの生徒は聞き役に回ってしまい、全体での活発な意見交換ができないことがある。本時では、一人ひとりが意見を述べ、様々な考えに触れることにより、自分の考えをより広め、かつ深めるようにさせたい。

（３）指導観

平田村一帯は岩盤が強く、東日本大震災では原発事故を含め、あまり大きな影響を受けずに済んだため、大震災に関して実感がわかない生徒が少なくない。導入では、インパクトのある震災の映像を視聴して、資料に入りやすくなるように工夫した。また、ゲストティーチャー（ＧＴ）や他の生徒と意見交換できる時間を多く取って、自分の考えをより広め、かつ深めるようにさせたい。また、終末にＧＴの話を聞くことを通して、生命の尊厳についてより深く考えられるようにしたい。

４　本時のねらい

（１）本時のねらい

生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を大切にしようとする心情を育てる。

（２）研究主題・副主題との関連（各視点の重点項目との関わり）

視点１　映像を使って、資料への関心を高める。
視点２　ＧＴを含めたグループでの話合いの時間を確保する。
視点３　ＧＴの震災体験に関わる話を聞き、本時で考えたことを深めさせる。
視点４（指導計画）

道徳の時間	総合的な学習の時間	体験活動
３－（１）生命の尊重	ボランティア活動（事前）	教育講演会
３－（１）生命の尊重（本時）		
４－（５）勤労・奉仕	ボランティア活動（事後）	

５　学習指導過程

段階	学習活動・内容	形態	時間	主な発問と予想される反応（○基本発問 ◎中心発問）	○支援上の留意点 ◆各視点との関わり
価値の方向付け	１　東日本大震災の映像を見る。	一斉	3	・怖い。 ・痛ましい災害だ。 ・思い出したくない。	○授業の初めに全員で亡くなられた方に黙祷を捧げる。 ◆映像を使って、資料への関心を高める。
価値の追求・発見・理解	２　資料を読んで話し合う。 （１）資料を読む。	一斉	5		
	（２）森さんの行動に対する自分の考えを持つ。 ・「支持する」 ・「支持しない」 ・その理由	一斉	5	○森さんの命がけの行動をどう思いますか。その理由も書きなさい。 「支持する」 ・命がけで人を救った森さんはすごい。 ・見捨てたら後悔する。 ・森さんが行動しなかったら、多くの命がなかった。 「支持しない」 ・一人で無謀すぎる。 ・森さんはできる力があったからできただけだ。 ・もし森さんが死んでしまったら、森さんの家族はどう思うのか。	○森さんの行動は、命がけであることを強調する。 ○自分のネームプレートを黒板に貼り、全員の意見を明らかにする。
	（３）GTを含めたグループで、自分の考えを述べたり、他の人の考えを聞いたりする。 ・自分の考え ・他の人への反論 ・ＧＴの考え	ｸﾞﾙｰﾌﾟ	22	支持しない側への反論 ・もし自分の家族でも助けないのか。 ・自分が逆の立場なら、助けてもらえなくてもしょうがないと思えるか。 ・自分一人でできなくても、他の人と協力すればできるのではないか。 支持する側への反論 ・森さん自身も一度流されるぐらい危険な状況で、他人を助けられるのか。 ・もし助けられる人が２人いて、１人しか助けられない時は選べるのか。 ・自分の命を犠牲にして他人を助けて、残された家族は喜ぶのか。	○２つのグループに分け、それぞれにＧＴに入ってもらう。 ◆ＧＴを含めたグループでの話合いの時間を確保する。 ○教師が各グループから１名の司会者を指名し、その生徒が話合いの進行をする。
価値の内面的自覚	３　話合いを踏まえて、再度自分の考えをまとめる。	一斉	5	◎森さんの命がけの行動をどう思いますか。その理由も書きなさい。 「支持する」「支持しない」 ・自分だけで助けようとせず、周りにも協力してもらって、あきらめずに助けたい。 ・救出のための他の方法はないか、普段からそういった知識を学んでおく。 ・状況をよく見て、助けられるなら助けるが、無理なら避難するのはしょうがない。 ・自分は避難し、救助はレスキュー隊など専門の人に任せる。 ・自分の命と他人の命を比べられない。	○意見が変わった生徒や、理由が深まった生徒を意図的に発表させる。
価値の継続化	４　ＧＴから震災での体験を聞く。	一斉	10	○震災の現場で、実際に仕事にあたった方の話を聞こう。	◆ＧＴから震災体験の話を聞き、本時で考えたことを深めさせる。

【映像用いた導入】

【ひざのふれあう距離での話し合い活動】

【終末でのＧＴの説話】

【研究協議会での質疑応答】

公開授業の指導資料－２　　（資料７）

主題【人間の尊厳】価値項目【３－（３）強さと気高さ、生きる喜び】

道徳学習指導案

日　時：平成２４年１１月２０日　（火）　５校時
場　所：３年２組教室　　指導者：緑　川　　修

研究主題：いのちを大切にし、共によりよく生きようとする生徒の育成
副主題：魅力のある道徳の授業づくりを目指して

1　主題名　「人間の尊厳」【3－(3)人間の強さや気高さ、生きる喜び】

2　資料名　「さよならのあとに」(出典名：大野勝彦著『さよならのあとに』『両腕の賛歌』等)

3　主題設定の理由

(1)価値観・資料観

内容項目3－(3)の指導に当たっては、人間が持つ弱さ、強さや気高さを理解し、自分を奮い立たせることで、誇りある生き方、夢や希望など喜びのある生き方に近付けるということに目を向けられるようにしたい。

この資料には、不慮の事故で両腕を失った大野さんが、悲しみや苦悩を乗り越え、前向きに生きる姿が描かれている。事故で両腕を失うという困難を乗り越え、豊かな人生を送ろうとする大野さんの姿から、誇りある生き方のすばらしさについて気づかせることができる資料である。

(2)生徒観

男子11名、中国からの転入生1人を含む女子7名、計18名の学級である。先日行われた学校祭では、中心的役割を果たす生徒がいる一方、自分に自信が持てずに消極的になり、役割を引き受けることから逃げていた生徒もいる。生徒たちの姿からは、他人の活躍をうらやましく思うもどかしい心と、理想の自分を追い求め、それに近づこうとする気高い心の両方が見られる。今後は、内なる自分に恥じない誇りある生き方、夢や希望など喜びのある生き方を見いだせるようにさせたい。

(3)指導観

資料に登場する主人公の弱さや醜さを克服し、気高く生きようとする姿は、人間としての理想とする生き方である。しかし、ともすればそのような生き方は、生徒にとっては身近に感じられず、自分を奮い立たせることで誇りある生き方に近付こうという意欲付けにはなりにくい。そこで、ゲストティーチャー(GT)を招いて話を聞き、互いに質問をして答えるという相互交流の場を設定することによって、誇りある生き方、夢や希望などの喜びのある生き方を見いだそうとする意欲を育てたい。

4　本時のねらい

(1)本時のねらい

自己の弱さなどと向き合い、それを克服することで、生きる希望や喜びを見いだそうとする心情を育てる。

(2)研究主題・副主題との関連(各視点の重点項目との関わり)

視点１　資料に登場する主人公の作品を提示し、関心を持たせる。
視点２　他者の考えに触れる機会をつくる。
視点２　GTとの対話を通して、崇高な生き方を深く印象付ける。
視点４(指導計画)

道徳の時間	総合的な学習の時間	体験活動
3－(1)生命の尊重	ボランティア活動(事前)	教育講演会
3－(3)強さや気高さ、生きる喜び(本時)		
4－(5)勤労・奉仕	ボランティア活動(事後)	

5　学習指導過程

段階	学習活動・内容	形態	時間	主な発問と予想される反応 (○基本発問　◎中心発問)	○支援上の留意点 ◆各視点との関わり
価値の方向付け	1　資料に登場する主人公の作品を見る。	一斉	2	○この絵をどう思いますか。 ・上手な絵だ。 ・有名な人の作品かな。	○資料に登場する主人公の生き方に関心を持たせるように働きかける。 ◆主人公の作品を提示し、関心を持たせる。
価値の追求・発見・理解	2　資料1を読んで、両手を失った主人公について考える。	一斉	8	○主人公は「手をなくして(　)」と言った。主人公は何と言ったと思いますか。 ・不便、悲しい、辛い、悔しい。	○主人公がどんな気持ちで言ったのかを想像させる。
	3　資料2(映像資料)を見て、主人公について考える。	一斉	15	◎「もっと早く腕をなくせば良かった。」と言い切れる主人公はどんな人だと思いますか。 ・すごい人、がんばっている人、苦しみを乗り越えた人	○主人公が事故後、強く生きていること、気高く生きていることに気づかせる。 ◆他者の考えに触れる機会をつくる。
	4　人間の弱さなどを克服し、夢や希望をもち、前向きな生き方を実際にされている方(GT)と対話する。	一斉	20	・なぜ困難を乗り越えられたのですか。 ・昔から前向きな性格だったのですか。 ・今の夢は何ですか。	○GTの話の後に、質問する機会を設ける。 ◆GTとの対話を通して、崇高な生き方を深く印象付ける。
価値の内面的自覚・継続化	5　よりよい生き方について考える。	一斉	5	○今日の感想を書きなさい。 ・自分の生きているありがたみを感じ、前向きに生きていきたい。 ・今当たり前にできていることが幸せなことだとわかった。 ・自分にできることがもっとあるはずだと考え、一生懸命に生活していきたい。	○人間の尊厳について自分の考えを素直に書ける雰囲気をつくり、内面化を図る。

【絵を用いての導入】

【フラッシュカードを用いた表現活動】

【ＧＴによる説話】

【研究協議会での質疑応答】

平成２５年度

道　徳　教　育　全　体　計　画

蓬田中学校　（資料８）

生徒の実態

・素直でまじめに取り組み、学校行事にも積極的に参加する。
・係活動などに責任を持って取り組む。
・自主性や向上心の欠如また、自分のよさに気づけない生徒がいる。
・適切な言葉遣いやあいさつ、返事が十分に身についていない。

保護者の願い

・善悪の判断をきちんと身に付けてしてほしい。
・誰に対しても思いやりを持って接してほしい。
・望ましい生活習慣を身につけ、充実した生活を送ってほしい。

教師の願い

・基本的生活習慣の確立を図りたい。
・自主的に行動し粘り強く取り組める生徒を育てたい。
・生命を大切にし思いやりのある生徒を育てたい。
・郷土を大切にする生徒を育てたい。

各　教　科

国語	人間としての生き方を古文・現代文を通して学習させる。
社会	歴史や社会の仕組みについて学習し、よりよく生きていこうとする精神を学習させる。
数学	問題解決に取り組むことにより忍耐力・遂行力を高める。
理科	自然に対する興味関心を高め、自然を愛護する心を育てる。
音楽	表現や鑑賞の活動を通して、豊かな情操や生きることの喜びを育てる。
美術	創造的な表現力を生かし、生活に役立てる力を身につけさせる。
保体	ルールを守り、協力して役割を果たす態度を身につけさせる。
技家	日常の生活に生かし、豊かな生活ができるようにその技術を身につけさせる。
英語	異文化の良さを日常生活に生かすことができるよう、国際協調の精神を学ぶと共に他国の文化を理解させる。

学　校　の　教　育　目　標

自ら考え正しく判断できる心豊かなたくましい生徒の育成
英知　**すすんで学習する生徒**
友愛　**思いやりのある生徒**
剛健　**健康でたくましい生徒**

道徳教育の重点目標

・望ましい生活習慣を身につけ、節度を守り節制に心がける生徒を育てる。
・自己を見つめ、自己の向上を図り、個性を伸ばして充実した生き方を追究できる生徒を育てる。
・温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し思いやりの心をもつ生徒を育てる。
・生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する生徒を育てる。
・地域社会の一員としての自覚を持って郷土を愛する生徒を育てる。
重点価値項目　1-(1)　1-(5)　2-(2)　3-(1)　4-(8)

重点目標の各学年での具現化

一学年	・望ましい生活習慣を身につけ、自主的、自律的に行動できるようにする。 ・自己の優れている面などの発見に努め、自己の理解に努める。 ・自分も他の人もともにかけがえのない人間であるということをしっかり自覚できるようにする。 ・生命の大切さを知り、自分や他人の命を尊重する心を育成する。 ・地域社会の一員として自覚を持ち、郷土の自然や文化について愛着を持たせる。
二学年	・きまりある生活を通して、自らの生き方を正して行動できるようにする。 ・生徒相互の信頼関係を基盤として互いに指摘し合い、高め合う人間関係を作っていけるようにする。 ・人間愛に基づく他の人との関わりをもつことの大切さに気づかせるようにする。 ・生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重するようにする。 ・地域社会に尽くしてきた先人や高齢者への尊敬と感謝の気持ちを育てる。
三学年	・節度を守り、節制に心がけ、調和のある生活の実現に努めることができるようにする。 ・充実した人間としての生き方についての自覚を深め、自分のよさや個性を見いだしていくことができるようにする。 ・互いに支え合う経験を積みながら、思いやりの心と態度がはぐくまれていくよう工夫する。 ・生命に対する畏敬の念を深め、人間として強く生きることに喜びを見いだすようにする。 ・郷土に対する認識を深め、郷土を愛しその発展に努めようする態度を育てる。

日本国憲法・教育関係諸法規

・教育基本法　　・学校教育法
・その他関係法規、準則等
・関係教育機関の方針・目標等

学　習　指　導　要　領

社会の要請、白書、各答申等

特　別　活　動

学級活動	基本的生活習慣を身につけ、協力して学校生活を送るための態度を育てる。 主体的な生き方を考える態度を育てる。
生徒会活動	よりよい学校生活を送るために、進んで活動に参加し、自分に与えられた役割を果たそうとする態度を育てる。
部活動	それぞれの個性を生かしながら、集団への所属感・連帯感を高める。
学校行事	諸行事に積極的に参加し、集団への自覚を深め、よりよい生活を築こうとする態度を育てる。
生徒指導	全生徒が積極的に参加できる場を設定し、自主的・自律的な態度を育てる。
総合的な学習	問題の解決や探求活動に主体的・創造的に取り組む態度を育てる。 体験活動や調査活動を通して視野を広げ、自己の生き方を考えることができるようにする。

道徳の時間の指導の方針

・道徳の授業を要とし、教育活動全体を通して行い、道徳教育の充実に努める。
・生徒とのよりよい人間関係を築き、道徳性の高揚を図る。
・地域や生徒の実態を踏まえ、道徳教育推進教師の指導のもと、全教師での共通理解を図り、指導の重点化や効率化を図る。
・３年間を見通した、系統的・発展的な指導を実践していく。
・道徳の時間にあっては、時間の確保はもとより、学級の実態に応じて計画的に実践していく。
・地域の人材活用を図った授業を実践していく。

家庭との連携

家庭との連携を深め道徳的実践力を高める。
・学級、学年、学校だよりの発行
・学年ＰＴＡ活動、学年学級懇談会
・授業参観、奉仕作業

学級・学校環境

・教師と生徒、生徒相互の人間関係を豊かにする。
・言語環境を整え、時と場に応じた適切な言葉遣いができるようにする。
・あたたかな学級経営を目指す。
・より良い伝統を樹立する。

地域社会との連携

・地域の理解と協力を得るため、積極的に地域の活動に参加する。
・学校教育に対する協力が得られるようにＰＴＡとの連携を密にする。
・総合学習などを生かし、積極的に地域の人に学ぶ。

小学校や高等学校との連携

積極的に、情報交換を行い、互いに連携を密にし、小中高の課題を共有する。

道徳教育全体計画別葉　道徳の時間と各教科、領域の指導内容との関連　内容項目別（1年）　【一部抜粋】　（資料9）

内容項目2以降の例

1学年の重点内容項目	1－(1)望ましい生活習慣　1－(5)友達と向上、信頼の絆　2－(2)人間愛、思いやり 3－(1)生命の尊重　4－(3)郷土愛

作品内容＼教科・領域など	道徳	特別活動			教科									総合的な学習の時間	地域・家庭との連携
	出版社	学級活動	生徒会活動	学校行事	国語	社会	算数	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭	外国語		
3-(1) 生命の尊重	生命の尊さ いのちを見つめ いのちを支える 生きることの大切さ	健康と安全		身体測定 避難訓練 発表会参観等				動き続ける大地		尽くし生命を見つめて	生理機能の成熟 水泳				教育講演会
3-(2) 自然への畏敬	かけがえのない自然 自然のすばらしさ				新潟ばうたう	世界各地の人々の生活や環境 世界各地で学ぶ古代文明 物質文化、定住文化 国風文化、精神文化		身近な生物を観察しよう 植物の世界、大地の変化 身のまわりの物質 身のまわりの現象	「夏の思い出」 ・高原の美しさ	自然の形や色彩 自然の表情 隠された造形 土と炎の造形			U10 観光地から		
3-(3) 人間の強さと気高さ	広い心														
4-(1) きまりを守る	規則と義務			修学旅行 学習旅行 交通安全教室				身のまわりの物質 （各種実験）		手でつくる心	球技 「バレーボール」 「サッカー」 「バスケットボール」	ガイダンス B-3 環境をしよう	U9 ケーブルカーに乗って		携帯安全教室
4-(2) よりよい社会の実現	よりよい社会を 目ざして						方程式 何倍高まったかな					A－3 技術と ものづくりの未来			
4-(3) 公正公平、 差別・偏見の克服	広場を開く					アジアの他民族国家 ヨーロッパの他民族国家 南アフリカの人種隔離政策 アメリカの他民族国家 オーストラリアの移民政策		身のまわりの現象 （音の世界コラム）						福祉体験 学習	
4-(4) 集団生活の向上	集団の中での協力 集団生活の向上	学級目標決定 生徒会組織の構築 学級目標決定	対面式 全校集会 生徒会専門委員会 生徒会総会					身のまわりの物質 （溶液実験など）			集団行動			表現・創作 活動	
4-(5) 勤労、社会への奉仕	奉仕の精神 動く喜び	動く目的 職業調べ		受検作業 地域ボランティア		正しい市の形成に向けて						A－2 製品の製作		福祉体験 学習	総合奉仕作業
4-(6) 家族愛	明るい家庭				家族に関する作品を作ろう							A-1 わたしの成長 と家族	L.R Over the Horizon	福祉 （探求活動）	親子レク
4-(7) 学校や、校風の創立	みんなのために		選手会行事	学校作業					校内合唱コンクール （学級選曲・練習） ・歌声合唱の楽しみ	文字や絵で伝える			W.P.1 学校の ホームページ		
4-(8) 郷土愛	ふるさとに生きる 郷土を愛する心 （あかつき）							大地の変化	日本の民謡と舞踊	環境を演出する アートたち		B-4 地域の食材 と食文化		福祉 （まとめ） 地域文化	
4-(9) 愛国心	伝統や文化の継承			学習旅行	江戸からのメッセージ いろは歌、義清の心の歌	日本の偉人に学ぶ	平面図形 しきつめ模様をつくってみよう	金属と非金属 大地の変化 植物の世界	歌曲「八段の旗」 歌曲「さくらさくら」	「和風」を味わう 日本の色づかい			U8 お祭り大好き U11 1年の思い出	地域文化	
4-(10) 国際理解と平和、 人類愛	世界の人々のために							大地の変化 （世界の火山、地震）	交響詩「我が祖国」 から「ブルタバ」	アジアの多様な造形			U7 サンフラン シスコの学校		

（資料１０）

平成２５年度　道徳・学校行事・総合的な学習の時間　連動表　　第１学年

計画作成上特に工夫・配慮した事項

○　教育活動全体を通して行う道徳教育を充実させるために、道徳の時間を要として学校行事、総合的な学習の時間との関連を意識した計画を考えた。

○　道徳の時間では、1-(1) 1-(5) 2-(2) 3-(1) 4-(8)を重点指導事項としてとらえ、生命の尊重を基盤として個性の伸長や郷土を愛する心を育てられるように計画した。また、道徳の時間において計画的、発展的な指導によって補充・深化・統合された様々な道徳的価値が、学校行事や総合的な学習の時間における道徳教育と響き合うことにより、道徳的実践力の育成が図られるように配慮した。

○　総合的な学習の時間では、「福祉体験学習」を中心に、「視野を広げよう」「表現・創作活動」「地域文化」との関連を図り、ねらいとする価値の自覚を深められるような配列にした。

月	行事・時数等			道　　徳			総合的な学習の時間		
	＊学校行事　★生徒会	日	時	内　容　項　目	時		学　習　内　容	時	
4	＊始業式、入学式	1		・礼儀・適切な言動 2-(1)	1	3	1 視野を広げよう	7	
	★対面式		2	・自然愛護 3-(2)	1		学習テーマの設定		1
	＊身体測定		2	・生命尊重 3-(1)	1		学習テーマの追求		2
	＊第１回交通安全教室		1				まとめ		4
	＊学習旅行	1							
	＊地震対応避難訓練		1						
5	＊不審者対応避難訓練		2	・役割と責任の自覚 4-(4)	1	3			
	★生徒会総会		2	・異性理解 2-(4)	1				
				・個性や立場の尊重 2-(5)	1				
6	＊中体連県南大会	2		・強い意志 1-(2)	1	4	2 福祉	26	
	◆期末テスト		5	・公徳心 4-(2)	1		オリエンテーション		1
				・人間愛、思いやり 2-(2)	1				
				・反省と向上 1-(5)	1				
7	＊全校絵を描く会		5	・基本的生活習慣 1-(1)	1	2	学習テーマの設定		1
	＊愛校作業		1	・愛校心 4-(7)	1		探求活動		2
	＊終業式		1						
8	＊始業式		1	・勤労・奉仕 4-(5)	1	1			
	＊愛校作業		1						
	＊合唱、英弁発表会		1						
9	＊中体連支部新人戦	1		・思いやり 2-(2)	1	4	探求活動		1
	＊地域ボランティア活動		2	・公正・公平 4-(3)	1		福祉体験		14
				・生きる喜び 3-(3)	1		まとめ		4
				・郷土愛 4-(8)	1		発表会		2
							振り返り		1
10	★生徒会役員選挙		1	・節度・節制 1-(1)	1	4	3 表現・創作活動	10	
	＊第２回交通安全教室		2	・友情　2-(3)	1		学校祭に向けて		10
	◆中間テスト		5	・誠実と責任 1-(3)	1				
	＊全校レクリエーション		4	・集団生活の向上 4-(4)	1				
	＊学校祭	1							
	＊芸術鑑賞教室		2						
11	＊火災避難訓練		2	・理想の実現 1-(4)	1	4			
	◆期末テスト		5	・反省と向上 1-(5)	1				
				・生命尊重 3-(1)	1				
				・社会の秩序と規律 4-(1)	1				
12	＊愛校作業		1	・公共の福祉 4-(5)	1	3			
	＊終業式		1	・感謝 2-(6)	1				
				・国際理解と平和 4-(10)	1				
1	＊始業式		1	・個性の伸長 1-(5)	1	3			
	＊愛校作業		1	・家族愛 4-(6)	1				
				・生命尊重 3-(1)	1				
2	◆学期末テスト		5	・郷土愛 4-(8)	1	3	4 地域文化	7	
	★生徒会総会		2	・畏敬の念 3-(2)	1		学習テーマの設定		1
				・伝統文化の継承 4-(9)	1		郷土の特徴・文化調査		3
3	＊卒業式予行		2	・感謝 2-(6)	1	1	まとめ		2
	＊卒業式	1					発表会		1
	＊愛校作業		1						
	＊修了式		1						
計	＊７日３５時間 ★８時間			３５時間			５０時間		

【県南地区】矢祭町立東舘小学校

推進校紹介

学　校　名	東白川郡矢祭町立東館小学校
所　在　地	東白川郡矢祭町大字東舘字下上野内１０
校　長　名	吉田　和賀子
学校の教育目標	進んで学び合う子ども 夢をもち共に生きる子ども 健やかでたくましい子ども
学級及び児童数	普通学級６（１３３名）　特別支援学級１（２名）
道徳教育にかかる取り組みの概要	道徳教育の全体計画、学級における道徳の指導計画を十分に活用し、学校教育全体を通して豊かな体験を育み、家庭や地域との連携を密にして、規範意識の向上や道徳的実践力の育成に努める。

【計画書（概要）】

１　研究テーマ

県道徳部研究主題
道徳的価値の自覚と自己の生き方についての考えを深める指導の充実

東舘小研究テーマ
確かに自己を見つめ、判断力と道徳的実践力を高める授業の工夫
～道徳の時間の特質を活かした指導を通して～

２　テーマ設定の理由

（１）今日的課題から

現代社会では、目の前の課題や問題などに遭遇し、それらのよりよい解決を迫られたときに、自分で考え判断し、行動し、様々な状況に柔軟に対応していく能力が求められている。これからの未来を生きていく子どもたちに対して、社会の多様な変化に対して自己を見失わずに、自主的・自立的に判断して対応していく能力を育成していくことが学校教育の課題である。

道徳教育の要である道徳の時間については「自己の生き方について考えを深める」ことが新たに加えられた。指導要領解説道徳編では、「自己を肯定的に受け止めること→自己の特徴を知り、自己を見つめること→現在の生活及び将来の生き方の課題を考え、自己実現の思いや願いを深める」といった指導を道徳的価値の自覚を深めていく中で、自己の生き方についての考えも深めていくようにすることが述べられている。道徳の時間が人間としてのあり方や生き方の礎となる道徳的価値について学び、それを自己の生き方に結びつけながら自覚を深め、道徳的実践力を育成するものであることを明確にしている。

しかし、現代の子どもの心と体をめぐる状況は決してよい状態にあるとはいえない。自制心や規範意識が希薄化し、生活習慣の確立も不十分である。さらに、国際比較調査では自尊感情や自分に自信をもつ子どもが少なく、学習や将来の生活に対して漠然とした無気力感や不安感を抱いている子どもが増加傾向にある。また、人間関係を構築する力が十分でないとの指摘もある。

以上を踏まえて、自己の生き方について考えを深めるためには、授業を通して深まったり広がったりした道徳的価値観に対して、これまでの自分だけでなく、これから先の自分とのかかわり方を考えさせるとともに、道徳的実践・意欲への一歩踏み込んだ指導が重要であると考える。

（２）本校教育目標具現化の視点から

「道徳的実践力を育てる事を目的とする道徳の時間においては、その特質を十分に理解して、教師の一方的な押しつけや単なる生活経験の話合いなどに終始することのないよう特に留意し、それにふさわしい指導の計画や方法を講じ、指導の効果を高める工夫をすることが大切である。道徳的実践力は、徐々に、しかも、着実に養われることによって、潜在的に持続的な作用を行為や人格に及ぼすものであるだけに、長期的展望と綿密な計画に基づいた丹念な指導がなされなければならない。」〈道徳解説書Ｐ３１〉

本校では、「自分の思いや考えを豊かに伝え合い、ともに生きる子どもを育てる」を心の教育のテーマとして掲げている。また、そのための努力目標として「夢をもち、生き生きと自己有用感をもった子どもを育てる。」「規範意識をもち、豊かな道徳性を伴った判断力と実践力のある子どもを育てる。」ことに取り組んでいる。これらの重点目標を踏まえ、道徳教育の全体計画や学級における道徳の指導計画を十分に活用を図るとともに、各教科、特別活動、総合的な学習との関連を図りながら、道徳的実践力の育成に努めていくことが重要であると考え、本主題を設定した。

３　研究計画

（１）研究の対象　＜本校児童　１３５名＞

○研究の方法

ア　道徳性意識調査

イ　文献研究

ウ　検証授業

エ　児童の変容の把握

オ　授業後の分析・考察

（２）研究計画

①　事前研究の段階（４月～９月）

ア　児童の道徳性に関する実態調査

イ　研究主題の設定

ウ　文献研究

エ　仮説の設定

②　検証の段階（９月～１１月）

ア　指導計画の作成

イ　指導案作成

ウ　検証授業

・矢祭町心の教育推進委員会研究協議会（６月１５日）全学年

・図書館との関連を図った授業の実践（７月１７日）第４学年

・授業参観における道徳授業の公開（９月１３日）第１・２・３学年

・東白川小学校教育研究会秋の研究協議会における授業の公開（１０月１７日）第２学年

・ゲストティーチャーを招聘しての授業（１月下旬）

③　整理の段階（１２月～１月）

ア　児童の変容

イ　結果の分析と考察

ウ　研究のまとめと反省

（３）検証計画

○　道徳の時間において話し合いの様子を観察したり、ワークシートを分析したりすることにより、児童の道徳的価値に対する変容と道徳的実践力の高まりを捉える。

４　児童の実態及び地域の課題

本校児童の実態は、明るく元気で、指示されたことに対しては素直に従うことができる。また、縦割り活動を重視した取り組みを行っているので、学校全体で協力性や連帯感が育まれている。しかし一方では、自分の気持ちや思いを言葉や態度で表現することが苦手であったり、自分で自分の限界を決めてしまい、粘り強く取り組もうとすることに消極的であったりする場面が見られる。全体的に、個人としては善悪の判断力はあるものの、集団となるとその集団の雰囲気に流されてしまい、正しい判断ができなくなってしまう傾向も見られる。地域は山々に囲まれ豊かな自然環境に恵まれた小さな町である。近くには全国から図書が寄せられた「もったいない図書館」があり、学習環境にも恵まれている。三世代同居の家庭が多く、子どもたちは基本的な生活習慣は身についているものの、自分のことは自分でするという意識やあいさつ、礼儀がが十分身についているとはいえない。保護者は、学校に対して協力的であり、子どもの学習や友達関係に関しても、関心が高い。このような実態を踏まえ、本年度の重点目標を学校教育全体を通じて、より高い判断力と豊かな表現力を身に付けた児童の育成を目指して共通理解を図りながら取り組んでいる。

５　道徳教育における校長の指導の方針　（資料１）

学校教育全体を通して豊かな体験に基づく人間尊重の精神を基盤とした「心の教育」と「規範意識」を醸成するために、各教科、特別活動、総合的な学習の時間との関連を図った道徳の時間の充実を図ること。また、美しいものや自然に感動する心、我が国の郷土の歴史、文化・伝統に対する理解とこれらを愛する心の育成を目指している。

６　平成２４年度　道徳教育の全体計画の特徴　（資料２）

まず、「道徳教育の全体計画」というは、道徳教育の目標を具現化するための重点目標の設定が大切である。本校では、次の３点を具体的に設定している。

① 学校の教育目標や特色を生かして重点的な指導ができるようにすること。
② ブロック重点目標の策定と家庭・地域社会との連携など、道徳教育の相互の関連を図るようにしていること。
③ 体験活動による道徳的価値への気づきを重視するとともに、「道徳の時間」の基本方針や「指導の工夫」を設定していること。

７　平成２４年度　道徳の時間の年間指導計画の特徴　（資料３）

指導の時期、主題名、ねらい、資料を一覧にした配列表になっているのが実情である。「展開の大要」は、ここ数年は、十分に見直しを行っていなかったので、本年度の課題として検討していきたいと考えている。

年間指導計画の作成に当たっては、重点内容項目を◎として、学年の児童の発達段階や系統と発展を考慮し、各学年において年間２～３時間配当している。また、新設された価値項目や改善された内容項目を踏まえて位置づけを図り、「自己の生き方」に関するねらいや展開、資料の見直しを行っている。

８　平成２４年度　学級における指導の計画の特徴　（資料４）

学級ごとに指導の重点内容項目を設定し、児童の道徳的実践力が培われ、道徳的実践が行われる基盤づくりとして、具体的な指導の重点項目や主題を記入するようになっている。さらに、道徳の時間の指導方針を各教科、特別活動、総合的な学習の時間とのかかわりを考えて設定しているのが特徴である。

９　道徳教育推進教師等における実践レポート

ア　道徳教育の指導計画の作成に関することについて

道徳教育は、学校の教育活動全体をとおして行うものである。そのためには、学校の全体計画・年間指導計画のもと、計画的・発展的な指導することや他教科との関連を図ることが求められる。

今までの指導計画は、資料名による主題配当だけで、価値項目が分かりづらかった。そこで、資料名や価値項目、体験や人材、他教科との関連を記入する枠を設定し、見通しをもって計画的に取り組めるよう指導計画の改善を提案した。

（例）　　第４学年

主　題　配　当				
計画作成上、特に工夫した事項	物事の善悪を判断する力や生命を大切にする心情を育むとともに、基本的な生活習慣や社会生活上の決まりが身に付くよう配慮した。			
月		時数	指導内容	体験・人材、他教科との関連
４	◎みんなのルール ○日本のお父さん・お母さん ○江戸のエコライフ	３	規則の尊重･公徳心 家族愛 愛国心と国際理解	体育（ゲーム）、係活動 父の日、母の日 社会（ゴミの処理と利用）

ウ　道徳の時間の充実と指導体制に関することについて

今年度７月に、第４学年で「死」という現実感が乏しい子どもたちに人の命の尊さと、多くの人々に見守られて今の自分が存在すること、友達や周りの人々の命も自分と同じくらいかけがえのない大切なものであることに気づかせるために、本校の近くにある施設である「もったいない図書館」の司書の方と協力して授業を実践した。

特に、導入段階で阪神・淡路大震災について当時の写真を提示していただき、視覚的に当時の緊迫した様子を伝えていただいた。また、展開後段では「はるかのひまわり」の実際の絵本の紹介、当時の小学生の作文、震災に遭ったおばさんのお話を紹介していただくことによって、児童が命について深く自己を見つめられる（他者理解、価値理解）ことができた。

カ　授業公開など家庭や地域社会との連携に関すること

○　道徳の授業参観

【第２学年】

１０　道徳の時間にかかる資料　（資料５・６・７・８）

○　矢祭町心の教育推進協議会における全学級の道徳の授業公開

平成２４年６月１５日（金）に本校において、町内の小・中学校の先生方が一堂に会し、道徳の授業公開および事後研究会を行い、道徳の授業のあり方について研修の場を設けた。道徳の時間における価値に迫るための適切な資料、子どもたちの内面に響くような手だて等について協議がなされ、今後の道徳の授業のあり方など方向性が明確になってきた。

＜授業に関する主な成果（○）と課題（●）＞

（１）「道徳の時間の特質を活かす」について

○　登場人物の気持ちをいろいろな角度から考えさせるような問いかけをしたことによって、児童はさまざまな立場に立って、思いや考え方に気付くことができた。

●　自分の普段の生活の中から、自分の改善すべき行動に気付けない児童も見られた。普段の生活の中で、自分がしていることを常に振り返らせる機会を与えていく必要性を感じた。

（２）「多様な指導方法の工夫」について

○　資料を提示する際には、パネルシアター形式で行ったところ、児童はストーリーや登場人物の会話に興味を持ち、話の内容もよく理解して、意欲的にそれぞれの登場人物の気持ちを考えることができた。

○　ゲストティーチャーのお話を直接聞くことで、普段自分たちがいかにボランティアの方々に見守られているかがよく理解でき、価値についてより具体的に捉えることができた。

●　資料の提示の際、児童の多様な価値観を引き出せるよう精選することが大切である。

●　ゲストティーチャーの話し方については、低学年という実態を考慮し、担任がインタビューをしたりするなどわかりやすい話し方の形態を用いるべきであった。

（３）「自分の生き方についての考え方やより高い判断力を養う」について

○　登場人物の気持ちをワークシートに書かせ、発表させたことで、自分では気付かなかった考え方にもふれることができた。

○　本時の授業を通して、自己中心的な発達段階の児童が自分の置かれている立場や周りの人々の存在に気づき、いかに世話になっているかが理解でき、地域の方々への感謝の気持ちや親しみを持つことができた。

●　さまざまな場面でいろいろな支援をして下さる地域の方々を探して、連携を図りながら魅力的な教材が開発できるようにしていきたい。また、地域社会が教育活動に積極的に関わってくれるよう働きかけていきたい。

１１　平成２５年度　道徳教育の全体計画の特徴　改訂版　（資料９）

○　本校では、道徳の時間の指導方針として「道徳の時間は共感から問題意識をもち、本質的な価値へと広がる心の学習となるような、考える時間である」ことを共通理解し、子どもたちの自己の生き方に資するような学習になるよう計画した。

１２　平成２５年度　道徳の時間の年間指導計画の特徴　改訂版　（資料１０）

○　年間指導計画とは、道徳の時間の指導が、道徳教育の全体計画に基づき、児童の発達に即して計画的・発展的に行われるように組織された全学年にわたる年間の指導計画である。しかし、作成には多大な労力が必要となる。作業量を考え、形式にとらわれずに授業を展開するうえでの基本的な発問の流れを示しておく程度のものにしている。本校では、各学年における指導の方針を明確にして、指導内容を児童の発達に即して重点化して指導計画を作成した。

１３　成果と課題

（１）「道徳の時間の特質を活かす発問の工夫」について

○　道徳の時間では、資料中の中心人物の道徳的行為への共感を軸に話し合いを展開することが一般的である。だが、主人公等の気持ちに共感することは、あくまで手段であり、登場人物の考えや行動に対して、自分がそう思った根拠や理由をじっくり話し合えるようにすることが大切である。さらに、書く活動を取り入れ、自分自身を深く見つめるようにしていくことが必要である。今回の実践でも、適宜、書く活動を取り入れ、今までの自分や今の自分はどうであるかを見つめさせることができた。

○　発問において、価値理解・自己理解・他者（人間）理解等のどの視点に迫る発問かを明確にして、発問の構成や精選を図った。その結果、発問はねらいとする道徳的価値の自覚を深める学習の問いになることを改めて認識するとともに、授業がぶれずにねらいに迫ることができた。

●　登場人物の心情を共感的に追究してるものの、児童から出される多様な考えを並べるだけになってしまい、価値の焦点化が図れなかった。価値葛藤の質を高めながら、視点の核心に迫る学習を工夫していく必要がある。

（２）「多様な指導方法の工夫すること」について

○　各学級ともねらいを効果的に達成するために児童の実態や資料の特徴を捉えて、適切な指導方法を選択することができていた。言葉を活かし表現する機会を充実することにつながった。

●　話し合いは、児童の考えや理解を深めるための手段であるので、話し合う視点や必然性を明確にして、位置づけていく必要がある。

（３）「自分の生き方についての考え方やより高い判断力を養うこと」について

○　展開後段は、ねらいとする道徳的価値にかかわる思いや願いを培うのがねらいであり、道徳の授業の中で最も重要な部分である。ねらいとする道徳的価値にかかわる具体的な体験やそれに伴う感じ方・考え方から日頃の自分を振り返る。このようにねらいとする道徳的価値の自覚を深める過程で同時に自己の生き方についての考えも深めているが、特にそのことを強く意識して指導することが重要である。前段で追究した価値に照らして、今までの自分や今の自分を見つめさせ、生き方を自覚させていく。各学年ともワークシートを工夫し、書く活動を通して自分との対話を促し、これからの生き方を見つめさせることができていた。

●　教師のしゃべりすぎは、授業の質を貧しくする。笑顔で間を取り、子どもたちの内面の表出を待って受け止めていく教師の態度が、道徳の時間を充実させるための大切な鍵の一つである。

＜考　察＞

この一年間道徳研究に取り組むことによって変化が大きかったのは、先生方の道徳の授業の進め方に見通しを持てたことである。道徳の時間の特質を研修することによって、資料の共感的理解から価値を追究し、早く資料から離れて自己の振り返りをさせ、十分に価値の自覚を図る道筋が見えてきた。

道徳教育のねらいは、何が価値のあることなのかを知らしめることであり、価値あることを行動に移す勇気と意志を培うことである。そして、より高い・崇高な判断力を養っていくことである。。道徳性には個人差があるので、形成的な評価を積み重ねながら、長期的な視点に立って変容を見取っていく必要がある。そして今後も、道徳の時間の特質である人間理解、価値理解、自己理解、自己発見・希望の視点を定めて、授業改善を図るとともに、自らの人生を切り拓く力を養い、「もっとできる」と思う児童を育てていきたい。

平成２４年度

学びの質を高め、学習の習慣化を中核とした学校経営・運営ビジョン

矢祭町立東舘小学校

教　育　目　標

○ 進んで学びあう子ども

○ 夢を持ちともに生きる子ども

○ 健やかでたくましい子ども

めざす学校像

① 楽しい学校
（成就感・達成感）

② 安全な学校
（生命尊重、人間尊重、心のやすらぎ）

③ 夢と希望のある学校
（あこがれ・豊かな体験）

めざす児童像

① 自ら課題をもって学習に取り組む児童
（好奇心・探究心）

② 学ぶ意欲をもってやり遂げる児童（充実感）

③ 課題解決のための情報を選択収集できる児童
（情報リテラシー）

④ 調べたことを目的に応じてまとめたり、発信したりできる児童（豊かな言語力）

めざす教師像

① 子どものいのちを大切にし、いつも元気で明るく、笑顔を絶 やさない教師

② 子どもの願いや、夢と希望を大切にする教師

③ 自ら課題を見つけ、自ら課題を解決し、常に成長を続ける教師

豊かな心を持ち、夢と希望を育む 教科指導・道徳教育･生徒指導の充実

(1)各教科、特別活動、総合的な学習の時間との関連を図った道徳の時間の充実
(2)美しいものや自然に感動する心、わが国の郷土の歴史・文化・伝統に対する理解とこれらを愛する心の育成
(3)ＡＬＴとの授業等を通した国際理解教育の推進
(4)「心のノート」を活用した道徳の時間の指導の充実
(5)元気に心のこもったあいさつができる子どもの育成
(6)朝の読書、読み聞かせ活動の充実
(7)家庭や地域との連携を図った道徳教育の推進
(8)豊かな心を育む体験学習の充実
・体験畑（生活科）の効果的利用
・地域人材等を活用した体験学習の充実
・もったいない図書館の活用
(9)児童の規範意識の醸成
(10)児童の心の姿の把握と適切な相談・指導、いじめの根絶

※評価方法
・学校関係者評価による把握
・読書量調査による評価

特別支援教育の充実

(1) 個別の教育支援計画の作成
(2) ＴＴ授業の推進
(3) 巡回相談・教育相談の活用と実施
(4) 全職員によるケース会議の実施

学びの質を高め、言語活動の充実と 学習の習慣化を図る学習活動

【授業の充実】

○学習意欲を高める授業の充実
○本時のめあてとまとめを大切にした授業
○言語活動の充実と調べ学習の充実が図られた授業
○机間指導と意図的指名、反応の練り上げ
○学習集団としての学習訓練
○授業研究の日常化

【家庭学習の習慣化】

○学びの習慣化を図る家庭学習の指導
・家庭学習の手引きの改善
・発達段階に応じた課題
・自主学習への取り組み
○読書と「家読」の日常化

方　　針

① 個に応じたきめ細かな指導体制（ＴＴ等）・指導方法の工夫改善
② 簡潔・実現可能・評価可能な「自己課題」を設定する。各自が実践してきた内容を、学期ごとに報告し合い、成果を共有する。
③ 各自がめざす子ども像・授業像を設定し、共有化を図る。
④ 年間一人複数回授業研究を行う。
⑤ 授業研究会の充実を図るために、目標と活動の整合性、発展のある学習活動、子どもの授業での姿の視点からの話し合いの時間をかける。

到達目標	評価方法
○アンダーアチーバーの児童０％及び少人数指導の実施 ○ＮＲＴで全学年全単元で全国通過率を上回り前年度比＋１ポイント ○不登校児童ゼロの維持 ○通知票のさらなる改善	○日常の子どものデータの集積 ○全国学力・学習状況調査結果の分析と活用を図る。 ○学力テスト（ＮＲＴ）の実施と活用 ○定着確認シートの実施と活用 ○子どもの自己評価の実施

健康・安全教育の充実

(1)教科体育の充実を通した基礎体力の向上
(2)朝マラソンと休み時間の外遊びの奨励
(3)安全教育（防犯教室）の実施、けがの予防
(4)性に関する指導の充実
(5)救急救命法の研修（夏季休業中前に実施）
(6)施設設備の安全点検と適切な管理
(7)食の指導の充実
・食事を中心とした規則正しい生活習慣の確立
・楽しい食事や給食を通した豊かな心の育成
(8)いのちの教室の実施

※評価方法
・体力調査　　・不登校傾向の把握
・１日・１人あたり欠席率の調査

運営上の配慮事項および方針

(1)夢と希望を育むための環境整備
○校庭の整地・除草　　○花壇の整備
○学校等校務員業務推進による環境整備
○校舎内外環境整備
・整理整頓　・不用品の廃棄
・倉庫・物置の有効活用
(2)各種予算の適正執行と効果的活用、備品の充実
○旅費旅費　　○その他各種予算
○学校徴収金外部会計監査
(3)説明責任と情報発信
○学校便り「わかあゆ」の定期的発行と学区内回覧
○学年便りの定期的発行
○各種配布文書の適正化　○学校評価結果の公表
○メーリングによる携帯メール発信

資料１

資料２

別添（１）　平成２４年度

道徳教育全体計画

東舘小学校

日本国憲法
教育基本法
学校教育法
学習指導要領

【時代・社会の要請や課題】
・生きる力の育成
・基本的な生活習慣の確立
・思いやりの心の育成

【教育行政の重点施策】
・豊かな心の育成

本校の教育目標

○進んで学びあう子ども
○夢を持ちともに生きる子ども
○健やかでたくましい子ども

【児童の実態】
・明るく元気で素直な児童が多い。
・規範意識が十分には身についていない。

【教職員の願い】
・望ましい生活習慣を身につけ、心身ともに健やかな子どもになってほしい。
・規範意識を身につけて行動してほしい。
・相手の立場を考え、思いやりの心をもって接してほしい。

【保護者の願い】
・元気にあいさつのできる子どもになってほしい。
・思いやりの心をもって、友達と仲良く生活してほしい。

道徳教育の重点目標

（１）基本的な生活習慣の定着を図り、心身ともに健康な児童を育てる。
（２）自他の立場を尊重し、思いやりの心をもった児童を育てる。
（３）時と場合に応じた言葉遣いや態度など礼儀をわきまえた児童を育てる。

道徳教育の基本方針

（１）全教職員の共同指導体制の推進
（２）体験活動の充実の重視
（３）家庭や地域の協力による道徳教育の充実
（４）「心のノート」の効果的な活用

各学年の重点目標

低学年	中学年	高学年
○基本的な生活習慣を身につけようとする態度を育てる。 ◎善悪を判断する力を育てる。 ○自他の生命を大切にしようとする心を育てる。 ○身近な人たちに優しい心で親切にしたり、仲良くしたりできる心を育てる。	○自分をふり返り、向上させようとする態度を育てる。 ○相手の立場に立って考える思いやりの心を育てる。 ○自他の生命を大切にする心を育てる。 ◎自分の仕事や役割の大切さをよく理解し進んで働こうとする心を育てる。	○自己に対する自信を持てるようにする。 ○集団での役割を自覚させ、連帯感と責任感を育てる。 ○礼儀正しく接する心を育てる。 ◎働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知って、公共のために役立とうとする心を育てる。

特別活動における道徳教育

学級活動	望ましい人間関係を形成し、集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる。
児童会活動	望ましい人間関係を形成し、集団の一員として、よりよい学校生活づくりに参画し、協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる。
クラブ活動	望ましい人間関係を形成し、個性の伸長を図り、集団の一員として協力してよりよいクラブづくりに参画しようとする自主的、実践的な態度を育てる。
学校行事	自主的・積極的な参加を通して、集団の一員としての自覚を深め、道徳的な実践意欲を高める。

道徳の時間の指導方針

○指導体制の充実を図り、児童の道徳的価値についての自覚を深め、内面的資質としての道徳的実践力を育成する。
○学級の実態、指導者の意図、資料に応じて柔軟に発想する。
○心に響き、心が動く指導法を工夫し、自己の生き方についての考えを深める指導の充実を図る。

・役割演技・ペープサート
・教育機器の活用
・話し合いの工夫
・表現方法の工夫
・言語活動の位置づけ
・心のノートの活用

各教科における道徳教育

国語	道徳的心情を養う基礎となる思考力，想像力，言語感覚を養う。物語文などを通して，登場人物の心情を読みとり，豊かな人間関係づくりの基礎を築く。
社会	調べたり，学び合ったりする活動を通して社会生活を理解し，地域や，人々の営みのすばらしさに気づき，日本や外国の人々への共感と理解を深める。
算数	見通しを持ち，筋道を立てて考え，表現する能力を育てるとともに，進んで生活や学習に活用しようとする態度を育てる。
理科	自然に親しみ、動植物の飼育・栽培活動を通して，自然を愛する心情を育てる。
生活	自然や人とかかわる活動を通して生命を大切にしたり，相手のことを思いやったりする心情を養う。
音楽	表現，鑑賞活動を通して，音楽に対する感性を育て，美しいものを尊重する心や豊かな情操を養う。
図工	造形的な創造活動を通して，つくりだす喜びを味わい，豊かな情操を養う。
家庭	家族の一員としての役割を認識し，家庭生活向上への実践意欲や，家族を大切にしようとする心情を養う。
体育	心身の健康・安全への理解を深め，自他の心身を大切にしようとする心情や，協力し合って活動する態度を育てる。
総合	自然体験やボランティア活動等の社会体験を通して，道徳的実践力を育てる。
外国語	外国語を通じて、コミュニケーションの素地を養うとともに、言語や文化について理解を深め、日本人としての自覚をもち国際親善に努めようとする心を育てる。

特色ある教育活動や体験活動との関連

・学校や地域の特色ある活動との関連を図る
・ボランティア活動、自然体験活動との関連を図る
・日常の体験や体験活動を道徳の時間に生かす

家庭・地域社会との連携

・道徳授業の公開
・学校だよりの活用
・懇談会での話題
・地域行事との関連
・美化活動
・地域人材を活用した授業

他の学校や教育機関との連携

・近隣の小学校、幼稚園、保育所との連携
・近隣の福祉施設等との交流

教育環境・生徒指導

・校内の美化、季節感ある自然環境作り
・掲示物の工夫
・基本的生活習慣の定着
・あいさつの徹底

資料３

第３学年

主題配当表		
重点目標及び計画作成上、特に工夫・配慮した事項	集団や社会の決まりを守り、思いやりの心や協力し合う態度を育てたり、自他の生命を大切にする心情を養ったりできるよう配慮した。	
月	単元（題材・主題）名	時数
4	◎いい気持ちでせいかつしよう　心モ ○どうしよう　心モ ○どの仕事もたいせつなんだ　心	3
5	◎いのちのまつり ○おばあちゃんはおいしゃさん　心 ○すきなこと きらいなこと いろいろなことおしゃべりしあおう　心	3
6	◎「いじめ」なんてしたくない　心モ ○学校のためにできること　心 ○三日めにつかまえた虫ーファーブル ○お母さん お手紙書きますよ　心	4
7	○自分のすきなところを見つけよう ○ゆめにむかってー北島康介選手	2
8		0
9	◎人に聞く前に ○祝日って何？ ◎やくそく　心モ ◎生きているしるし　心	4
10	◎進んで手助けしよう　心 ○空　心 ◎だれとあそぼうかな　心モ ○わたしの名まえ	4
11	○森のしきしゃ ◎ボクは決心した！　モ ○いやなかんじ！！　モ ◎電池が切れるまで	4
12	○けんたがわすれていたもの　心 ○そうそう，そこが同じ！ そうそう，そこがちがう！	2
1	○まかぬ種ははえぬ ○日本の学校 世界の学校 ◎小さなくつした	3
2	○地球にやさしくくらそう ○自分の毛ですづくり ○電話の向こうはどんな顔　心	3
3	○同じ歌をハミングしているのはだれ？ ◎「右，左，右」まもります ○ごしゅうしょうさま	3
時数計	35	

第４学年

主題配当表		
重点目標及び計画作成上特に工夫・配慮した事項	ものごとの善悪を判断する力や生命を大切にする心情を育むとともに、基本的な生活習慣や社会生活上のきまりが身につくよう配慮した。	
月	単元（題材・主題）名	時数
4	◎ みんなのルール　モ ○ 日本のお父さん・お母さん ○ 江戸のエコライフ　心	3
5	◎ 口で歩く人　心 ○ 十歳のプレゼント ○ こん虫カメラマン	3
6	○ ぼくたちの手で環境を守りたい ◎ つぼさを下さい　モ ◎ カンボジアからきた転校生　心 ○ 海を渡ってきた生き物たち	4
7	○ わたしのレシピ　心 ○ ほたるの里	2
8	○ 気もち（気もち）は、とってもいい友だち　モ	1
9	◎ はるかのひまわり ○ アゲハがたんじょうした　心 ◎ 教室はまちがうところだ	3
10	○ なくなった　まさかり　モ ◎ こう言ってほしいな　モ ○ お元気ですか　おばあちゃん　心 ○ おならびなさい　モ	4
11	○ 生きる ◎ チェック　チェック　チェック！　心モ ○ おじいさん、どうぞ　モ ○ ぼくは言えなかった　モ	4
12	○ 仲間をさがせ！「おねがい、協力して！」 ◎ 子どもによる子どものための「子どもの権利条約」　モ	2
1	◎ 人のふり見て　わがふり直せ　モ ◎ ネットでけんか ◎ ひろったりんご　心モ	3
2	○ 大きくなったら・・・ ◎ 火の山のおじいさん　ーある山岳の話ー　モ ○ 絵をかくのが大すき　心 ○ 日本発　世界行き	4
3	○ 勝手に決めないで！　モ ○ 十四歳の気象予報士	2
時数計	35	

資料４

別添（３）

東舘小学校第　学年　学級における道徳教育の指導計画

児童の実態

○
○
●

学校の重点・教師の願い

豊かな心を持ちともによりよく生きる児童
～自分のことが自分できちんとでき、相手の良さを認め、相手を思いやりながら行動できる子ども～

保護者の願い

・優しく、思いやりのある子ども
・友達と仲良くする子ども。

願いを実現するための中心的な手だて

（１）体験的な活動や感性を育む活動を重視する。
（２）地域の人材を生かし、協力を得た活動を大切にする。

	各教科	道徳の時間	特別活動	創意の時間・その他
よさに気付く一学期	〔国〕教材を通して、学校の友達と関わり合い、相手を思いやる心を育てる。 〔理〕植物や昆虫と関わり合い優しい気持ちを育てる。 〔体〕ルールを守り、協力して運動する態度を育てる。 〔音〕曲の持つリズムに合わせた身体活動を通して、楽しむことができる。	〔主に関わる主題〕 主題： 資料： ねらい： 主題： 資料： ねらい： 主題： 資料： ねらい：	◇始業式・入学式 ◇交通教室 ◇１年生を迎える会 ◇運動会 ◇わくわくタイム ◇学級活動（１） 自分の考えを持って話し合いに臨み、友だちの意見をよく聞きながら、ルールを守って活動する ◇学級活動（２） 学習の仕方を身につけて活動する	・漢字テスト ・計算テスト ・学期末テスト ・方部子ども会
進んで行う二学期	〔国〕自分の考えを相手に伝え、相手の考えも認めることができるようにする。 〔社〕地域の探検、交流活動を通して、様々な人と関わり合い、いろいろな人びとに支えられていることを理解する。 〔体〕ルールを守り、協力して運動する態度を育てる。ねばり強く運動に取り組む力を育てる。 〔音〕様々な国の音楽を聴いて、楽しむことができる。 〔総〕宿泊学習（計画） 宿泊学習（反省） 地域交流（ボランティア活動）	主題： 資料： ねらい： 主題： 資料： ねらい： 主題： 資料： ねらい：	◇宿泊学習 ◇校内マラソン記録会 ◇学級活動（１） ◇学級活動（２） ◇学習発表会	・地域交流（話し合い活動） ・漢字テスト ・計算テスト ・方部子ども会 ・学期末テスト
よさを高める三学期	〔国〕教材を通して、自分を見つめ、自分の良さを感じることができるようにする。また、友達の良さを認めることができるようにする。 〔学〕成長している自分を確かめることで、自分の良さや友達の良さを認め合うことができる。 〔体〕ルールを守り、協力して運動する態度を育てる。ねばり強く運動に取り組む力を育てる。	主題： 資料： ねらい： 主題： 資料： ねらい：	◇校内なわとび記録会 ◇わくわくタイム ◇卒業式練習 ◇卒業式	・漢字テスト ・計算テスト ・学年末テスト

学級環境作り

・季節感のある教室
・係活動の奨励
・道徳コーナーの設置

常時活動

・基本的な生活習慣の形成
・係活動
・心を込めた清掃活動
・良いこと発表

家庭との連携

・学級通信での家庭への発信
・保護者会で話題に

資料５

平成２４年度　矢祭町心の教育推進委員会　研究協議会要項

１　趣　旨　　矢祭町内の保育・幼稚園、小・中学校が連携を密にし、矢祭町の子どもたちの心の問題点について把握し、支援のあり方について研修を深め、豊かな心の育成を図る。

２　主　催　　矢祭町教育委員会
　　協　力　　福島県道徳教育推進協議会

３　日　時　　平成２４年６月１５日（金）　１３：３０～１６：２０

４　会　場　　矢祭町立東舘小学校　各教室

５　日程と内容
　　受　付　１３：１５～１３：３０

時　間	内　容（主題名）「資料名」	会　場
１３：３０～１４：１５ 〈道徳授業参観〉	１年（節度ある生活態度） 「かぼちゃのつる」 ２年（お母さんありがとう） 「きつねとぶどう」 ３年（学校のためにできること） 「ぼくらの学校」 ４年（小さな親切と思いやり） 「ひろったりんご」 ５年（相手のためになることを考えて） 「話し方・聞き方の基本を学ぼう」 モラル・スキル・トレーニング ６年（真の友情） 「ロレンゾの友だち」	１年教室（２階西） ２年教室（２階西） ３年教室（２階東） ４年教室（３階西） ５年教室（３階東） ６年教室（３階東）
１４：３０～１５：２０ 〈研究協議・各学年部会〉	低　学　年　部　会 中　学　年　部　会 高　学　年　部　会	２　年　教　室 ４　年　教　室 ６　年　教　室
１５：２０～１５：２５ 〈休憩・まとめ〉	各学年部会記録者による まとめ（移動）	
１５：３０～１６：２０ 〈全体会〉	全　体　会 ①記録者による報告 ②指導助言　県南教育事務所指導主事 佐野　常浩　様	体　育　館

第１・２・３学年の公開授業の様子

資料６

第２学年　道徳学習指導案

日時：平成２４年６月１５日（金）第５校時
場所：２年教室　　指導者：根本　かおる

１　主題名及び資料名
　おかあさんありがとう　「きつねとぶどう」（文渓）
　　２－（４）尊敬・感謝

２　主題設定の理由
（１）ねらいとする道徳的価値について
　人が社会生活を営む上で、尊敬や感謝の気持ちをもつことは、きわめて大切な道徳的心情である。なぜならば、人は自分独りの力で生きているのではなく、世の中の多くの人々の力によるところが大きいからである。社会の中で多くの恩恵を受けながら育っている児童に、自分の身の回りの人々の好意や善意、愛情を素直な心で受け止め感謝する気持ちをもつことの大切さに気づかせていきたい。
（２）児童の実態について
　この時期の児童は、家庭や学校、地域の人々に温かく支えられながら生活している。その中で最も身近な親や教師などに対しては、素直な感謝の念を抱いている場合も少なくない。だが、その視野はまだ狭く、それ以外の人々に対しては世話になっているという自覚は少なく、また当然のことのように受け止めている場合すらある。したがって、自分たちのために尽くしてくれている人々の苦労については、思いも及ばないのが実態である。
　そこで、まず、毎日を楽しく元気に、安全に過ごせるのは、自分たちに尽くしてくれる人々がいてくれるからであることを自覚させたい。そして、それらの人々に感謝の気持ちを表すことができるようにするとともに、その尽力にこたえようとする意欲を育てるようにしたい。
（３）資料について
　本資料は、子を思う母ぎつねと母に対する子ぎつねの気持ちが巧みに描かれた作品である。おなかをすかせて泣いている子ぎつねに、親ぎつねはえさを探りに村へ出かける。親ぎつねはぶどうを一房くわえると大急ぎで山に戻ってくる。ところが、巣の近くまで来たところで猟師に気づいた親ぎつねは、大声を叫んで子ぎつねを逃がす。数年後、成長した子ぎつねは、昔の巣の近くに見事に生えたぶどうを見つけそのぶどうを味わううちに親ぎつねの愛を知り、感謝するという内容である。自分の命も顧みず子ぎつねを助けようとした親ぎつねの心情に深く共感させることで、心から感謝している子ぎつねの気持ちを捉えさせたい。
（４）展開の構想
　導入では、普段世話になっている人々を思い出させることで、価値への方向づけを図るようにする。
　展開では、一枚絵を活用しながら、子ぎつねを思う親ぎつねの心情を捉えさせていく。また、成長した子ぎつねが、見事に生えたぶどうを見つけた場面では、吹き出しを活用しながら書く活動を取り入れ、心から感謝している子ぎつねの心情に共感させたい。さらに、感謝の気持ちをもった経験について、話し合うことで、自己の振り返りを行わせたい。
　終末では、Ｇ・Ｔ（ゲストティーチャー）として交通指導員の方をお招きし、普段どのような気持ちで交通指導にあたられているか、お話しいただき、日頃お世話になっている方への感謝の気持ちを高めて、授業を終えられるようにしたい。

４学年・５学年・６学年の公開授業の様子

資料７

4　学習指導過程

段階 時間	学　習　時　間 （○主な発問）	予想される児童の反応	指導上の留意点　■評価
導 入 5分	1　日頃お世話になっている人たちについて話し合う。 ○　ふだんみなさんは、どんな人たちにお世話になっていますか。	・お父さんやお母さん ・先生がた ・役員の人たち	○生活科でお世話になったおじいさん方や学年行事でお世話になった役員さん等、写真を提示しながら、想起させる。
展 開 30 分	2　「きつねとぶどう」を読んで話し合う。 ○「まっておいで」と親ぎつねに言われたとき、子ぎつねはどう思ったでしょうか。 ○親ぎつねが大急ぎで山に戻る時、どんなことを考えたでしょう。 ○「コーン、早く逃げなさい。」と叫んだ親ぎつねの心の中はどんなだったでしょう。 ◎子ぎつねは、どんなことを考えながら「ありがとう」と言ったのでしょうか。	・早く帰ってきて。 ・さみしいけど、がまんするよ。 ・気をつけてね。 ・子どもは大丈夫かな。 ・はやく帰っておいしいぶどうを食べさせたい。 ・子ぎつねが撃たれたら大変だ。 ・子ぎつねを逃がしてやらなくては。 ・助かって。 ・お母さんがぶどうを残してくれたんだ。 ・お母さんが助けてくれたからこんなに大きくなった。 ・お母さんは、これほどぼくのことを考えていてくれたんだ。	○親ぎつねを頼りにしている子ぎつねの気持ちを生活体験から感じとらせる。 ○子ぎつねを心配したり、喜ぶ姿を想像したりしている親ぎつねの心情を感じ取らせる。 ○子ぎつねの命が危険だと知った親ぎつねの気持ちを児童なりの言葉で語らせる。 ○子ぎつねの気持ちを吹き出しに書かせ、心から感謝している子ぎつねの気持ちに共感させる。 ■子ぎつねの気持ちに共感し、身の回りで世話になっている人に感謝しようとしているか。 （ワークシート、発表）
終 末 10 分	3　感謝の気持ちをもった経験について話し合う。 ○　人のお世話になって、心から「ありがとう」という気もちになったのは、どんな時ですか。 4　普段お世話になっている交通指導員の方のお話を聞きましょう。	・入院しているとき看護師さんが親切にしてくれたとき。	・家族以外にも好意や善意を受けていることに気づかせ、広い範囲から引き出すようにする。。 ・お話を伺うことで、どんなに世話になっているか実感させる。

資料８

5　本時の評価

自分の命を顧みず、子どもを助けようとする母親の深い愛情に気づき、心から感謝している子どもの気持ちに共感し、日頃お世話になっている人たちへ感謝の念をもとうという心情が高まったか。

6　資料分析

場　面		キーワード		主人公の気持ち
ぶどうを摂りに行った母ぎつねの帰りを子ぎつねがおなかをすかして待っている。	→	「待っておいで。」 ・さみしい。 ・がまんする。	→	・お母さんがいなくてさみしい。 ・帰ってくるまで、がまんするよ。
母ぎつねは、ぶどうを摂って山へもどり、巣の近くの１本の木の下で疲れて休む。	→	大急ぎで帰る。 ・早く帰りたい。 ・大丈夫かな。	→	・子どもはだいじょうぶかな。 ・早くかえってたべさせたい。
母ぎつねが休んでいる時、猟師が引き連れていた犬の鳴き声が聞こえてくる。	→	「早く、逃げなさい。」 ・子どもを助けたい。 ・逃がしててやりたい。	→	・危ない。逃げなさい。 ・なんとしても子どもを助けたい。
数年後、昔の住んでいた巣の近くで、大きくなった子ぎつねは、見事なぶどうを見つけた。	→	「おかあさん、ありがとう。」 ・ぼくのためにぶどうをとってくれた。 ・おかげでこんなに大きくなった。	→	・ありがとう。ぼくはこんなに成長したよ。 ・ぼくのためにぶどうをとってくれたんだね。

7 板書計画

きつねとぶどう

「まっておいで。」
・はやくかえってきて。
・さみしいけど、がんばる。

大いそぎで山にもどりながら・・・・・
・子どもはだいじょうぶかな。
・はやくかえってたべさせたい。
・よろこぶだろう。

「コーン、あぶない、にげなさい。」
・子どもをたすけなきゃ。
・じぶんは、どうなってもいい。
・子どもがうたれる。

「おかあさん、ありがとう。」
・ぼくのために、ぶどうをとってくれたんだね。
・ぼくは、大きくなったよ。
・どうしているかな。

資料９

平成２５年度　道徳教育全体計画

東舘小学校

日本国憲法
教育基本法
学校教育法
学習指導要領

本校の教育目標

○進んで学びあう子ども
○夢を持ちともに生きる子ども
○健やかでたくましい子ども

【児童の実態】
・明るく元気で素直な児童が多い。
・規範意識が十分には身についていない。

【時代・社会の要請や課題】
・生きる力の育成
・基本的な生活習慣の確立
・思いやりの心の育成

【教育行政の重点施策】
・豊かな心の育成

道徳教育の重点目標

（１）基本的な生活習慣の定着を図り、心身ともに健康な児童を育てる。
（２）生命や自他の立場を尊重し、思いやりの心をもった児童を育てる。
（３）時と場合に応じた言葉遣いや態度など礼儀をわきまえた児童を育てる。

【教職員の願い】
・望ましい生活習慣を身につけ、心身ともに健やかな子どもになってほしい。
・規範意識を身につけて行動してほしい。
・相手の立場を考え、思いやりの心をもって接してほしい。

【保護者の願い】
・元気にあいさつのできる子どもになってほしい。
・思いやりの心をもって、友達と仲良く生活してほしい。

道徳教育の基本方針

（１）全教職員の共同指導体制の推進
（２）体験活動の充実の重視
（３）家庭や地域の協力による道徳教育の充実
（４）「心のノート」の効果的な活用

各学年の重点目標

低学年	中学年	高学年
○あいさつ等の基本的な生活習慣を身につけようとする態度を育てる。 ◎善悪を判断する力を育てる。 ○自他の生命を大切にしようとする心を育てる。 ○身近な人たちに優しい心で親切にしたり、仲良くしたりできる心を育てる。	○自分をふり返り、向上させようとする態度を育てる。 ○相手の立場に立って考える思いやりの心を育てる。 ○自他の生命を大切にする心を育てる。 ◎自分の仕事や役割の大切さをよく理解し進んで働こうとする心を育てる。	○自己に対する自信を持てるようにする。 ○集団での役割を自覚させ、連帯感と責任感を育てる。 ○礼儀正しく接する心を育てる。 ◎働くことの意義を理解し、社会の一員としてに奉仕する喜びを知って、公共のために役立とうとする心を育てる。

特別活動における道徳教育

学級活動	望ましい人間関係を形成し、集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる。
児童会活動	望ましい人間関係を形成し、集団の一員として、よりよい学校生活づくりに参画し、協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる。
クラブ活動	望ましい人間関係を形成し、個性の伸長を図り、集団の一員として協力してよりよいクラブづくりに参画しようとする自主的、実践的な態度を育てる。
学校行事	自主的・積極的な参加を通して、集団の一員としての自覚を深め、道徳的な実践意欲を高める。

道徳の時間の指導方針

○協力的な指導等、指導体制の充実を図るとともに、児童の道徳的価値についての自覚を深め、内面的資質としての道徳的実践力を育成する。
○学級の実態、指導者の意図、資料に応じて柔軟に発想する。
○心に響き、心が動く魅力的な資料や指導法を工夫し、自己の生き方についての考えを深める指導と表現の機会を充実する。
○道徳の授業を公開するなど、児童の道徳性の実態及び学校・地域社会の実態や願いを考慮した指導計画を立てて、指導の改善を図る。

各教科、外国語活動における道徳教育

国語	道徳的心情を養う基礎となる思考力、想像力、言語感覚を養う。物語文などを通して、登場人物の心情を読みとり、豊かな人間関係づくりの基礎を築く。
社会	調べたり、学び合ったりする活動を通して社会生活を理解し、地域や、人々の営みのすばらしさに気づき、日本や外国の人々への共感と理解を深める。
算数	見通しを持ち、筋道を立てて考え、表現する能力を育てるとともに、進んで生活や学習に活用しようとする態度を育てる。
理科	自然に親しみ、動植物の飼育・栽培活動を通して、自然を愛する心情を育てる。
生活	自然や人とかかわる活動を通して生命を大切にしたり、相手のことを思いやったりする心情を養う。
音楽	表現、鑑賞活動を通して、音楽に対する感性を育て、美しいものを尊重する心や豊かな情操を養う。
図工	造形的な創造活動を通して、つくりだす喜びを味わい、豊かな情操を養う。
家庭	家族の一員としての役割を認識し、家庭生活向上への実践意欲や、家族を大切にしようとする心情を養う。
体育	心身の健康・安全への理解を深め、自他の心身を大切にしようとする心情や、協力して活動する態度を育てる。
総合	体験的な学習活動やボランティア活動等の社会体験を通して、道徳的実践力を育てる。
外国語	外国語を通じて、コミュニケーションの素地を養うとともに、言語や文化について理解を深め、日本人としての自覚をもち国際親善に努めようとする心を育てる。

特色ある教育活動や体験活動との関連

・学校や地域の特色ある活動との関連を図る
（運動会、修学旅行、学習発表会、職場見学活動、交流学習等）
・ボランティア活動、自然体験活動との関連を図る
（地域清掃、福祉学習、奉仕作業、久慈川少年団活動）
・日常の体験や体験活動を道徳の時間に生かす（総合的な学習）

家庭・地域社会との連携

・学校だよりの活用
・懇談会での話題
・地域行事との関連
・美化活動
・地域人材を活用した授業

他の学校や教育機関との連携

・近隣の小学校、幼稚園、保育所との連携
・近隣の福祉施設等との交流

教育環境・生徒指導

・校内の美化、季節感ある自然環境作り
・掲示物の工夫
・基本的生活習慣の定着
・あいさつの徹底

資料１０

＜作成の視点＞
①主題（ねらいの設定＋資料の選定）の構成
②指導の時期の明示
③各主題について「展開の大要」と指導方法の明示
※副読本の資料を参考にする
④他の教育活動における道徳教育との関連のを検討

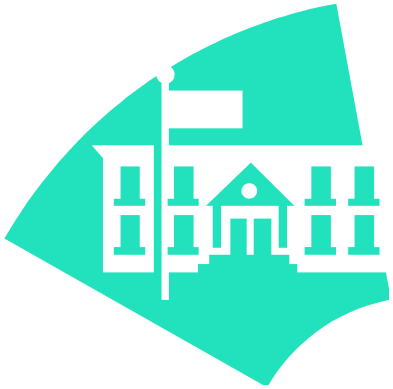
改訂前　例　５年年間指導計画（部分）

主題名	本当の思いやり		指導時期	４　月
資料名	「オトちゃんルール」は「あたりまえ」のルール		副読本 指導書	２ページ ４４ページ
内容項目	２－２　思いやり、親切	主な関連活動	ボランティア活動	
ねらい	相手の立場や気持ちを考えて、温かく親切にしようとする心情を育てる。			
主題設定の理由	困っている人や障がいのある人に対して、かわいそうだとか、あわれだとかという感情で接することがあるが、それは本当の思いやりの行為ではない。相手の立場や気持ちをよく理解し、お互いが対等の関係に立って、親切な行為を当たり前のこととして実行し合うことの大切さを分からせたい。			
導　入	１　人に親切にしたこと、されたことを思い出して発表する。 ○今までに人に親切にしたことやされたことがありますか。それはどんなことですか。			
展　開	２　ビデオなどを見て、乙武洋匡さんについての理解を深める。 ○ビデオの中で語っている乙武さんについて、どんな感想をもちましたか。 ３　「オトちゃんルールは当たり前ルール」を読んで話し合う。 ○障害者である「ボク」にとって、休み時間が一番楽しみだったというのは、なぜだと思いますか。 ○クラスの友達が「オトちゃんルール」という特別ルールを考え出したのは、どんな気持ちからでしょうか。 ◎「オトちゃんルール」について、「ぼく」も友達も「当たり前」と受け止めていたことをどう思いますか。 ４　人に対して親切にするには、どうすることが大切か話し合う。 ○相手が親切にしてくれたことで、却って自分が傷ついたことはありませんか。人に対して親切にするには、どうすることが大切でしょうか。			
終　末	５　教師の説話を聞く。 ○小学生時代に友達から親切に接してもらったときの喜びを話す。			
（授業改善のために）				

改訂後　　５年年間指導計画案（部分）

主　題　名	本当の思いやり	指導時期	４月
資　料　名	「オトちゃんルール」は「あたりまえ」のルール		
ね　ら　い	２－２思いやり、親切 ○相手の立場や気持ちを考えて、温かく親切にする心情を育てる。		
指導展開と主な発問例	１　人に親切にしたこと、されたことを思い出して発表する。 ２　ビデオなどを見て、乙武洋匡さんについての理解を深める。 ３『「オトちゃんルール」は「あたりまえ」』のルールを読んで話し合う。 ○「オトちゃんルール」について、「ボク」も友達も「あたりまえ」と受け止めていたことをどう思いますか。 ４　人に対して親切にするには、どうすることが大切か話し合う。 ５　教師の説話を聞く。		
他の教育活動との関連	総合的な学習　福祉について ボランティア活動		
授業改善のために			

【会津・南会津地区】下郷町立江川小学校



推進校紹介

学　校　名	南会津郡下郷町立江川小学校
所　在　地	南会津郡下郷町大字湯野上字杉ノ内乙５４８
校長名	佐藤　淳一
校の教育目標	心身の健やかな発達を目指す心豊かな児童の育成 ～自ら学び，生き生きと瞳輝く江川っ子～ ○えがおで思いやりのある子　○ががまん強く，たくましい子 ○わかるまで考える子
学級及び児童生徒数	６学級　５５名　　（内　特別支援学級１　児童２名）
道徳教育にかかる取組みの概要	○学級作りをベースにした学校全体の道徳的実践力を育成する。 ○豊かな体験を通して内面に根ざした道徳性を育成する。 ○家庭や地域社会の連携を図っていく。

1　研究テーマ

磨き合える集団づくりを通して，豊かな感性と思いやりの心を育むにはどうしたらよいか。
～学級集団づくりや異年齢集団交流を通して～

2　テーマ設定の理由

学習指導要領の改訂では，確かな学力，豊かな心，健やかな体の調和を重視する「生きる力」をはぐくむことがますます重要になってくると明示されている。そこで，すべての子どもたちに生きる力を育むためには，そのベースにある学級集団の状態を良好にしなければ，学力も心も体も育たないと考える。生徒指導の機能を生かしながら，リレーション（親和的な人間関係）を確立すれば，磨き合える集団づくりが行われ、子どもたち一人一人が互いに思いやりの心が育ち，豊かな感性も高まり，学力の向上にもつながると考えた。

3　研究計画

時　　期	実　践　事　項	内　　容　　等
５月下旬	研究計画作成	○学級の状況等を把握する。
６月１日	Ｑ－Ｕテストの実施	○現職教育協議会の中で検討し，授業研究計画
６月上旬	研究内容について協議	○Ｑ－Ｕテストの結果から，学級の問題点や実態（道徳性）を把握し，改善へ向けた方策を講じるための学級における指導計画を立てる。
６月下旬	Ｑ－Ｕテストの結果分析 学級における指導計画の見直し	○児童と保護者へのアンケート質問事項に道徳に関する内容を入れる。
	５・６年授業研修 第１回学校評価の実施	
６月２７日	自作資料づくり	
７月下旬	１年授業研究 ゲストティーチャーによる道徳授業	○参観日に実施する。 ○道徳教育の研修を行う。
10月17日	全校道徳授業公開 職員向けゲストティーチャー	○ＰＤＣＡにより，改善策を作る。

12月14日 12月下旬 1月中旬 2月中旬	の招聘 第２回学校評価 第２回学校評価の結果公表 反省と改善	
年間を通して	縦割り班活動 ・清掃，給食（２学期から） ・体力作り ・児童会活動 ・緑化活動 ・食育活動 管理職による道徳ＴＴ授業 道徳だよりの発行	 ○ダンスやリレーなど ○ドッジボール大会やサッカー大会，雪上運動会など ○花壇づくり ○野菜当てクイズ，食事のマナーについて バーベキュー ○全学級で実施する。 ○月１回の予定。保護者向けも発行することで啓発を図る

4　児童生徒の実態及び地域の課題

本校は児童数５５名の小規模校である。素朴な子が多く，教師の指示を素直に聞き入れ，指導の成果が表れやすい傾向にある反面、指示待ちが多く、自分で考え行動することに自信が持てず、自分の考えを相手に分かりやすく伝えるなどの表現力も個人差が大きい。このことは、少子化・少人数のため、家庭でも学校でも子どもに手をかけすぎており、知らず知らずのうちに依存心が強くなってしまったことが原因になったように思われる。

地域は広く，かつてあった分校は全て休校となり，ほとんどの児童がスクールバス等により通学していることから，地域に帰って互いに遊ぶなどの交流はできない状況となっている。このため，放課後は，江川っ子クラブ（放課後子どもプラン事業）に参加したり，スポーツ少年団活動を行ったりする子どもがほとんどである。このことは，保護者が家庭以外に子育て等を依存している表れとも考えられ，子どもが形成する価値観に偏りが出る可能性がある。よって集団として望ましい行動や考えを形成する上で，学校で行う道徳教育は，非常に重要であると考える。

教師は，経験が豊富で力量のある教員ばかりであるが，これまで現職教育等で道徳に取り組んだ経験はあまりなく，指導方法等について改めて研修する必要がある。幸い今年度は，Ｑ－Ｕテストにより，親和的な学級集団を作っていくことが現職教育のテーマとなっているため，道徳が目指す方向と同じになっている。スポーツ集会等には，教師も参加し，子どもたちと交流する姿がよく見られ，子どもたちからは親密感が感じられる。

Ｑ－Ｕテストの結果からは，子どもたちの中には，一人の子に振り回され，小さなトラブルも生じていることから，集団づくりをしながらも，一人一人に目を向けて，ルールづくりなどの指導をしていくことが必要である。

5　道徳教育における校長の指導の方針　（資料１）

～学校経営ビジョンから～

豊かな心の育成のために

□ 基本的な生活習慣の形成
- 正しい言葉遣い、身支度など「江川っ子のやくそく」に沿った生活
- 「ありがとう」「ごめんなさい」、日常のあいさつや返事

□ 豊かな感性と思いやりを育む活動の推進
- 道徳の授業を要にした思いやりのある児童の育成
- 朝の読書活動の推進　・体験活動の充実・夢実現のためのキャリア教育の推進
- 縦割り班活動を通した子ども同士、子どもと教師間の交流

・特別支援学級との交流・　高齢者・園児との交流
□ 積極的な生徒指導の推進
・称賛の場の確保　・　主体的に活動し、思いを伝え合う場の設定

学力向上のために

□学びの基盤づくり

○Ｑ－Ｕテストの結果を活用して学級の状態を把握し，親和的なまとまりのある学級集団の育成
・家庭学習連絡ノートを活用した家庭学習の習慣化
・基本的な学習技能の習得
・分かる・できる授業の充実
・知的好奇心を揺さぶる授業展開

○生徒指導の機能(自己決定の場・自己存在感・共感的人間関係)を生かした授業づくり
【言語活動の充実・現職教育共同研究の推進】
・少人数学級の特色を生かし，個に応じた指導の充実
・習熟の時間の確保【定着確認シート・定着テストの活用】

□地域に根ざした教育･地域を越えた広がりのある教育の実践
・下郷町，江川地区の地域素材（自然環境・歴史遺産・施設・人材）の積極的活用
・江川地区の自然を活用した環境教育の充実　・ コンピュータ・情報モラル教育の推進
・国際交流等による外国文化に慣れ親しむ機会の促進

開かれた学校作りのために

□保護者との信頼関係づくりに努めます。
・個別面談の実施　・児童の様子がわかる学級通信等の発行
・校内服務倫理委員会の定期的な開催による不祥事の未然防止

□保護者との連携を図ります。
・基本的生活習慣の確立　・食育・体力づくりの情報の共有
・庭学習時間の確保（最低 学年×１０分）

□地域との連携に努めます。
・学校だよりの月１回の発行　・江川っ子クラブ、育成会、江川っ子応援団との連携

6　平成２４年度　道徳教育の全体計画の特徴　（資料２）

児童の実態、教師の願い、保護者の願いから、低学年、中学年、高学年に共通する指導の重点を設定した。また、教科・領域等との関連を明らかにした。

7　平成２４年度　道徳の時間の年間指導計画の特徴　（資料３）

共通的指導の重点を明記し、学校全体で計画的に取り組めるようにした。

8　平成２４年度　学級における指導の計画の特徴　（資料４）

「学級づくりの実践」の欄を設け、学期ごとに成果と課題を明らかにできるように配慮した。

9　道徳教育推進教師等における実践レポート　（資料５・６）

（1）学級における指導計画の新規作成
担任と子ども，保護者が共によりよい学級づくりができるような計画づくりのための反省，改善を明確にした機能する「学級における指導計画」の作成。

（2）道徳の基盤となる集団づくりの工夫
豊かな感性と思いやりの心の育成する学校経営ビジョンの具現化を図るために，生徒指導の機能を生かしたリレーション（親和的な人間関係）を確立し，磨き合える集団づくりが行われた。そのことで、子どもたち一人一人が互いに思いやりの心が育ち，豊かな感性も高まった。（Ｑ－Ｕテストによる検証）

（3）授業研究の実施
７月の授業研究、１１月の学校公開での指導助言

（4）道徳教育啓発のための「道徳だより」の発行
教師向けと家庭向けの道徳だよりを毎月１回以上のペースで発行した。道徳教育の啓発だけでなく，家庭教育の重要性や学校で重点を置く生命尊重やあいさつの重要性など，道徳的な価値の視点から伝えた。１月現在で１２号を発行。

（5）自作資料と授業実践

震災・放射線問題を受け厳しい状況下でも、命の尊さと郷土愛を育み、温かい人間関係づくりができる大切さに気づくことができる資料とそれを使った授業実践。

（6）道徳的実践意欲向上のための工夫

校内掲示の工夫や児童会活動，栽培活動，異年齢交流（保育所，高齢者）の推進

（7）ゲストティーチャーのコーディネート

アクアマリンによる命の授業，外部講師による道徳模範授業，佐藤吉郎先生による講演と指導。

１０　道徳の時間にかかる資料　（資料７・８）

１１　平成２５年度　道徳教育の全体計画の特徴　改訂版　（資料９）

１２　平成２５年度　道徳の時間の年間指導計画の特徴　改訂版　（資料１０）

１３　成果と課題

（1）Ｑ－Ｕテストの結果から

１回目に比べ２回目は，全ての学級でよい結果となった。「満足できる」にほぼ集中し，親和性が高まってきたことがわかる。特に「学級の雰囲気」と「友達関係」のプロフィールは全国平均１０前後（満点は１２）を上回る１１～１１．６ポイントでかなり高い結果となった。

「学習意欲」も全国平均より高い結果を得た。

（2）福島県学力調査（５学年）「生活・学習意識調査」結果から88.9%以上だったもの

(13)自分なりに努力したことがうまくいって，うれしかったことがありますか。88.9%

(17)あなたががんばったとき，友だちから，がんばったね，すごいねと，声をかけられたことがありますか。100%

(18)悲しかったとき，つらかったとき，友だちからのやさしい言葉で，元気になれたことがありますか。88.9%

(24)あなたの学校の先生たちは，あなたによく声をかけてくれますか。100%

(25)先生からほめられて，うれしかったことがありますか。100%

(26)つらいことや，こまったことがあったとき，相談できる先生がいますか。100%

(30)家の人は，あなたが努力してがんばったとき，ほめてくれますか。88.9%

上記の結果からも，学級で居心地がよく，互いに認め合い励まし合うことができていることがわかる。

（3）成果

○　全ての教育活動を通して，全教職員が共通理解のもと「親和的な人間関係づくり」の実践に意識的に取り組むことで，どの子どもも生き生きと活動し，自分の考え（感想）を自信を持って発表できるなど，自己存在感を持てるようになった。

○　年間を通して，様々な体験活動を行うことにより，道徳的な実践力が身に付くようになった。特に重点指導項目である生命尊重については，アクアマリンふくしまによる命の教育や命についての道徳授業実践，震災を受けた経験からの自作資料による授業などから児童の意識が高まったことが感想等からわかる。また，児童会活動での「友だちのよいところ」の発表内容からも思いやりの心が全校児童に育ったことも感じることができた。

○　授業を多く公開することで，保護者や町内の教員に道徳教育の重要性について啓発を図ることができた。

○　ゲストティーチャーによる道徳授業や講演等により研修の機会が得られたことは，これからの教員生活に役立てることができた。

（4）今後の課題

○　道徳の授業における指導方法や心のノートの活用などの研修が十分に行うことができなかったため，本校の特色ある授業展開までは至らなかった。

○　人間関係づくりが中心となったため，視点３の自然や崇高なものとのかかわりについてや視点４の道徳性を育むことが弱かった。全ての内容項目について授業を行うことや体験等の広がりに合わせて豊かなかかわりを，発展させていくが道徳性を発展させていくことを再認識することが必要である。

○　全教育活動を通して，道徳的な観点からどのような児童を育てるのか有機的に機能する諸計画を評価と改善を加えながら策定する。

○　親和性が高まれば学力も向上するという因果関係は，５学年では検証されたが，全ての学年でも高まるよう分析と改善を行いたい。

○　家庭や地域との連携を計画的・継続的に行っていく。

平成２４年度

江川小学校　学校経営・運営ビジョン　（資料１）

【昨年度の反省より】児童の変容と課題
○明るく、素直で、穏やかな子どもが多い。友達関係を築くのが苦手な子どももいる。与えられた仕事には真面目に取組むが、困難なことに対し諦めがちな傾向がある。「豊かな心」
○健康教育面での実践力と危機回避能力のさらなる向上が必要である。「健康・安全・防犯」
○基礎力、応用力ともまだ十分とは言えない。学年格差がある。「学力向上」
○筋力・持久力の向上が必要である。
○感謝の気持ちが育っている。

【保護者・地域の願い】
○思いやりのある子ども（相手の気持ちを考える）
○元気なあいさつ、正しい言葉遣いができる子ども
○自ら挑戦し、最後までやり通す子ども

教育目標

心身の健やかな発達を目指す心豊かな児童の育成
－自ら学び、生き生きと瞳輝く江川っ子－

めざす児童像

えがおで思いやりのある子　がまん強くたくましい子　わかるまで考える子

重点目標

豊かな心　健康・安全・防犯　学力向上

【学校像】『子どもが主役の学校』
○子どもが生き生きしている学校
○教職員が生き生きしている学校
○保護者や地域が生き生きしている学校

【教師像】『子どもと共に歩み、学ぶ教師』
○明るく、子どもに夢や希望を与える教師
○研修に励み、互いに磨きあい、高めあう教師
○子どもの心を理解し優しく・厳しくできる教師
○子ども・保護者・地域から信頼される教師
□不祥事は絶対に起こしません。
・全体の奉仕者として職務遂行に努めます。
・体罰、公金不正流用、セクハラ・わいせつ行為等は絶対にしません。
・交通規則は厳守します。

一人一人が生き生きと活動する学校を目指します。

□基本的な生活習慣の形成
○正しい言葉遣い、身支度をはじめ「江川っ子のやくそく」に沿った生活ができるようにします。
○あいさつや返事がきちんとできるようにします。

□豊かな感性と思いやりを育む活動の推進
○道徳の授業を要に思いやりのある子を育てます。
○朝の読書活動を推進します。
○体験活動の充実に努めます。【修学旅行、宿泊学習、遠足等】
○夢実現のためのキャリア教育の推進に努めます。
○縦割り班活動を通して子ども同士・子どもと教師の交流に努めます。【清掃・児童会・学校行事等】
○特別支援学級との交流を深めます。【交流授業等】
○高齢者や園児との交流を積極的に行います。
【デイサービス訪問・湯野上保育所との交流活動等】

□積極的な生徒指導の推進
○称賛の場の確保に努めます。【全校集会、お便り等】
○主体的に活動したり、自分の思いを伝え合う場の設定に努めます。【集会等】

目標値　○いじめ０・不登校０を維持する。

潤いがあり、安心して学べる環境に満ちた学校を目指します。

□健康教育の推進
○食農体験を含め、食を学ぶ機会を設定し、食への関心を高めます。また、肥満予防・虫歯予防意識を高めます。
【学級活動・総合・給食・保護者会等】
○歯磨き、早寝、早起き、朝ご飯の励行に努めます。
○体力作りに努め、運動の日常化を図ります。
【体力向上タイム・運動学習カードの活用】

□危機回避能力の育成
○学級活動・学校行事を通した安全指導に努めます。
【避難訓練・防犯教室等】
○ＰＴＡと連携を図り、児童と共に危険箇所点検と看板設置、学区内危険箇所マップの見直しと活用を図ります。
【地区懇談会等】

□学校安全環境の整備
○児童に交通ルールを遵守させます。【学級活動等】
○江川っ子応援団・スクールガード・避難の家等との連携を図り、安全・防犯に努めます。
○不審者浸入防止のため、昇降口の施錠、来校者確認を徹底します。
○学校事故防止のため学校美化に努めます。

目標値　○交通事故・不審者等による事件０を維持する。

学びへの支援に向けて授業改善を進め、創造に満ちた学校を目指します。

□学びの基盤づくり
○ＱＵを活用して学級の状態を把握し、親和的なまとまりのある学級集団に育てます。
○家庭学習連絡ノートを活用して家庭学習の習慣を身に付けさせます。
○基本的な学習技能を身に付けさせます。【ノート・発表等】

□分かる・できる授業の充実
○知的好奇心を揺さぶるような授業の展開に努めます。
○生徒指導の機能（自己決定の場・自己存在感・共感的人間関係）を生かした授業づくりを推進します。
【言語活動の充実・現職教育共同研究の推進】
○少人数学級の特色を生かし、個に応じた指導を充実します。
○習熟の時間を確保します。【定着確認シート・定着テストの活用】

□地域に根ざした教育、地域を超えた広がりのある教育の実践
○下郷町、江川地区の地域素材（自然環境・歴史遺産・施設・人材）を積極的に活用します。
○江川地区の自然を活用し環境教育を充実させます。
○コンピュータ・情報モラル教育を推進します。
○国際交流等により外国の文化に慣れ親しませます。

目標値　○アンダーアチーバーを０とする。

開かれた学校作りを目指します。

□保護者との信頼関係作りに努めます。
○保護者との個別面談を行います。
○児童の様子がわかる学級通信等の発行に努めます。
○校内服務倫理委員会を定期的に開催し、不祥事未然防止に努めます。

□保護者との連携を図ります。
○基本的生活習慣を身に付けさせます。
早寝・早起き・朝ご飯・返事・挨拶・言葉遣い・身支度・靴揃え・箸の持ち方等
○家庭学習の時間の確保・習慣化に取り組みます。

□地域との連携に努めます。
○学校便りを月１回発行します。
○江川っ子クラブ・育成会・江川っ子応援団等との連携を図ります。

道徳教育全体計画 H24

（資料２）

１　一覧

教育目標

心身の健やかな発達をめざす心豊かな児童の育成
～自ら学び，生き生きと瞳輝く江川っ子～
○　えがおで思いやりのある子　○　がまん強くたくましい子　○　わかるまで考える子

保護者の願い	児童の実態	教師の願い
○　他人を思いやる子ども ○　自ら挑戦し，最後までやり通すことのできる子ども ○　興味をもったことに真剣に取り組み，解決できる子ども	○　明るく素直で穏やかな子どもが多い。 ○　与えられた仕事には，真面目に取り組むが自主性にやや欠ける。 ○　好きなことや興味のあることには意欲的であるが，困難なことに対してすぐ諦める傾向がある。	○　相手の気持ちを考えた言動のできる子ども ○　あいさつ・返事，正しい言葉づかいのできる子ども ○　苦手なことや困難なことに対しても諦めず最後まで取り組む子ども

道徳教育の基本方針

○　教師と児童，児童相互の人間関係を深め，全教師の共通理解のもとに学校教育全体をもとに学校教育全体を通して一貫性のある道徳教育を推進する。
○　各教科，外国語活動，総合的な学習の時間の機能を生かし，児童一人一人の豊かな心情を育成できるように現状に即した指導の展開に努める。
○　総合的な学習の時間における豊かな体験活動や，ボランティア活動による内面に根ざした道徳性の育成を図る。
○　各学年の重点目標を扱う道徳の時間では，全教育活動を通して育まれる豊かな心や道徳性を，より具体的，計画的に補充・深化・統合できるように努める。そのために，題材配当の時期を弾力的に運用したり，心のノートの活用を図ったりする。
○　家庭や地域社会と連携し授業に参画していただいたり，児童のあらゆる実際生活に即して指導にあたったりする。

地域・家庭との連携

○　ふれあいの深化
○　共通理解の深化
○　相互の協力

平成２４年度の重点目標・育てたい力

○　失敗や困難にくじけず何にでも粘り強くやり遂げようとする態度を育てる。
○　互いに思いやる心を持ち，相手の立場にとって行動しようとする態度を育てる。
○　かけがえのない生命の大切さを知り，自他の生命を慈しみ尊重しようとする態度を育てる。
○　自分の役割や責任を自覚し，きまりを守り公徳を大切にする。

教科・領域等との関連（右覧）

本校の共通理解事項

指導の重点について

○　道徳教育の要である道徳の時間において，本校課題の「勤勉・努力」「不とう不屈・努力」「生命尊重」を児童の発達段階を踏まえ，計画的かつ確実にその深化を図る。
※　情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度を養うことができるように，情報モラルに関する指導に留意する。

低　学　年	中　学　年	高　学　年
項目１－（２） ○　自分がやらなければならない勉強や仕事はしっかりと行う。 項目３－（１） ○　生きることを喜び，生命を大切にする心をもつ。	項目１－（２） ○　自分がやろうと決めたことは，粘り強くやり遂げる。 項目３－（１） ○　生命の尊さを感じ取り，命あるものを大切にする。	項目１－（２） ○　自分がやらなければならない勉強や仕事はしっかりと行う。 項目３－（１） ○　生きることを喜び，生命を大切にする心をもつ。

教科・領域等との関連

各教科

○ 各教科のねらいを達成する過程で培われる人間関係において，よりよい道徳性を身に付けさせる

国語科 ： 国語に対する関心を深め、内容の理解や表現活動を通して豊かな心を育てる。
社会科 ： 社会生活を理解し，国民としての自覚郷土や国を愛する心を育てる。
算数科 ： 日常の事象について筋道を立てて考えたり，適切に判断したりする力を育てる。
生活科 ： 地域の自然や人々とかかわりながら，生命の尊さ，自分を取り巻く人への感謝の気持ちを育てる。
理科科 ： 動植物の愛護等，自然を愛する心情や生命尊重の態度を育てる。
音楽科 ： 音楽を愛好する心情や感性を育て，美しいものに感動できる心を育てる。
図工科 ： 造形的な創造活動の喜びを味わいながら，豊かな情操を育てる。
家庭科 ： 協力して家庭生活をよりよくしようとする態度を育てる。
体育科 ： 健康で安全な生活を営む態度を育てるとともに，自分や他を大事にし，公正・責任・協力などの態度を育てる。

総合的な学習の時間

○ 体験的な活動をしながら問題を解決していく過程で，人とかかわることの良さや大切さに気づき，自分自身を見つめ，人間としてよりよく生きていこうとする道徳性が育成されるようにする。
○ 自分の課題に向かって探求する中で，ねばり強く物事に取り組む道徳性が育成されるようにする。

外国語活動

○ 日本人としての自覚をもって世界の人々と親善に努める気持ちを育む。

特別活動

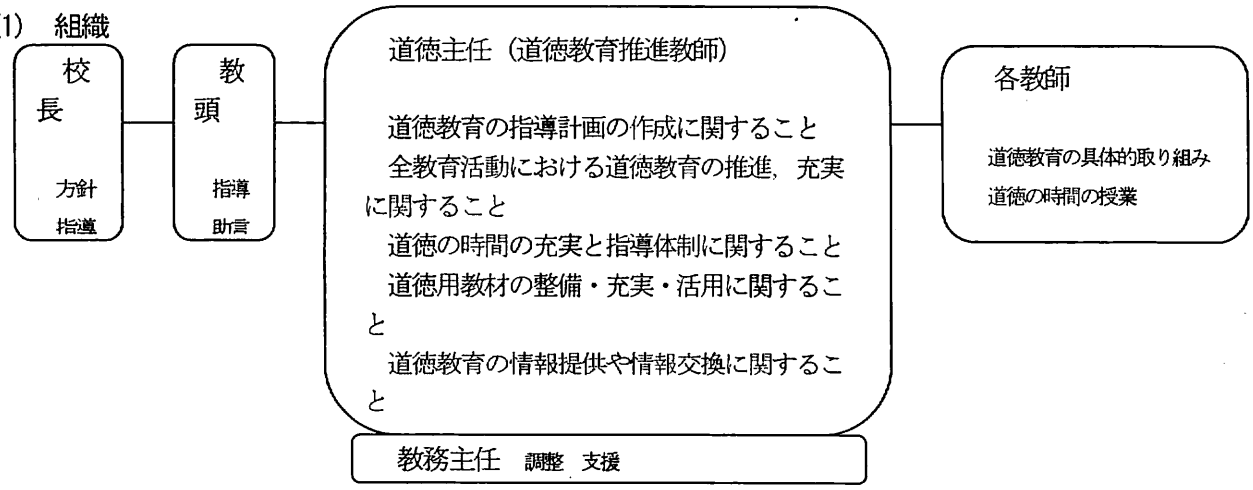
○ 児童会活動は，自発的・自治的な活動を助長し，児童の個性の伸長に役立ち調和のとれた人格形成を図る道徳的実践の場となるようにする。
○ 集団における諸問題を自らの力で発見し，解決させることを通して，個性を伸ばし，自主的な道徳性を身につけることができるようにする。
○ 学校行事によって，すべての学習の統合的な活動の場を提供して，児童の生活に変化と喜びを与える道徳教育の好機となるようにする。
○ 学校社会の一員であることの所属感を深め，他の社会においても適応することのできる実践力を身につけることができるようにする。

生徒指導

○ 生徒指導の機能を十分に発揮することにより，児童一人一人の道徳性の育成を図る。

2 具体的運営

(1) 組織



月計画　　（資料３）

月	道徳推進教師を中心とした働き	共通的指導の重点など
4	○年間計画の確認 ○道徳用教材の確認と周知	節度ある生活態度　1－(1)
5	○道徳用教材の整備と充実	信頼･友情　2－(3)
6		思いやり･親切　4－(5)･4－(3) 自然愛　3－(2)
7	○1学期の道徳授業の実施状況把握	家庭愛　4－(5)･4－(3) 不とう不屈　1－(2)
8		生命の尊重　3－(1)
9	○道徳教育の研修	不とう不屈　1－(2)
10		勤労　4－(4)･4－(2)
11	○道徳教育の評価の集約	感謝　2－(5)･2－(4) 愛校心　4－(6)･4－(4)
12	○2学期の道徳授業の実施状況把握	礼儀　2－(1)
1	○今年度の反省　成果と課題の集約 ○新年度道徳教育の全体指導計画の作成着手	郷土愛　4－(7)･4－(5) 国際理解･親善　4－(8)･4－(6)
2	○新年度道徳教育の各学年別指導計画完成	家庭愛　4－(5)･4－(3)
3	○今年度の道徳授業の実施状況把握 ○新年度の道徳教育について	礼儀･真心　2－(1)

※　共通的指導の重点の項目において、３・４年と１・２年のものは、下線の付いた項目となります。
※　１２月の「国際理解・親善」の項目は、１・２年にはありません。

平成24年度 5・6 学年

（資料4）

道徳教育の全体計画

学校の道徳教育の重点

○えがおで思いやりのある子
○がまん強くたくましい子
○わかるまで考える子
重点内容項目…「勤勉・努力」
「不とう不屈・努力」「生命尊重」
学級重点内容項目…「自律と責任」
「礼儀」「尊敬・感謝」

児童の実態

○ 明るく素直な子どもが多い。
○ 女子は活発な子が多いが男子は消極的で人を頼りがちな子が多い。
○ 困難にぶつかっても努力して乗り越えようという気持ちの強い子と、理由をつけて諦めてしまう子の差が大きい。

保護者の願い

○ 他人を思いやる子ども
○ 積極的に行動し，最後までやり通すことのできる子ども
○ 礼儀正しく、善悪の判断ができる子

教師の願い

○ あいさつ・返事，正しい言葉づかいのできる子ども
○ 思いやりの気持ちを持ってだれに対しても接することのできる子
○ 自主的に考えて行動できる子

学級経営の方針

○一人一人が生き生きと活躍できる学級。
○互いに助け合い、協力し合える学級。
○日々の生活の中に感動のある学級。

児童の道徳性の実態

○男女仲良く、助け合うことができる。
○友達のよいところを認めあうことができる。
○高学年として下の学年の面倒を見ようという気持ちが持てる。
●相手の気持ちを考えないで強く注意してしまう。
●自分に甘くできなかったことを振り返り次に生かそうとすることができない。

学級における道徳教育の基本方針

1 人間尊重の精神を基本とし，自他の心身を大切にし，思いやる心を育てる。
2 自分自身の生き方について深く考え，進んで将来を切り拓く態度を育てる。
3 基本的な生活習慣を身に付け，進んで集団生活の向上に努める態度を育てる。

各教科，外国語活動，総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育

道徳教育全体計画のとおり

基本的な生活習慣に関する指導の方針

「江川っ子魂」の徹底を図る。
1 小さい子にやさしくします。
2 「ありがとう」「ごめんなさい」を言います。
3 がまんをします。
4 ずるいことはしません。
5 江川を誇り、年上を大切にします。
6 夢に向かってがんばります。
やってはならぬ、やらねばならぬ。ならぬことは、ならぬものです。
「早寝早起き朝ごはん，返事，あいさつ，言葉づかい，身支度，靴そろえ等」の徹底

学級生活における豊かな体験活動

○学校行事を通して，集団の一員としての役割，責任，連帯意識を育てる。
○異学年交流・異年齢交流を通して，思いやりの心を育てる。
○栽培活動を通し，生命を大切にする態度を養う。

道徳の時間の基本方針

1 学校の教育活動全体で行われる道徳教育を補充，深化，統合する。
2 児童一人一人が，よりよい人間としての生き方を主体的に求めていこうとする意欲を高める。
3 教師・児童が互いの考えを交換し，一人一人の発言を認め合うとともに，高め合う場とする。
4 授業の多様な展開を心がけ，資料等の収集に努め，個に応じた指導の工夫をする。

授業公開にかかわる内容と方法

○校内授業研究…6月実施
○四つ葉のクローバープラン授業公開…11月21日
○授業参観で公開…12月

家庭・地域社会等との連携

○ ふれあいの深化
○ 共通理解の深化
○ 相互の協力

学級づくりの実践　　○成果と●課題	
1学期	○様々な行事等を通して、6年生に最高学年としての自覚を持たせることができた。 ○一人一人のよさを認めあい、励まし合うことができた。 ● 積極的に行動できる子と、友達を頼ってしまう子の差が大きい ● 5年生は6年生を頼って行動することが多かった。
2学期	
3学期	

江川小道徳だより No.1 平成２４年６月１３日

文責：道徳教育推進教師

本校が，２４年度福島県教育委員会の道徳教育推進校（県内６校）になりました。

何をやるの？＝研究内容

□研究テーマの設定…学校における今年度の重点を核として１年間のテーマを設定
□校長の指導方針の明確化…年度当初に「指導の方針」を周知したときの資料を提出
□全体計画・年間指導計画の提出…年度始めと教育課程の編成後に改訂したものをセットで提出
□道徳教育推進教師の実践報告…年間を通じて道徳教育推進教師として取り組んだ事例を報告
□道徳の時間の授業公開…保護者や地域への公開授業を開催
□１年間の成果の報告と普及への協力…道徳教育実践資料集への実践報告の提供と掲載の許諾
□地区別推進協議会等での実践発表…地区別推進協議会で中間報告

その他の活動は？

1　推進校は，学校，児童生徒等の実態を踏まえ道徳教育に関する課題を設定し実践研究の推進をする。
2　推進校は，ゲストティーチャー（教室ＧＴ）を活用して児童生徒に魅力的な「道徳の時間」を提供する。
3　推進校は，ゲストティーチャー（職員室ＧＴ）とともに校内研修会を開催し職員研修の機会を確保する。
4　推進校は，域内の各学校へ道徳教育を公開し，推進校として道徳教育に関する情報を発信する。
5　推進校は，自校の取組を依頼された様式に従って義務教育課へ報告する。

具体的に何をやるの？（例）

○　本校の児童は，何が課題で，どのような児童を育てたいかを明確にする。
○　年間指導計画の改善（２５年度の計画）１時間ごとの計画作成
○　全体計画の見直しと「学級における指導計画」作成…ＱＵテストを受け，道徳にかかわる課題を設定し，各教科や特別活動との関連させた具体的な計画作成。
○　現職教育での取組の中で，道徳に関することについて，取り出し実践内容とする。
○　普段取り組んでいるものを活用したり，重点化，意識化していく。
　・「すてきな江川っ子の木」　・友だちのよい所紹介　・あいさつ運動
○　道徳推進教師（管理職）とのＴＴ道徳授業を全学級で実施する。
○　授業公開　授業参観を一斉道徳授業にする。（　　月）
○　「道徳だより」の発行，道徳に関する指導方法や資料分析等に関する研修

江川小道徳だより No.11 平成２４年１２月１１日

（保護者向け）　　文責：道徳教育推進教師

福島県道徳教育推進事業の一環である道徳教育ゲストティーチャー派遣として１１月２８日（水）にアクアマリンふくしまから「命の教育」と題して実際に生きているあじ（和歌山県沖で捕獲）をさばき，食するまでの体験を行いました。以下に３人の感想を紹介します。

２年　星　奈緒　　食べること＝魚の命をいただくこと

わたしは，あじをはじめてさばきました。だけどかわいそうでした。あんなにピチピチはねていたのにと思いました。いのちをもらったからこそ，のこさないでたべることがだいじだとわかりました。かんしゃして「いただきます。」をいえることを大切にしようと思いました。

３年　小山陽向　　食べること＝魚を調理し，命を勉強すること。

私はきょう，はじめて魚を調理しました。とっても楽しかったです。そして命の大切さを学びました。命は生物にとって一番大切な物です。でも，私たちはその大切な命を食べています。だから，しっかり「いただきます。ごちそうさま。」ということを気付きました。きょうは，命の大切さを教えていただきありがとうございました。

５年　室井雄大　　食べること＝魚の命を受けつぐこと

なぜ命を受けつぐことが食べることにつながるというと魚は生きている。つまり命があるということで，それを人間が食べることでその人の体の中に魚の命が入る。だから命を受けつぐことが，食べることと同じことだと思います。今回の授業では，生きた魚をさばきました。これは魚を殺すことになるけど命をもらうために殺してしまっている。これらのことを考えるとすべての命を大切にできると思います。

今回の命の授業では，全員に感想を書いてもらいました。なかには「楽しかった」「おもしろかった」「おいしかった」で終わっていた子も何人かいました。道徳では，無理に間違いを指摘したり批判したりはしません。大事なことは，自分と友だちの考えの違いにまず気付くことです。家庭でもお子さんの考えを聞いてみてください。そして少しでも高い価値観を身に付くようにしてください。

家庭でのあいさつはその後，いかがでしょうか。「おはようございます」「おやすみなさい」だけでなく，「いただきます」「ごちそうさまでした」が言える食卓にしてほしいと思います。手を合わせて「いただきます。」のあいさつには意味があることを教えてください。

５・６年複式　道徳　学習指導ビジョン【vision】

『なぜ、わたしたちは生まれてきたのかな』（１／１時）

平成24年11月21日(水)　第５校時　指導者　湯田　祥子

１　板書計画または場の設定

２　本時のねらい

命の尊厳を知り、生きる喜びをもつとともに、自他の生命を尊重する態度を育てる。　３－（１）

３　言語活動を充実するために【位置付け・課題・コーディネート・親和性】

位置付け	学びがいのある魅力的な学習課題	意　　図
導入部 話合いのきっかけ作りの工夫	「命」という言葉のイメージについて事前アンケートを見て話し合う。	○　様々な人の持つ「命」のイメージを表にし、人それぞれいろいろな考えがあることに気付かせる。
	教師のコーディネート	**意　　図**
展開部 話合いの場の設定	指示『資料を読みます』 発問『心に残ったところはありますか』 発問『同じように考えたことはありますか。どんな時ですか』【個別思考→発表】 中心発問『自分たちは、なぜ生まれてきたのだと思いますか』 【個別思考→グループ→全体】 発問『生まれてきてよかったな、と思うことはありますか』 【個別思考→ワークシート記述→発表】	○　ホスピスについて簡単に説明してから資料を読む。 ○　心に残ったことを発表させ、話し合いのきっかけづくりにする。 ○　死に対する不安や、生に対する疑問など、だれもが一度は考えたことがあり、不安や不思議な気持ちになった経験を共有させる。 ○　自分の考えを話したり、友達の考えを聞いたりたりしながら「命」について考える時間を十分に与える。 ○　自分の生活をふり返り、生きていることの喜びを感じ取り、それが自他の命を大切にすることへつながることに気付かせる。 ◆　話し合いから「命」について考え、生まれてきてよかったと実感し、自他の命を大切にしようとする意識を高めることができる。
終末部 発言の機会の確保	発問『今日の勉強をふり返って感想を発表してください』 説話『命についての詩を読みます。』	○　感想を発表させ、生命尊重の意識を高めるとともに、みんなで命について真剣に考えたことの喜びも共有させたい。 ○　心のノートの「命」について余韻を残して終わる。
親和性のはぐくみ	○　グループ内で自由に意見を交流した後、全体でも児童同士で発言をつなげられるようにする。 ○　自分のことだけでなく、他の人の命の尊さや素晴らしさに気付かせ、命を大事にする気持ちを共有できるような話し合いにする。	

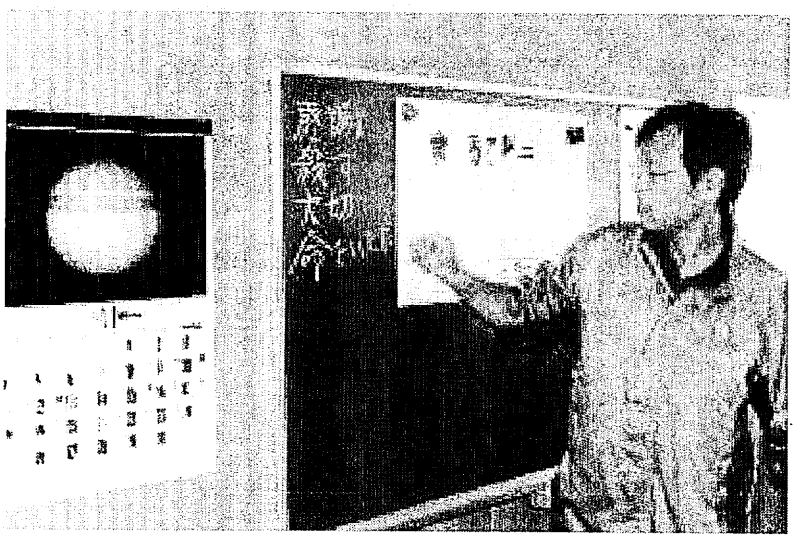
（資料８）

アクアマリンふくしまによる命の教育新聞記事

命の大切さを実感

大感謝祭

アジに触って命の大切さを実感する地蔵



道徳教育全体計画Ｈ２５

１　一覧

教育目標

心身の健やかな発達をめざす心豊かな児童の育成
～自ら学び，生き生きと瞳輝く江川っ子～
○　えがおで思いやりのある子　○　がまん強くたくましい子　○　わかるまで考える子

保護者の願い	児童の実態	教師の願い
○　他人を思いやる子ども ○　協力・助け合う子ども ○　自ら挑戦し，最後までやり通すことのできる子ども ○　興味をもったことに真剣に取り組み，解決できる子ども	○　明るく素直で穏やかな子どもが多い。 ○　与えられた仕事には，真面目に取り組むが自主性にやや欠ける。 ○　好きなことや興味のあることには意欲的であるが，困難なことに対してすぐ諦める傾向がある。 ○　寛容な態度が育っている。	○　相手の気持ちを考えた言動や行動ができる子ども ○　あいさつ・返事，正しい言葉づかいのできる子ども ○　苦手なことや困難なことに対しても諦めず最後まで取り組む子ども ○　自律できる子ども

道徳教育の基本方針

○　教師と児童，児童相互の人間関係を深め，全教師の共通理解のもとに学校教育全体をもとに学校教育全体を通して一貫性のある道徳教育を推進する。
○　各教科，外国語活動，総合的な学習の時間の機能を生かし，児童一人一人の豊かな心情を育成できるように現状に即した指導の展開に努める。
○　総合的な学習の時間における豊かな体験活動や，ボランティア活動による内面に根ざした道徳性の育成を図る。
○　各学年の重点目標を扱う道徳の時間では，全教育活動を通して育まれる豊かな心や道徳性を，より具体的，計画的に補充・深化・統合できるように努める。そのために，題材配当の時期を弾力的に運用したり，心のノートの活用を図ったりする。
○　家庭や地域社会と連携し授業に参画していただいたり，児童のあらゆる実際生活に即して指導にあたったりする。

地域・家庭との連携

○　ふれあいの深化
・親子活動の導入
○　共通理解の深化
・学校目標達成へ向けた協力
○　相互の協力
・みんなで育てる江川っ子の啓発

平成２５年度の重点目標・育てたい力

○　失敗や困難にくじけず何にでも粘り強くやり遂げようとする態度を育てる。
○　互いに思いやる心を持ち，相手の立場にとって行動しようとする態度を育てる。
○　かけがえのない生命の大切さを知り，自他の生命を慈しみ尊重しようとする態度を育てる。
○　自分の役割や責任を自覚し，きまりを守り公徳を大切にする。

教科・領域等との関連（右覧）

本校の共通理解事項

指導の重点について

○　道徳教育の要である道徳の時間において，本校課題の「不とう不屈・努力」「思いやり・親切」「生命尊重」を児童の発達段階を踏まえ，計画的かつ確実にその深化を図る。
※　情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度を養うことができるように，情報モラルに関する指導に留意する。

低　学　年	中　学　年	高　学　年
内容項目１－（２） ○　自分がやらなければならない勉強や仕事はしっかりと行う。 内容項目３－（１） ○　生きることを喜び，生命を大切に	内容項目１－（２） ○　自分がやろうと決めたことは，粘り強くやり遂げる。 内容項目２－（２） ○　相手のことを思いやり・親切にする。	内容項目１－（２） ○　より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力する。 内容項目３－（１） ○　生命がかけがえのないものである

する心をもつ。	内容項目３－（1） ○　生命の尊さを感じ取り，命あるものを大切にする。	ことを知り，自他の生命を尊重する。

教科・領域等との関連

各　教　科

○　各教科のねらいを達成する過程で培われる人間関係において，よりよい道徳性を身に付けさせる

国語科　：　国語に対する関心を深め、内容の理解や表現活動を通して豊かな心を育てる。
社会科　：　社会生活を理解し，国民としての自覚郷土や国を愛する心を育てる。
算数科　：　日常の事象について筋道を立てて考えたり，適切に判断したりする力を育てる。
生活科　：　地域の自然や人々とかかわりながら，生命の尊さ，自分を取り巻く人への感謝の気持ちを育てる。
理科科　：　動植物の愛護等，自然を愛する心情や生命尊重の態度を育てる。
音楽科　：　音楽を愛好する心情や感性を育て，美しいものに感動できる心を育てる。
図工科　：　造形的な創造活動の喜びを味わいながら，豊かな情操を育てる。
家庭科　：　協力して家庭生活をよりよくしようとする態度を育てる。
体育科　：　健康で安全な生活を営む態度を育てるとともに，自分や他を大事にし，公正・責任・協力などの態度を育てる。

総　合　的　な　学　習　の　時　間

○　体験的な活動をしながら問題を解決していく過程で，人とかかわることの良さや大切さに気づき，自分自身を見つめ，人間としてよりよく生きていこうとする道徳性が育成されるようにする。
○　自分の課題に向かって探求する中で，ねばり強く物事に取り組む道徳性が育成されるようにする。

外　国　語　活　動

○　日本人としての自覚をもって世界の人々と親善に努める気持ちを育む。

特　別　活　動

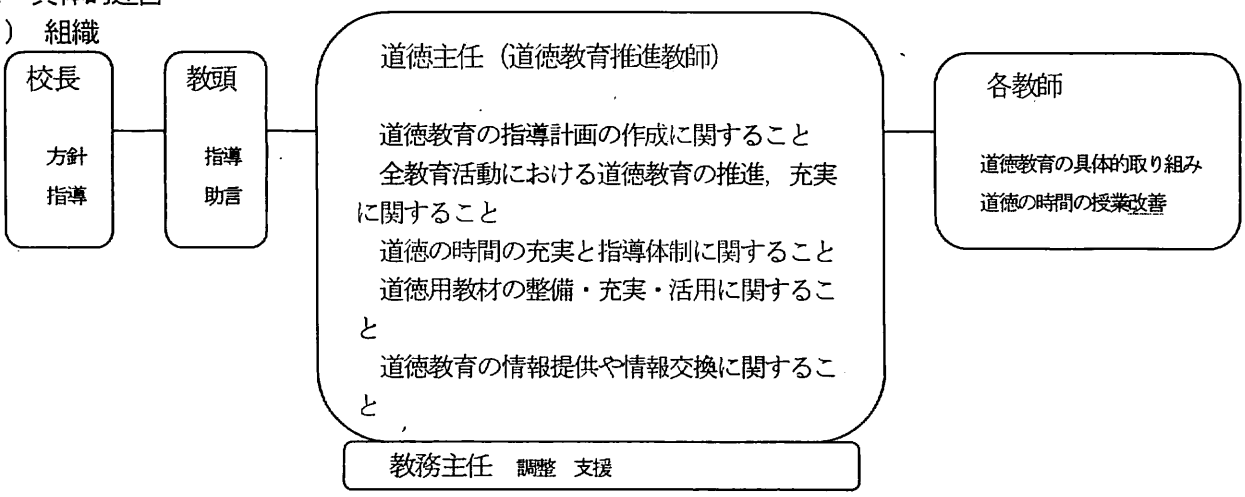
○　児童会活動は，自発的・自治的な活動を助長し，児童の個性の伸長に役立ち調和のとれた人格形成を図る道徳的実践の場となるようにする。
○　集団における諸問題を自らの力で発見し，解決させることを通して，個性を伸ばし，自主的な道徳性を身につけることができるようにする。
○　学校行事によって，すべての学習の統合的な活動の場を提供して，児童の生活に変化と喜びを与える道徳教育の好機となるようにする。
○　学校社会の一員であることの所属感を深め，他の社会においても適応することのできる実践力を身につけることができるようにする。

生　徒　指　導

○　生徒指導の機能を十分に発揮することにより，児童一人一人の道徳性を養う。

２　具体的運営

(1)　組織



（資料１０）

月計画

月	道徳推進教師を中心とした働き	共通的指導の重点など
4	○年間計画の確認 ○道徳用教材の確認と周知	節度ある生活態度　1－(1)
5	○道徳用教材の整備と視聴覚教材の充実	信頼・友情　2－(3)
6	○資料分析の研修	思いやり・親切　4－(5)・4－(3) 自然愛　3－(2)
7	○ファミリー学級での全校道徳授業の公開	家庭愛　4－(5)・4－(3) 不とう不屈　1－(2)
8		生命の尊重　3－(1)
9	○道徳の授業展開についての研修	不とう不屈　1－(2)
10		勤労　4－(4)・4－(2)
11	○道徳教育の評価の集約	感謝　2－(5)・2－(4) 愛校心　4－(6)・4－(4)
12	○2学期の道徳授業の実施状況把握 ○道徳にかかわる内容を入れた学校評価の実施	礼儀　2－(1)
1	○今年度の反省　成果と課題の集約 ○新年度道徳教育の全体指導計画の作成着手	郷土愛　4－(7)・4－(5) 国際理解・親善　4－(8)・4－(6)
2	○新年度道徳教育の各学年別指導計画完成	家庭愛　4－(5)・4－(3)
3	○今年度の道徳授業の実施状況把握 ○新年度の道徳教育について	礼儀・真心　2－(1)

※　共通的指導の重点の項目において、３・４年と１・２年のものは、下線の付いた項目となります。

※　１２月の「国際理解・親善」の項目は、１・２年にはありません。

【相双地区】県立新地高等学校

推進校紹介

学　校　名	福島県立新地高等学校
所　在　地	相馬郡新地町小川字貝塚西１３番地
校　長　名	佐藤洋光
学校の教育目標	主体的に社会に貢献し、その発展性を担うことのできる人材の育成
学級及び児童生徒数	６学級２２０名
道徳教育にかかる取組の概要	①明るいあいさつ、適切な言葉遣い、②積極的な部活動への参加、③ボランティア活動による社会に貢献する心の育成

１　研究テーマ

道徳教育全体計画における重点目標の具現化

２　テーマ設定の理由

①明るいあいさつ、適切な言葉遣い、②積極的な部活動への参加、③ボランティア活動による社会に貢献する心の育成、を具体的に教育活動のどの場面でどのように取り組むか、試行錯誤を重ね、次年度に生かす。

３　研究計画

授業、ホームルーム、行事、部活動等、学校の教育活動全体において取り組む。

４　児童生徒の実態及び地域の課題

福島県の太平洋側の最北、宮城県との県境、新地町にある。地域は半農半漁及び兼業（津波により現在漁業はできない)。学年２学級、計６学級、全日制普通科で２００名程度が在籍している。

平成２４年度の在籍数は２２０名である。様々な要因から心の問題を抱える生徒の指導は、小規模校の特性を生かし「寄り添う指導」を充実させている。震災後は特にその傾向が顕著である。地元新地町３割弱、その他７割が近隣市町から通学している。

学習指導面も含め、学習障害傾向や自閉傾向、中学校時に不登校傾向等の体験を持つ生徒が在学しており、生徒指導面の課題解決に向け取り組んでいる。

５　道徳教育における校長の指導の方針　（資料１）

キャリア教育を踏まえ、地域社会に貢献できる人材を育成するための全体計画を作成し、教職員・生徒全員で実践する。

６　平成２４年度　道徳教育の全体計画の特徴　（資料２）

本県の児童生徒の「豊かな心の育成」の方針を受け、各教職員が教科指導や部活動等の細部でそれを強く意識し心がけることにより目標達成できるといった実践に特徴がある。

７　平成２４年度　道徳教育の年間指導計画の特徴　（資料３）

「高等学校学習指導要領」をもとに、中学校の「道徳の時間」の内容を踏まえ、人間としての在り方生き方に関する教育を行う内容を中心として、重点目標と道徳教育との関連を明確にしたところに特徴がある。

８　道徳教育推進教師等における実践レポート（概要）　（資料４）

(1) 本校の実践例～重点目標より～

① 「明るいあいさつ、適切な言葉遣いができる基本的な生活習慣を養う」に関して、社会人になる上で必要不可欠な能力を育成するための実践を行った。

② 「部活動に積極的に参加し、協調性・忍耐力を身につける」に関して、同じ目標を目指す者同士が協力する大切さを理解させるための実践を行った。

③　「ボランティア活動に参加し、社会に貢献する心を育成する」に関して、人のために働く喜びを学ぶための実践を行った。

(2) 道徳教育推進教師による実践例

①　授業に関して、多角的な物事の見方を身に付けさせるとともに、社会生活の中でより良い判断ができる力を身に付けさせるための実践を行った。

(3) 部活動の指導方針

①　結果を出すことが最終目標ではなく、部活動を通して社会から必要とされる人材を育成するための実践を行った。

９　道徳教育にかかる資料　（資料５～１１）

・「資料８」について…全学年で「総合演習」という実践を行った。朝の 15 分間の時間を使って、道徳的なエッセイなどを読み、自分なりに感想やコメントを書いて交流している。生徒たちが人間としての在り方生き方を学ぶ時間として位置づけた。

・「資料９」「資料１０」について
…生徒の生き方にかかわって「ライフスキル講座」、「PTA 主催の道徳教育映画鑑賞会」といった道徳的視点からの新しい取組を行った。

・「資料１１」について…地域の活性化を目的に国道６号線に桜の苗木を植樹する「ふくしま浜街道・桜プロジェクト」という事業に参加した。生徒たちが未来に夢や希望を持ち、いまを輝かせてくれる貴重な体験となった。

１０　平成２５年度　道徳教育の全体計画の特徴　改訂版　（資料１２）

１１　平成２５年度　道徳教育の年間指導計画の特徴　改訂版　（資料１３）

１２　成果と課題

(1)　成果

〈全体〉

・　高等学校における道徳の授業の取組については、小・中学校に比べてまだ歴史は浅く、授業方法や授業実践のための資料の蓄積もない中､ロングホームルーム活動やショートホームルーム活動の時間、集会活動、学校行事の中に道徳教育の要素を取り入れながら実践を重ねることができた。

・　重点目標との関連では、生徒の実態を踏まえ、①明るいあいさつ、適切な言葉遣い、②積極的な部活動への参加、③ボランティア活動による社会に貢献する心の育成等を掲げ、道徳教育と関連づけながら取り組むことができた。

・　推進校として特に大きかった成果は、①先生方の道徳教育に対する意識が大いに高まったこと、②先生方同士の意見交換などにより、指導内容や指導方法の充実が図られたこと、③道徳教育の新しい取組に対する地区内小・中学校・保護者・地域の方々の理解が深まったこと、の３点が挙げられる。

・　「道徳」の授業をつくるため、試行錯誤を重ねながら創意工夫に努め、道徳の実践を教育活動の中に取り入れるよい機会となった。

〈公開授業〉

・　授業を通して、先生が夢を持ち、生徒とともによりよく生きていこうとすることの大切さや、生徒達とじっくりと熱く語り合うことの重要性を感じることができた。

・　補助教材やワークシートを活用したり、グループ討議を取り入れたりするなどの創意工夫が見られ効果的であった。

・　授業のまとめでは、授業者自らの体験談を語る場面が設定され、ピンと張り詰めた雰囲気の中で道徳的価値を学び直したり、振り返ったりすることができた。授業後の感想でも満足感を得たと答える生徒が多かった。

(2)　課題

・　道徳の時間の円滑な実施、ゲストティーチャーの活用という点では今後に課題を残したが、高等学校の推進校として新しい可能性を求めながら意欲的に取り組むことができた。本年度の成果を生かしながら、生徒の実態を踏まえた道徳教育を一層深めていきたい。

・　生徒実態アンケートを年度当初に１回、各学期に１回以上を実施し、問題行動の早期発見に努めていきたい。

（資料１）

福島県立新地高等学校

平成24年度　学校経営・運営ビジョン

本校は、小規模校であるその特性を生かし、一人ひとりを大切にし、個に応じた指導を行うことで、実社会に貢献できる人材を育てます。

生徒の皆さんには、本校が震災復興のシンボルとなるために、次の３点を常に意識し、実践する力を養ってもらいたいと考えています。

1　高等学校は、良き社会人になるための修練の場であるということ。

2　人間は社会的な生き物であり、一人では生きられないということ。

3　何も思わなければ、何も叶わないということ。

創立106年の歴史を持つ本校のさらなる飛躍のために、保護者の皆様をはじめ、地域の皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。

校長　佐藤　洋光

学校努力目標

（1）コミュニケーションの実践
（2）服装の端正化と責任ある行動
（3）分かりやすい授業の展開
（4）部活動の活性化
（5）自分自身を点検・評価することの実践

生徒努力目標

（1）さわやかなあいさつをします
（2）すべての学習と部活動にベストを尽くします
（3）制服を正しく着こなします
（4）資格試験にチャレンジします
（5）携帯電話を正しく使います

校訓　誠実　勤勉

進路希望の実現

実社会に貢献できる人材を育てます

重点目標①　基礎学力の定着と向上

○教員研修の充実
・一人年２回の研究授業を実施します。
・近隣の小中との連携を図り、授業改善に生かします。
・外部講師を活用した研修会を実施して、指導力向上に努めます。

○学習指導の工夫、改善
・始業チャイムと同時に授業が始まるように指導します。
・わかりやすい授業を展開します。
・「心の風」の確認テストを定期的に実施し、基礎力育成に役立てます。

○学習習慣の確立
・学習指導を通して学習習慣を身に付けさせます。
・個人面談を有効に活用し、生徒の状況を把握します。

○読書習慣の形成
・親しみやすい図書環境を作ります。
・生徒の興味・関心に添った図書購入を行い、利用者の増加に努めます。

○欠席・遅刻・早退の減少
・皆勤・精勤・無遅刻・無早退を奨励します。

重点目標②　豊かな心を育む生徒指導

○基本的生活習慣の確立
・元気のよいあいさつや適切な言葉遣い等の基本指導を徹底します。
・「早寝・早起き・朝ご飯」を推進します。
・携帯電話のフィルタリングを徹底します。
・欠席・遅刻・早退の減少を目指します。

○部活動の活性化
・部活動に積極的に参加させ、協調性、忍耐力等を身につけさせます。

○生徒会活動の活性化
・生徒が主体的に活動できるように支援します。

○安心・安全、健全な高校生活
・関係機関と連携するとともに、全教職員で一致した指導を行い、問題行動や学校事故の未然防止を図ります。
・「命」の大切さを伝えるため、生徒の発達段階に応じて講話等を実施します。

○交通安全意識の高揚と事故の根絶
・自転車通学マナーの指導と「4+1ない」運動を徹底します。

○美化活動の推進
・清掃をしっかり行い、きれいな学校を保ちます。

○教育相談の充実
・個別面談やスクールカウンセラーの活用で教育相談を充実させます。

重点目標③　進路意識の啓発

○「『確かな学力』向上のための基礎力育成プラン」の実践
・生徒の進路希望に合わせたガイダンスを実施します。
・地域の人材や企業を活用して進路意識を高めます。
・進学希望者に個別指導を行います。

○年度内に３年生の進路決定100％
・就職・進学模擬試験を実施して進路に対する意識を高めます。
・資格試験受験を奨励し、進路実現につなげます。
・教員の企業訪問を実施し、受験先確保
に努めます。
・早期に進路決定ができるように相談体制を整備します。

○「進路だより」の発行
・タイムリーな進路情報を発信します。

○インターンシップの実践と地域企業との連携
・社会で必要な力と社会で働くことの自信を身につけさせます。

重点目標④　開かれた学校づくり

○ＰＴＡ事業の活性化
・ＰＴＡ総会、各種委員会、授業参観、講演会などの内容を精査し、出席者増につなげます。
・参加しやすい時間設定などを行います。

○学校・家庭・地域との連携
・「学年だより」「進路だより」「ＰＴＡ新聞」等で学校教育活動状況を適宜お知らせします。
・学校主催の各種講演会等への参加を家庭や地域に呼びかけます。

○地域との交流
・ボランティア活動や地域行事への積極的な参加で、地域との交流を深め、地域の復旧・復興に協力します。

○ホームページの充実
・内容を定期的に更新し、地域に学校の取組みを発信します。

○安心・安全な学校づくり
・開かれた学校づくりに取組み、服務倫理の向上と学校事故への対応に全力を尽くします。

◎教員相互の共通理解

◎「確かな学力」向上のための基礎力育成プランの実践
１年『探す』２年『広げる』３年『はばたく』をキーワードに

◎施設・設備の充実

平成２４年度　道徳教育の全体計画

（資料2）

福島県立新地高等学校

地域の要請・生徒の実態

相馬地区内への就職希望者が多い学校である。そのため海浜清掃・通学路清掃・地下道清掃など行事として全校生で取り組み、地域貢献活動を推進する。

学校の教育目標

教育基本法ならびに学校教育法に基づき、基礎的・基本的な学力の定着の上に、個性や独創性を育て、生涯にわたって学習を継続する意欲をひきだし、主体的に社会に貢献し、その発展性を担うことのできる人材を育成する。

道徳教育の推進体制

○学習指導
各教科・科目・総合的な学習の時間（教務部）
○特別活動
（生徒指導部）

道徳教育の重点目標

①元気な挨拶、適切な言葉遣いができる基本的な生活習慣を養う。
②部活動に積極的に参加し、協調性・忍耐力を身に付ける。
③ボランティア活動に参加し、社会に貢献する心を育成する。

各教科・科目・総合的な学習の時間・特別活動における関連

（国語）様々な人の考えに触れることにより、自分自身を見つめる姿勢を育て、物事を公正に判断する力と他者を尊重する心を養う。

（地理歴史）わが国や世界の歴史・文化等を学ぶことにより、歴史的思考力を培うとともに、個人と社会のかかわりについての認識を深め、社会のなかで主体的に生きる態度を養う。

（公民）現代社会の諸問題や先哲の考えに触れることにより、人間としてのあり方・生き方について自覚を深めるとともに、国家・社会の一員として必要な資質を養う。

（数学）数学的な事実に関する議論を通し、客観的・論理的に物事を説明する力の育成を図る。また、対等な立場での話し合いの中で、コミュニケーション能力や健全な論理力を育てる。

（理科）人間と自然との関わりの中で、生命の尊重と自然や公共物を大切にする態度を養う。また、人と人のふれあいを通し、自他を敬い規律ある生活及びマナーを向上させる。

（保健体育）現代社会の健康問題や健康のありかたなどについて学習し、現代社会においてたくましく生きていく力と心を育てる。また、各種の運動を通し楽しさや喜びとともに、公正・協力・責任などの態度を育てる。

（芸術）芸術の幅広い活動を通して、感性を高め自他を認める態度を養う。また美術、音楽それぞれにおいて表現と鑑賞の能力を伸ばし豊かな情操を培う。

（外国語）様々な外国文化の話題に触れることで、視野を広げ、他者との関わり方について考えることのできる態度を育成する。

（家庭）家族・家庭と社会との関わりについて理解を深めるとともに、互いに尊重しあい、人間として自立した生活を送ることのできる能力と実践的な態度を育てる。

（情報）コンピュータや情報通信ネットワークに接する機会が増え利便性が高まる一方、ネットワーク利用によるトラブルが多発している。この状況を回避すべく、情報モラルと日常生活モラルとの密接な関わりと情報技術の進展が社会に及ぼす影響について理解を深め、情報社会において適正な活動を行うための基になる考え方と態度を養う。

（総合的な学習の時間）自らの課題を見つけ、学び、考え、主体的に判断し、問題を解決する資質や能力を育成し、学び方や考え方を身につけ、問題解決や探究活動に主体的・協同的に取り組む態度を育て、自己の在り方生き方を考えることができるようにする。

（特別活動）集団活動の中で体験的・実践的に学び、生徒相互間の人間的な触れ合いや協力の精神を育成し、実際の社会で生きて働く社会性を身に付け、生徒の人間形成を図る。

生徒指導等における関連

（生徒指導）基本的生活習慣を確立させるため「人間としてのあり方・生き方」「行動力・判断力の育成」「常識あるマナーの育成」など、社会生活を営む上で必要な規範意識を育てる。

（生徒会活動）生徒会活動や学校行事、地域行事への参加やボランティア活動を通して豊かな感情や、情操を育て心豊かな生徒を育てる。

（部活動）各種スポーツや文化活動を通して連携能力や責任感を育て、社会に貢献できる生徒を育てる。

家庭・地域との連携

学校・家庭・地域社会が一体となり、青少年を健全に育む良好な環境作りに努め、学校からの広報活動等により基本的習慣の確立や、規範意識の向上さらに道徳的価値観の形成を図る。

学校図書における関連

図書館利用のマナーを徹底させることで、規範意識を養う。また、総合演習で行う全員での読書を通じて、落ち着いて授業に臨む態度を育成する。

平成２４年度　道徳教育の年間指導計画　　（資料３）

福島県立新地高等学校

登校指導：通年（毎朝）

月	全体	学年　（学級）	その他
4	服装・頭髪指導 交通安全街頭指導 面接週間 「ケータイ安全教室」 連休中生活心得指導		通常カウンセリング （通年） 災害復興ボランティア （有志で通年）
5	交通安全街頭指導 全校登山 交通安全街頭指導	衣替え、服装・頭髪指導 「コミュニケーション能力養成講座」　３年	通常カウンセリング及び １年生カウンセリング 部活動による地下道清掃
6	交通安全街頭指導 進路講演会「自己の在り方」 通学路清掃	３年生個別指導（継続） 「血液について」保健１年 救急救命講習会　２年	カウンセリング支援 部活動による地下道清掃
7	交通安全街頭指導 健康講話「思春期の性」 警察署員講話 夏期休業中生活心得指導		部活動による地下道清掃
8	服装・頭髪指導 面接週間	「コミュニケーション能力養成講座」　１年	部活動による地下道清掃
9	交通安全街頭指導 通学路清掃	「歯科講座」１年 「心の教育プログラム」	部活動による地下道清掃
10	交通安全街頭指導	衣替え、服装・頭髪指導 「薬物乱用防止講座」３年	部活動による地下道清掃 カウンセリング支援
11	交通安全街頭指導		部活動による地下道清掃
12	交通安全街頭指導 冬期休業中生活心得指導	「食育講座」２年	部活動による地下道清掃
1	交通安全街頭指導 面接週間 服装・頭髪指導	自宅学習期間中の生活心得指導　３年 ＹＷＣＡ「ライフスキル講座」１．２年	ＰＴＡ主催道徳教育「映画鑑賞会」全学年 部活動による地下道清掃
2	交通安全街頭指導	ビジネスマナー講習会３年	部活動による地下道清掃
3	交通安全街頭指導 休業中の生活心得指導		部活動による地下道清掃

道徳教育推進教師等による実践レポート　　（資料４）

１　本校の実践例～重点目標より～

（１）「明るいあいさつ、適切な言葉遣いができる基本的な生活習慣を養う」に関して
◎社会人になる上で必要不可欠な能力を育成する。

①　生徒会役員によるあいさつ運動、教員・PTAによる登校指導

・毎朝、職員が交替で、昇降口にて、服装指導を行うと同時に、あいさつの習慣をつけさせる。

・月に一度、登校時に通学路での街頭指導を行う。(PTA役員も参加)

②　職員室等への入室方法、教職員に対する適切な言葉遣いの徹底

・TPOを考え、自分の身だしなみ・言葉遣いをチェックする習慣をつけさせる。

・入室の例：「○年○組の～です。～先生に用事があって来ました」
「○年○組の～です。入室許可書に押印をお願いします」　など

③　時間を守る習慣をつけるための指導

・遅刻指導カード･･･体調不良等やむを得ない場合を除いての遅刻回数が５回に達した場合、生徒指導部長による指導。

・入室許可書･･･授業に遅れた場合は、職員室で押印をもらってから教室へ。

⇒　時間を守る、生徒らしい態度・言動の徹底。

④　朝のSHRは担任・副担任の２人体制

・生徒の体調・生活習慣・服装の変化に気付き、指導ができる。

（２）「部活動に積極的に参加し、協調性・忍耐力を身につける」に関して
◎同じ目標を目指す者同士が協力する大切さを理解させる。

①　部活動への加入状況

・全校生の約９５％がいずれかの部活動に加入。（２４年度部活動編成時。全校生徒２２０名中２１０名）

②　多様な部活動・同好会

・部活動・同好会数は「１３」。生徒の個性を伸ばせるよう、多様な部活動・同好会を設置。

③　道徳に関する部活動での具体的な指導

・道具の管理、施設の整備（校内）

・新地町の地下道清掃、外トイレ清掃（校外）

（３）「ボランティア活動に参加し、社会に貢献する心を育成する」に関して
◎人のために働く喜びを学ぶ。

①　様々な場面でのゴミ拾い、清掃活動

・例：鹿狼山登山、文化祭の仮装行列、地下道清掃、通学路清掃、降雪時の雪かき

②　地域ボランティアへの積極的な参加

・例：マイタウンマーケット（新地町内の仮設住宅で行われるイベント）
選択授業でのボランティア（新地保育所）
有志の保育所・介護福祉施設ボランティア（新地保育所、新地ホーム）

（４）その他

① PTA 主催、映画『ふるさとがえり』上映

・郷土愛を題材にした映画。

② 様々な場面での服装指導

・授業開始時、衣替え時、学校行事前など

（なぜ、服装を整えることが必要なのかを説明しながら）

③ ２学期の目標「ゴミの落ちていない学校」

・朝の打ち合わせ等で、頻繁に周知・徹底。（例：文化祭後の後片付け）

２ 道徳教育推進教師による実践例

（１）授業内容の例

◎多角的な物事の見方を身に付けさせる。

◎社会生活の中でより良い判断ができる力を身に付けさせる。

① 世界史（例）

・「唐の繁栄と混乱」：玄宗と楊貴妃の関係から、指導者・リーダーはどう行動すべきか考えさせる。

・「世界システムの形成」：欧米の発達は、周辺の地域（アジア・アフリカ）の犠牲の上に成り立っていたことを理解させる。

② 現代社会・政治経済（例）

・「情報化社会」：インターネットを使用する上でのマナー、モラルを考えさせる。

・「裁判員制度」：裁判員制度について、自分の考えを発表させ、他人の意見と比較させる。

・「基本的人権の尊重」：日本では保障されている人権が他国ではどうか考えさせる。

（２）部活動の指導方針

◎ソフトテニスで結果を出すことが、最終目標ではない。

→ ソフトテニスを通し、社会から必要とされる人材を育成する。

※教師の想い･･･他人から信頼される、愛される人間になってほしい。

① 社会で活躍できる人材になるために必要な基本的な能力を身につける。

・約束を守る習慣をつける（競技のルール、集合時間、服装）

・基本的なコミュニケーション能力を育成する（挨拶、言葉遣い）

・気配りをし、自分から仕事・役割を探す（コート整備、ボール拾い）

② 他人を思いやる気持ち、感謝の気持ちを育てる。

・自分１人でテニスが上達できるわけではない。様々な人の助けがあり、今の自分がある。（仲間、家族、先生、練習試合をしてくれる学校等）

→ 感謝の気持ちを表現する（挨拶、言葉遣い、マナー、ボランティア）

→ 困っている仲間を助ける。（教えあう、仕事を手伝う）

→ 自分のためだけでなく、皆のために頑張る。（プレーしている仲間を全員で応援する）

（資料５）

ホームルーム活動　学習指導案

全日制普通科　第１学年Ｂ組

指導者　教諭　小栗　尚樹

日　時	平成２４年１１月８日（木）　第２校時　　場所　１Ｂ教室
題材名	私の「当たり前」、あなたの「当たり前」、「当たり前にすること」の大切さ （自己理解・他者理解）
題材設定の理由	本校生徒は素直で明るい長所があるが、その反面、他者を思いやることなく自己中心的な行動を取ってしまい、人間関係を崩してしまうケースが見受けられる。また、自己肯定感が低く、向上心を持った生活ができていない生徒が少なくない。複雑な家庭環境や震災によって変化した生活環境の中でも、家事をしたり弟妹の世話をするなど普通の高校生にはできないことも労をいとわずに行動できているにもかかわらず、自分に自信が持てない生徒もいる。彼ら彼女らに社会性や思いやりのある行動ができるようにさせ、自己肯定感を強め、さらなる自己向上に目を向けられるようになるきっかけとなればとしたく、この単元を設定した。
指導のねらい	何を「当たり前」と思うかによって、使命感を持って人助けができたり、周囲の人を不快にしないような社会性のある行動が無意識のうちにできる。生徒には、他者の「当たり前」を倣うことで、自分自身の「当たり前」を見直し、多くの「当たり前」を行うきっかけを与えたい。また、無意識にできている行動の大切さを自覚し、自己肯定感を強め、クラス全体が向上心を示す良い雰囲気を作り出したい。そうして、相手を思いやる気持ちや他者理解の気持ちを高め、家庭やクラス内の人間関係がよりよくなることを期待している。
生徒の実態	男子２０名、女子２０名の計４０名である。一部に、周囲の気持ちや授業の雰囲気を読めない、もしくは自己中心的な傾向が強い生徒が見受けられるため、クラス全体的としては落ち着きがない印象を受ける。また、女子の間では、中傷しあう人間関係が懸念される。しかし、明るく元気で主体性があるという長所がうまく機能した文化祭などでは、クラスメイトと協力して目標に向かって取り組む一面も見られた。
準備するもの	ワークシート

ホームルーム活動　学習指導案　　（資料６）

普通科　第１学年Ｂ組
指導者　教諭　小栗　尚樹

日　　時	平成２４年１１月８日（木）　第２時限　（１年Ｂ組教室）
単 元 名	私の「当たり前」、あなたの「当たり前」、「当たり前にすること」の大切さ（自己理解・他者理解）

目標	・　自分が当たり前にできている事の大切さを自覚させ、自己肯定感を強める。【自己理解】 ・　他者の考え方を知ることで、自分の考え方に広がりを持たせ、より社会的な価値観を身につける。【他者理解】

過程	学習内容（ねらい）	学習活動	時間（分）	指導上の留意点及び評価の観点（◇）（◆）
導入	○　本時の目標	・　本時の目標を聞く。	3	◇　授業へ取り組む姿勢を整えさせる。
	○　本時の内容	・　本時の活動内容を理解する。	3	◇　当たり前と思うことが人によって違うことを認識させる。 ◇　自分の当たり前と他人の当たり前がどう違うかを考えさせる。
展開	○　「こういう場面、あなたならどうする？」	・　「友達がひとりで掃除をやっている」状況など、いくつかの場面を想定し、自分ならその時どういう行動に出るかを考える。クラスメイトの意見を聞き価値観を比べる。	１０	◇　例を挙げて分かりやすく、意見を出しやすい雰囲気を作る。 ◇　自分と他者の価値観の違いに気づかせる。
	○　自分の行動チェックシート	・　【チェックシート】「落ちているゴミを拾う」など、社会性や思いやりのある行動を挙げた項目について、自分の行動を評価する。自分が当たり前にできていることを確認する。	6	◇　正直に回答させる。 ◇　社会性・思いやりのある行動とは何かを、チェックシートを通して暗に気づかせる。 ◆　自己の行動を見つめ直すことができたか。【自己理解】
		・　特に自分がこだわりを持っている行動を挙げる。	3	◇　授業、部活、家庭での手伝いなどあらゆる場面をヒントとして与える。
	○　ペアワーク「他者の行動を讃える」	・　ペアを作り、チェックシートを交換して、互いの良い行動を気づかせ合う。互いの「当たり前」を讃え合う。	１０	◇　否定的な事を言わない約束をする。 ◆　自己肯定感を強めることができたか。【自己理解】
	○　○○さんの「当たり前」	・　クラスメイトの「当たり前」な行動の例を聞き、自分の行動を見直す。	9	◇　クラス全体で肯定する雰囲気を作る。 ◇　ＨＲＴの「当たり前」の経験の具体例を挙げ、実現性を高める。 ◆　他者の考え方を知り、それを認めることができたか。【他者理解】
まとめ	○　本時の学習内容のまとめ	・　本時の学習内容を振り返る。	3	◇　新たな行動によって、自分の「当たり前」を育てていってほしいことを伝える。
		・　感想用紙を書く。	3	
資料	ワークシート			

学校教育課だより
編集・発行：相双教育事務所長　笠井　厚一

喪失体験をした子どもたちの自尊感情を高める取組を

～道徳教育地区別推進協議会～

１　今年度の開催は新地高等学校

道徳教育を推進するための実践研究を行い、その成果を普及することを目的とした道徳教育地区別推進協議会が、１１月８日（木）新地高等学校において開催されました。

午前の研修では、新地高等学校の道徳の実践発表、公開授業等、主に新地高等学校の道徳教育の取組について研修を深めました。

〈公開授業（ホームルーム活動）で活発に意見交換をする生徒たち。授業者は小栗尚樹教諭〉

午後の研修では、これからの子どもたちの豊かな心の育成を目指した道徳教育のあり方について、講演や協議を行いました。

２　協議は小中高教員、保護者・地域の方々合同で

協議の中では、「これからの子どもたちの豊かな心を育成するために」というテーマを設け、以下の３つの視点から話し合いました。その協議の主な内容を紹介いたします。

(1)　震災以降、家庭や各学校において道徳教育推進上子どもたちの抱える心の問題について

- 地震や原発への不安や家庭環境の変化から悲観的な考えや投げやりな気持ちを持つようになった。
- 自分に自信を持てなかったり、自己中心的になったりする子どもが多くなってきた。
- 社会性や規範意識の低下が感じられる子どもが見られるようになってきた。　など

(2)　(1)を踏まえて道徳教育の視点から家庭や各学校で取り組んできたことについて

- 自分を見つめ直し、生きていることを実感できるよう気をつけてきた。
- 善悪の判断や、感謝の気持ちなどしっかりとした価値観をもたせる配慮を行ってきた。
- 当たり前のことをきちんとできるように教えてきた。　など

(3)　今後、子どもたちの豊かな心を育むためにどのような点に力を注いでいけばよいのかについて

- 成功体験を積み重ねる意味から、学習や行事等をやり切れるよう支援していく。
- 子どもの無気力を打開し、自尊心を高めていくことが必要である。
- 大人はゆとりを持って、受容的な態度で子どもと接していくべきである。
- 子どもたちに将来に向けた夢や希望を持たせていくことが大切である。　など

３　今後の道徳教育推進のポイント

協議会を通して話し合われた内容や子どもたちの現状を踏まえ、今後、各学校で共有したい道徳教育推進の視点と、その取組を整理してみました。道徳の時間を要にして、これからの指導に役立てていただきたいと思います。

〈今後の道徳教育推進の視点〉

> 喪失体験をした児童生徒の“自尊感情”を高めることに重点を置く。

〈自尊感情を高める３つの取組〉

(1)　自分のよさに気づき、自信を持たせる支援

自分に自信がもてない子どもは、自分を否定的にとらえています。「あなたのよさは物事に対して慎重に、そして丁寧に取り組むとことだ」など、自分を肯定的にとらえることができるような支援が必要です。

(2)　集団で自分の役割を果たす体験の推進

自分のよさを発揮できる活動や場を設定し、子どもに役割を持たせ、やり遂げる体験を重ねさせることで、子どもの成就感や自己肯定感を育てることにつながります。その際に、子どもの活動を認め、励ましや感謝の言葉を伝えることで、「自分は役に立っている」、「必要とされている」と実感させることが大切です。

(3)　子どもを認め、ほめる機会や場の拡充

自尊感情を高めるには、指導すべきことはきちんと指導した上で、ほめて伸ばすという観点から、ほめ方を工夫したり、認め、ほめられる機会や場の設定を広げたりすることが大切です。

また、互いの取組や活動状況等の情報を共有化しながら、子どもを温かく見守っていくことが肝要です。

〈協議後半では，震災復興の担い手となる子どもたちの豊かな心を育むために今後どうすればよいかについて話し合った。〉

（資料８）

総合演習（１～３年）

ネーミング募集中！（自由にタイトルを考えてみよう！）⇒ の

おはようございます。

今日の総合演習は『 博 学 知 識 塾 ～物知り人間になろう！～ 』

さぁ、始めましょう✿

年 組 番 氏名 12月 19日（水）

何かを学んだり、知ったりすることは、自分や身近な人の生活を豊かにすることです。
たくさんの知識を吸収して、日々の生活に生かしていきましょう！

今月の言葉

自分が変われば相手も変わる

私たちは他の人のことを不快に感じたり、不平・不満の心を抱いたりすることがあります。こうした心を少しずつでもなくしていくように努めたいものですが、こだわりすぎるとかえって気持ちが重くなります。それよりは前向きに、周りの人々の幸せを考えられるようになることが大切でしょう。

「過去と他人は変えられないが、未来と自分は変えられる」といいます。「相手を変えたい」という気持ちが起こった場合は「自分が変われば相手も変わる」と思い直し、まずは自分から、思いやりの心で接するよう心がけたいものです。

感想・コメント

（資料９）

ライフスキル講座（１・２年）

福島県立新地高等学校　　2013年1月18日

自分らしさの種を育てよう！

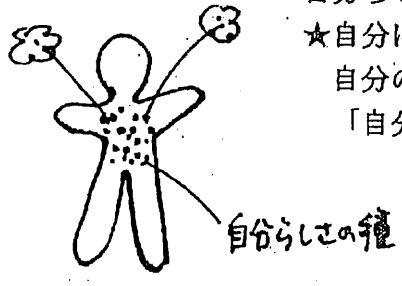
～自尊感情・暴力・エンパワーの視点から～

金　香百合(きむ・かゆり)HEALヒール
http://homepage3.nifty.com/kimrin/
ホリスティック教育実践研究所所長

1. 講師自己紹介

①私の中学生時代・・・・●在日韓国朝鮮人３世に生まれて、
●難聴で、
●母子家庭に生きて、
人と自分を「比べる」悪い癖(くせ)、
人と「同じ」でないと恥ずかしいと思う悪い癖(くせ)
たくさんの劣等感で自己否定的な中学時代
20歳を過ぎてから、たくさんの出会いと体験を通じて
自分のことが「まるごと好き」になった今

②今の私の願い・・すべての人が差別やいじめや暴力なく、いきいきと
自分らしく幸せに生きる世界
★自分に生まれたことを喜んで、
自分の中にある「自分らしさの種」を大事に育てて
「自分の花」を咲かせることを応援したい



2. 自分を好きになることから始めよう！

①あなたは自分のことが好きですか？（自己肯定的）
あなたは自分のことが嫌いですか？（自己否定的）
②好きなときも嫌いなときもあるけれど、嫌いばかりではバランスをくずす
たまに嫌いになる、くらいは反省的・内省的で自分をみつめるいい機会
でも、ずっと自分が大嫌いでは、けっこうキツイ！
③自分を好きになって、「自分らしさの種」を育てよう！

（資料１０）

ＰＴＡ主催道徳教育「映画鑑賞会」（１～３年）

職員会議資料
平成 24 年 11 月 26 日

PTA による道徳教育の開催について（映画鑑賞会）

本校は、道徳教育推進校として活動している。その活動の中で、家庭・地域との連携において、PTA は、生徒の基本的習慣の確立、規範意識の向上、道徳的価値観の形成など生徒を健全に育む環境作りを行っている。今回は、映画「ふるさとがえり」の上演、鑑賞を通じて、道徳心を育てたいと考えた。下記の通り実施したい。
映画の内容（あらすじ）については、裏面参照。

記

対　象：全校生徒および希望する保護者（その他、関係機関）

日　時：平成 25 年 1 月 15 日（火）
上映時間 2 時間 15 分
清掃、始業式、服装指導、LHR（シート敷き）、昼食後の 12:30～

場　所：体育館

準備物：スクリーン、プロジェクター

費　用：5 万円（PTA から支出）

教育関連情報 25. 1.27(日) No. 1 （幼・小・中・高 学校関係）

浜街道・桜プロジェクト始動
国道6号沿いで植樹
新地

国道6号沿線に桜並木をつくり、東京電力福島第一原発事故で分断された浜通りをつなぐ「ふくしま浜街道・桜プロジェクト」の第一回植樹が26日、新地町で行われ、地元の中学生、高校生やボランティアらがスコップなどを手に心地よい汗を流した。

プロジェクトはNPO法人ハッピーロードネット（広野町）、浜通りの5青年会議所などでつくる実行委が主催。新地町から、いわき市までの約160キロに1600本の桜を植樹する予定。

活動初日のこの日は、同町などを中心に100人超が植樹に参加、国道沿いの斜面に苗木を植え付けながら、かつて悲惨な状況を呈した被災地が桜と共によみがえる姿を思い浮かべていた。

笑顔で植樹に取り組む生徒たち＝26日午前、新地町

浜街道・桜プロジェクト
新地トップに開始
中高生ら100人、苗植える

浜通りの六号国道沿いなどを桜並木で彩る「ふくしま浜街道・桜プロジェクト」が二十六日、浜通りの北端の新地町から始まった。

プロジェクトは広野町のNPO法人ハッピーロードネット、いわき・相双地区の各青年会議所などが連携し、東日本大震災、東京電力福島第一原発事故からの古里復興を目指して取り組んでいる。

尚英中、新地高の生徒や仮設住宅入居者、スタッフら約百人が参加した。町役場前で開会式が行われた。実行委員長の西本由美子同NPO理事長（ふ）＝広野町＝が「浜通りを世界一の古里にしたい。真心と将来への夢を込めて植えていきたい」とあいさつした。加藤憲郎町長らが祝辞を述べた。

宮城県境付近の六号国道沿いに移動し、高さ約一・五㍍のヤエザクラの苗木六十本を土手にそれぞれ植えた。植樹に参加した森陽菜さん（ロ）＝尚英中二年＝は「地域復興を果たし、満開になった桜をみんなで再会して見たい」と話し、鈴木玲那さん（ロ）＝同＝は「将来、桜並木を見て震災の教訓を語り継いでいきたい」と誓った。

まず三月九日までに浜通り六市町で六号国道の沿道約五十キロにソメイヨシノとヤエザクラ各六百本、シダレザクラ四百本の計千六百本を植える。

六号国道だけでなく常磐自動車道や浜通りの県・市町村道などにも植田を広げ、今後十年間で二万本を植える計画。一口一万円で全国から桜のオーナーを募り、管理費用などに充てる。事務局のホームページ（http://www.happyroad.net）で活動内容を紹介している。問い合わせは事務局電話080(6014)4372へ。

新地町の６号国道沿いに桜を植える西本実行委員長（中央手前左）と加藤町長（右隣）ら

浜街道・桜プロジェクト:新地からスタート　国道６号沿いに６０本植樹　／福島

毎日新聞　2013年01月27日　地方版

震災と原発事故で大きな被害を受けた浜通りを桜並木で彩る「ふくしま浜街道・桜プロジェクト 10+件」が２６日、新地町で始まった。小雪の舞う中、地元の中高生や仮設住宅の住民などボランティアら約７０人が参加し、国道６号の１キロ弱の区間に苗木６０本を植えた。

桜プロジェクト 10+件で国道６号沿いに苗木を植える高校生ら＝新地町で

開会式で西本由美子実行委員長（ＮＰＯ法人ハッピーロードネット理事長）は「将来、浜通り；双葉郡の子どもたちが戻ってくる。満開の桜で迎えましょう」、加藤憲郎町長が「北の新地から、福島の復興を果たしましょう」と呼びかけた。

参加者は、道路東側に１２メートル間隔で開けた穴に、高さ約１・５メートルの八重桜の苗木を丁寧に入れ、土をかぶせた。満開になるまで１０年程度かかるという。

県立新地高校２年の木幡風渡（かぜと）さん（１７）は「津波で海岸の好きな風景もなくなってしまったので、町が復興してほしい」、１年の鹿又（かのまた）大貴さん（１６）は「きれいな花を咲かせてほしい。将来は、津波で壊れた家々を再建する仕事に就きたい」と話した。

平成２５年度　道徳教育の全体計画

（資料12）

福島県立新地高等学校

地域の要請・生徒の実態	学校の教育目標	道徳教育の推進体制
町の復興のため、通学路・地下道清掃、仮設住宅ボランティアなどに取り組んでいる。学校は生徒に自主的に地域貢献する心を育むようにその活動を推進している。	教育基本法ならびに学校教育法に基づき、基礎的・基本的な学力の定着の上に、個性や独創性を育て、生涯にわたって学習を継続する意欲をひきだし、主体的に社会に貢献し、その発展性を担うことのできる人材を育成する。	○学習指導 各教科・科目・総合的な学習の時間（教務部） ○特別活動 （生徒指導部）

道徳教育の重点目標

①元気な挨拶、適切な言葉遣いができる基本的な生活習慣を養う。
②部活動に積極的に参加し、協調性・忍耐力を身に付ける。
③ボランティア活動に参加し、社会に貢献する心を育成する。

各教科・科目・総合的な学習の時間・特別活動における関連

（国語）様々な人の考えに触れることにより、自分自身を見つめる姿勢を育て、物事を公正に判断する力と他者を尊重する心を養う。

（地理歴史）わが国や世界の歴史・文化等を学ぶことにより、歴史的思考力を培うとともに、個人と社会のかかわりについての認識を深め、社会のなかで主体的に生きる態度を養う。

（公民）現代社会の諸問題や先哲の考えに触れることにより、人間としてのあり方・生き方について自覚を深めるとともに、国家・社会の一員として必要な資質を養う。

（数学）数学的な事実に関する議論を通し、客観的・論理的に物事を説明する力の育成を図る。また、対等な立場での話し合いの中で、コミュニケーション能力や健全な論理力を育てる。

（理科）人間と自然との関わりの中で、生命の尊重と自然や公共物を大切にする態度を養う。また、人と人のふれあいを通し、自他を敬い規律ある生活及びマナーを向上させる。

（保健体育）現代社会の健康問題や健康のありかたなどについて学習し、現代社会においてたくましく生きていく力と心を育てる。また、各種の運動を通し楽しさや喜びとともに、公正・協力・責任などの態度を育てる。

（芸術）芸術の幅広い活動を通じて、感性を高め自他を認める態度を養う。また美術、音楽それぞれにおいて表現と鑑賞の能力を伸ばし豊かな情操を培う。

（外国語）様々な外国文化の話題に触れることで、視野を広げ、他者との関わり方について考えることのできる態度を育成する。

（家庭）家族・家庭と社会との関わりについて理解を深めるとともに、互いに尊重しあい、人間として自立した生活を送ることのできる能力と実践的な態度を育てる。

（情報）コンピュータや情報通信ネットワークに接する機会が増え利便性が高まる一方、ネットワーク利用によるトラブルが多発している。この状況を回避すべく、情報モラルと日常生活モラルとの密接な関わりと情報技術の進展が社会に及ぼす影響について理解を深め、情報社会において適正な活動を行うための基になる考え方と態度を養う。

（総合的な学習の時間）自らの課題を見つけ、学び、考え、主体的に判断し、問題を解決する資質や能力を育成し、学び方や考え方を身につけ、問題解決や探究活動に主体的・協同的に取り組む態度を育て、自己の在り方生き方を考えることができるようにする。

（特別活動）集団活動の中で体験的・実践的に学び、生徒相互間の人間的な触れ合いや協力の精神を育成し、実際の社会で生きて働く社会性を身に付け、生徒の人間形成を図る。

生徒指導等における関連

（生徒指導）基本的生活習慣を確立させるため「人間としてのあり方・生き方」「常識あるマナーの育成」など社会生活を営む上で必要な規範意識を育てる。定期的に生徒実態調査を実施し問題行動の早期発見に努める。

（生徒会活動）生徒会活動や学校行事、地域行事への参加やボランティア活動を通して豊かな感情や情操を育て心豊かな生徒を育てる。

（部活動）各種スポーツや文化活動を通して連携能力や責任感を育て、社会に貢献できる生徒を育てる。

家庭・地域との連携	学校図書における関連
学校・家庭・地域社会が一体となり、青少年を健全に育む良好な環境作りに努め、学校からの広報活動等により基本的習慣の確立や、規範意識の向上さらに道徳的価値観の形成を図る。	生徒の興味に合った書物を選ぶなど親しみやすい読書環境を作り、読書を通して他の思いや考え方を理解し人への思いやりの心を育む読書活動を推進する。

平成２５年度　道徳教育の年間指導計画　　（資料１３）

福島県立新地高等学校

登校指導：通年（毎朝）　　生徒実態調査：各学期１回以上

月	全体	学年　（学級）	その他
4	服装・頭髪指導 交通安全街頭指導 面接週間 「ケータイ安全教室」 連休中生活心得指導		通常カウンセリング （通年） 災害復興ボランティア （有志で通年）
5	交通安全街頭指導 全校登山 交通安全街頭指導	衣替え、服装・頭髪指導 「コミュニケーション能力養成講座」　３年	通常カウンセリング及び １年生カウンセリング 部活動による地下道清掃
6	交通安全街頭指導 進路講演会「自己の在り方」 通学路清掃	３年生個別指導（継続） 「血液について」保健１年 救急救命講習会　２年	カウンセリング支援 部活動による地下道清掃
7	交通安全街頭指導 健康講話「思春期の性」 警察署員講話 夏期休業中生活心得指導		部活動による地下道清掃
8	服装・頭髪指導 面接週間	「コミュニケーション能力養成講座」　１年	部活動による地下道清掃
9	交通安全街頭指導 通学路清掃	「歯科講座」１年 「心の教育プログラム」	部活動による地下道清掃
10	交通安全街頭指導	衣替え、服装・頭髪指導 「薬物乱用防止講座」３年	部活動による地下道清掃 カウンセリング支援
11	交通安全街頭指導		部活動による地下道清掃
12	交通安全街頭指導 冬期休業中生活心得指導	「食育講座」２年	部活動による地下道清掃
1	交通安全街頭指導 面接週間 服装・頭髪指導	自宅学習期間中の生活心得指導　３年 ＹＷＣＡ「ライフスキル講座」１．２年	ＰＴＡ主催道徳教育「映画鑑賞会」全学年 部活動による地下道清掃
2	交通安全街頭指導	ビジネスマナー講習会３年	部活動による地下道清掃
3	交通安全街頭指導 休業中の生活心得指導		部活動による地下道清掃

【いわき地区】いわき市立田人第一小学校

推進校紹介

学　校　名	いわき市立田人第一小学校
所　在　地	福島県いわき市田人町黒田字中野１２
校長名	菊地　好博
学校の教育目標	・よく考える子ども ・思いやりのある子ども ・健康でたくましい子ども
学級及び児童生徒数	第　１　学年　１学級　５名 第　２　学年　１学級　４名 第３・４学年　１学級１３名 第５・６学年　１学級１６名　　計３８名
学校の重点目標	・自分の考えを持ち、豊かに表現できる子どもの育成 ・礼儀正しく心豊かで思いやりがある子どもの育成 ・心身ともに健康で、めあてに向かって最後までやりぬく子どもの育成
道徳教育にかかる取組みの概要	・心をたがやしゆさぶる道徳の時間の工夫 ・心を豊かにする体験活動の充実 ・心をうるおす学習環境づくり ・子どもを支える家庭・地域との連携

１　研究テーマ

自他との豊かなかかわりを通して、よりよい生き方を考える児童の育成

２　テーマ設定の理由

（１）学校教育の今日的課題から
①社会全体のモラルの低下
②家庭や地域社会の教育機能の低下
③社会経験、自然経験の不足
④社会の変化に伴う課題の拡大

（２）本校の教育目標の具現化から
①自分の考えを持ち、豊かに表現できる子どもの育成
②礼儀正しく心豊かで思いやりがある子どもの育成
③心身ともに健康で、めあてに向かって最後までやりぬく子どもの育成

（３）地域や子供の実態から
①自己肯定感の不足
②コミュニケーション不足
③自立心や自律意識の低下
④自然・社会体験不足
⑤少人数による人間関係の固定化

以上のことから本テーマを設定し、道徳の時間を要とした道徳教育に取り組むこととした。

３　研究計画

○４月（上旬）研究組織作り
研究の年間計画立案
（下旬）子どもの実態の把握と分析１→道徳アンケート

○５月（上旬）各学年の年間指導計画の修正
各学級における指導計画の作成→年間プラン
（下旬）研究授業
・第２学年「ぼくのわたしのよいところ」１－（２）【勤勉努力】

○６月（中旬）研究授業
・第３・４学年「命を持つものへの優しさ」３－（２）【自然愛・動植物愛護】

○７月（上旬）子どもの実態の把握と分析２→道徳アンケート
研究授業
・第５・６学年「責任を果たす」４－（３）【集団への参加と責任】
授業参観（全学年で道徳の授業を実施）

○９月（中旬）研究授業

・第１学年「ともだちっていいな」２－（３）【友情】
（下旬）道徳教育地区別推進協議会推進校実践報告（川部中）
○10月（下旬）研究授業（小教研公開）
・第１学年　「ともだちのきもちをおもうこころ」２－（３）【友情】
・第３・４学年「言葉に心をこめて」２－（１）【礼儀】
・第５・６学年「地域の一員として」４－（３）【集団への参加と責任】
○11月（上旬）授業参観（全学年で道徳の授業を実施）
・第３・４学年「みんなで築こう男女共同参画社会」公開授業
「いわれてうれしい言葉」２－（３）【信頼・友情】
○12月（上旬）子どもの実態の把握と分析３→道徳アンケート
○１月～２月　研究のまとめ研究集録の作成
○３月　次年度の研究の立案・計画

４　児童生徒の実態及び地域の課題

○自己肯定感の不足
○コミュニケーション不足
○自立心や自律意識の低下
○自然・社会体験不足
○少人数による人間関係の固定化

５　道徳教育における校長の指導の方針　（資料１）

○道徳教育の要である「道徳の時間」を充実させる。
○体験活動を重視し、「道徳の時間」で学んだ価値観や道徳的実践力を効果的に生かす工夫をする。
○複式学級のよさを生かした指導を行う。
○授業参観、学校だより、学級だより等を通して、学校、家庭、地域との連携を図り、道徳教育の充実を図るとともに、道徳教育推進についての理解を深める。

６　平成２４年度　道徳教育の全体計画の特徴　（資料２）

○道徳性調査や道徳アンケートの結果から、学校全体の重点指導内容を設定した。
○学校全体の重点指導内容は、特定の視点に偏らないようにすべての視点から設定するようにした。
○学年ごとに落ち込んでいる道徳的価値に大きな特徴がある場合は、さらに追加するようにした。

７　平成２４年度　道徳の時間の年間指導計画の特徴　（資料３）

○心のノートとの関連を明確にし、資料名の下段に記載した。
○道徳的価値が深まると考えられる教育活動を記載するようにした。
○各学年の重点指導事項となっている道徳的価値の資料を複数扱うようにした。

８　平成２４年度　学級における指導の計画の特徴　（資料４）

○道徳的な課題をもとに学期ごとの学級のテーマを設け、１年後の児童の変容をイメージできるようにした。
○学級テーマをもとに、重点指導価値・資料に絞って記載するようにした。
○道徳の授業を要として、他の教育活動との関連を明確にして記載するようにした。
○学期ごとの反省を記入し、それをもとに計画を加筆・修正するようにした。

９　道徳教育推進教師等における実践レポート

本校は、平成２２、２４年度にいわき市小教研（道徳）の研究協力校となり、平成２３年度も含め３年間、道徳教育の研究を進めてきた。そして、研究のまとめとなる今年度、道徳教育推進校としても研究を深めてきた。

（１）道徳教育の指導計画の作成に関することについて

指導計画の作成にあたっては、まず、本校の研究主題「自他との豊かなかかわりを通して、よりよい生き方を考える児童の育成」のもと、道徳教育全体計画を作成した。また、それをもとにして年間指導計画を作成し、さらに各学級の実態に応じた「年間プラン」を作成し、道徳の時間以外の諸活動と道徳の時間の関連性を明確にして、「要」である道徳の授業を行うことができるようにしてきた。

（２）全教育活動における道徳教育の推進、充実に関することについて

上記の「年間プラン」を作成し、道徳の時間とその他の諸活動を密接に結びつけて道徳教育を行ってきた。特に、諸活動－道徳の授業－諸活動といったように、単発で終わるのではなく、年間を通して計画的に様々な活動と関わらせていくことで、より重点的・効果的に児童の道徳性を高めていけるようにした。

（３）道徳の時間の充実と指導体制に関することについて

道徳の授業をより充実させるため、児童の実態把握を詳細に行い、児童一人一人の考え方や日常生活の様子、道徳的価値に対する意識の高まりを踏まえた上で授業を組み立てるようにした。また、年に１学級２回の研究授業を行い、発問の内容や構造的な板書の仕方、話し合い活動の工夫、評価の方法等について研究を深めるようにしてきた。

（４）道徳用教材の整備・充実・活用に関することについて

心のノートと、道徳の時間や道徳の時間以外の諸活動との関わりを年間指導計画に明記し、授業の中だけではなく、事前指導や事後指導にも活用してきた。また、道徳の資料については、文部科学省の読み物資料や複数の教科書会社の副読本を参考にして作成するようにしてきた。

また、大型モニターやビデオカメラ等の視聴覚教材も活用し、道徳の授業の中で効果的に使用してきた。

（５）道徳教育の情報提供や情報交換に関することについて

本校は、「平成２４年度みんなで築こう男女共同参画社会」の公開校にも指定されており、１１月に公開授業を実施するという形で、児童の実態や研究の成果等について情報提供を行った。また、道徳教育地区別推進協議会の道徳教育推進校として、本校の研究の概要や実践内容等についての情報交換もしてきた。さらに、本校のホームページを一新し、道徳の授業の様子だけではなく、道徳教育に関わる諸活動での児童の様子について広く知ってもらえるよう、情報提供するようにした。

（６）授業公開など家庭や地域社会との連携に関すること

家庭との連携については、学年便りや学校便り等で、道徳教育に対する取り組みについて保護者に伝えるようにしてきた。また、家庭での生活の様子や授業後の家庭での変容についてアンケートを取ったり、児童への励ましの手紙を書いてもらったりした。さらに、授業参観では全クラス道徳を実施し、道徳における児童の課題について共通理解を図るようにした。

地域社会との連携については、琴の演奏体験やバケツ稲作り、老人会や「田人ホースクラブ」との交流、わら細工作りや保存食づくり等を通して地域社会との関わりを深め、これらの活動と道徳の授業を密接に関わらせて指導するようにしてきた。

（７）道徳教育の研修の充実に関することについて

研究組織を、授業研究部、体験活動部、環境部、家庭・地域連携部に分け、それぞれの部で研究を推進してきた。

授業研究部では、指導案の形式の検討や研究授業の事前・事後研究会の運営、道徳性調査や道徳アンケートの集計、分析などを行った。

体験活動部では、児童の道徳性を高めたり、高めるきっかけとなったり、高まった道徳性を生かしたりできる体験活動のあり方について検討を重ね、より効果的に取り組むことができるようにしてきた。

環境部では、児童の自主的・自立的な活動を促進するために、特別活動掲示板を作成したり、全校生が同じテーマで記入する道徳コーナー（杉の子の木）を作成して意識の共有化を図ったりしてきた。

家庭・地域連携部では、ふれあい弁当デーやノーメディアデーを実施して、児童と家庭の結びつきを深める工夫をしたり、収穫祭やふれあい活動で地域の人々とふれあう活動を企画運営したりしてきた。

（８）道徳教育における評価に関することについて

道徳の時間における評価につては、その時間の中での変容を、授業での発言や話し合いの内容、道徳ノートやワークシート、感想用紙等を通して見取り評価するようにしてきた。

道徳の時間以外における評価については、道徳の時間だけで指導が完結するのではなく、授業前後の日常生活における行動、言動、態度についても意図的に評価し、励ましていくことで、各学級が重点項目としている道徳性について高めていけるようにしてきた。

１０　道徳の時間にかかる資料　（資料５）

・平成２４年度いわき市小教研研究協力校公開授業　指導案

１１　平成２５年度　道徳教育の全体計画の特徴　改訂版　（資料６）

平成２５年度、本校は学社連携事業に取り組んでいく。この機会を生かし、児童の実態に応じた重点事項とともに、本事業と関わりの深い「郷土愛」についての道徳性も高めていく必要性があると考えた。そのため、郷土愛も重点指導事項の一つとして道徳教育に取り組むこととした。

また、「６各教科，外国語活動，総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育の充実」では、総合的な学習や学校行事において地域との関わりをより一層深め、郷土愛に対する意識を高めていく必要性について明記した。

１２　平成２５年度　道徳の時間の年間指導計画の特徴　改訂版　（資料７）

平成２５年度の全体計画に応じて、各学年の年間指導計画についても見直しを行い、重点指導内容に関する指導を充実させるため、関連する道徳の時間を十分に確保するようにした。

また、今年度までの道徳の研究の成果を活かし、学校行事や総合的活動における体験活動や地域の人々との交流を、これまで以上に意図的計画的に計画し、それらを道徳の時間と密接に関わらせることができるようにした。

１３　成果と課題（成果○　課題●）

本校では、「自他との豊かなかかわりを通して、よりよい生き方を考える児童の育成」を研究主題とし、以下の４つの項目を主な手立てとして研究を進めてきた。

（１）心をたがやしゆさぶる道徳の時間の工夫について

○　道徳の時間が道徳教育の「要」であることを意識し、各活動と道徳の時間を関わらせた構想を練り、年間プランを作成して指導することができた。

○　少人数であることを生かし、一人一人に内在する道徳的な課題にスポットをあて、指導することができた。また、資料の内容をじっくり考えさせたり、自分の生活についてじっくり振り返らせたりすることもできた。

○　複式学級の特性を生かし、異学年でペアを組み、一年前の自分と重ね合わせて考えさせたり、下級生に教えたり、討論形式で話し合ったりすることができた。

○　事前に実態調査を行い、児童の意識を詳細に把握することで、学級や児童一人一人が持つ道徳的価値に関する課題を明確にして授業を行うことができた。

（２）心を豊かにする体験活動の充実について

○　縦割り班でのスポーツ大会やおでかけアリオス、わら細工体験、ふれあい弁当デーなど、児童相互、家族、地域、音楽家などと様々な形でふれ合う体験活動を行うことができ、それらを道徳の時間と関わらせることができた。

○　自然とふれ合う活動については、学校田は使用できなかったため、バケツ稲の栽培を行った。また、花壇やプランターで花を育てる活動なども行った。学級や縦割り班ごとに栽培したり、種を取ったり、収穫したりする活動を通して、自然の力強さや食物生産の苦労を知ったり、協力して活動することの大切さなどを味わったりすることができた。

●　体験活動の内容について、同学年・異学年・縦割り班など、どのような形態で関わらせるのかということや、地域の人材や幼稚園、中学校など関わる相手について、活動する児童の実態を十分に考慮できない部分もあった。年度当初の十分な話し合いが必要であった。

（３）心をうるおす学習環境づくりについて

○　道徳コーナーについては、各学級で工夫した内容にした。道徳の時間に、直接生かせるものにしたり、年間を通して自分が高めていきたい、大切にしたいと考えている価値について掲示したり、友達の良いところを知らせたりすることで、日常的に意識しながら生活させることができた。

○　校内の掲示板を活用し、全校児童の心の成長を記録する「杉の子の木」を掲示したり、体験活動でいきいきと活動する姿を掲示したりした。こうしたことで、子どもたちは、上級生の書いたことを参考にして次の活動に参加したり、「こんな上級生になりたい」という意識を高めたりすることができた。

○　すべての児童の目にふれやすい場所に、クラブ活動や委員会活動の掲示板を設置した。こうしたことで、自主的に情報を発信したり、その情報をもとに活動したり、これまでの活動を振り返ったりすることができるようになり、特別活動への取り組みがより活発になった。

（４）子どもを支える家庭・地域との連携について

○　授業参観日に全学級で道徳の授業を行い、その後の懇談会でも授業で扱った価値について話題にするなどして、学校と家庭で共通理解を図りながら道徳の研究を進めることができた。

○　ふれあい弁当デーで一緒に弁当を作ったり、ノーメディアデーで家族の団欒を楽しんだりすることを通して、家族とのかかわりを意図的に持たせることで、家族に対する感謝の気持ちやありがたみなどに改めて気づかせることができた。

○　総合的な学習などにおいて、地域の方々をゲストティーチャートして招き、保存食作りやわら細工作り、琴の演奏などをすることができた。このことにより、自分が住む地域を大切に思う気持ちや、高齢者への尊敬、感謝の気持ちを高めることができた。

●　道徳の時間に学んだことが家庭での実践にどれだけつながっているのかなどについて、家庭との情報交換を密にし、年間プランを見直したり、学んだことが普段の生活の中で行動となって表れているのかについて家庭での様子を把握し、指導に役立てたりしていく工夫が必要であった。

道徳教育における校長の指導方針

（資料１）

平成２４年度いわき市立田人第一小学校の学校経営・運営ビジョン

〈目指す児童像〉○めあてを持ち、進んで学ぶ子ども
○思いやりがあり、命を大切にする子ども
○心身ともに健康で最後までやり抜く子ども

〈目指す教職員像〉○使命感と誇りを持つ教職員
○確かな指導力を持つ教員
○子どもとともに学び、ともに活動する教職員

第６次福島県総合教育計画
「“ふくしまの和”で奏でる、こころ豊かなたくましい人づくり」
①知・徳・体のバランスのとれた、社会に貢献する自立した人間の育成　～生きる力をはぐくむ教育の推進～
②学校、家庭、地域が一体となった教育の実現
～地域の教育力向上～
③豊かな教育環境の形成　～安全・安心で魅力ある学校づくり～

《教育目標》
○　よく考える子ども
○　思いやりのある子ども
○　健康でたくましい子ども

～未来をつくるいわき学校教育ＡＢＣプラン(H.24～H.27) ～
「夢に向かってチャレンジする子どもたちをはぐくみます」
「学校教育指導の重点」
○　視点Ａ　Activity:様々な体験活動・学習支援活動を推進します。
○　視点Ｂ　Base　：教育の「土台」の部分をより一層充実させます。
○　視点Ｃ　Care　：子どもたちの命を大切にする取り組みを強化します。

○　一人一人が夢を持ち、自分の個性を発揮して、生き生きと学び合える学校づくりを目指して

◎　自分の考えを持ち、豊かに表現できる子どもの育成（ゆめいっぱい）

◎　「わかる・できる」授業を実施します。
・めじこま（めあて・自力解決・交流・まとめ）を大切にして、どの児童にも基礎学力を身に付けさせます。
・授業の中で自分の考えを書いたり発表したりする活動を継続します。（1 時間に一人２回以上発表、学期１回のノート展示）
・授業の充実、厚みのある学びづくりに努めます。（体験的理解、ゲストティチャーの積極的な活用等）
・「活用力」の向上を図る指導に努めます。（活用問題）
◎基礎学力の定着を図ります。
・授業の中で習熟の時間を確保して、学習内容の定着を図ります。（1 時間に１回以上の丸付け指導と個別指導）
・「定着確認シート」を有効に活用して学習内容の定着を図ります。
・朝や学級の時間を活用し、繰り返し指導、補充的・発展的指導を実施します。（学期１回の漢字と計算の満点テスト、ぐんぐんタイムの有効活用）
・学年に応じた家庭学習の習慣化を図ります。（がんばりカード、年間計画表の活用、継続的な自主学習）
◎主体的な学習活動の充実を図ります。
・聞き方・話し方を学ばせ、コミュニケーション能力を育成します。（話し方マニュアルの活用、発表集会の充実）
・学校図書館の活用を図った指導を推進します。（朝の読書活動、毎日の読書時間の確保、読み聞かせ）
◎幼・小・中の学びの連携を推進します。

◎　礼儀正しく心豊かで思いやりがある子どもの育成（やさしさいっぱい）

◎命の大切さや思いやりの心を育てます。
・一人一人がかけがえのない存在であることや、生命の大切さについて指導し、温かい学校、学級づくりに努めます。
・他教科・領域との関連及び家庭との連携を図った「道徳の時間」の充実に努めます。（学級掲示板の道徳コーナーの設置）
・児童相互の活動の充実を図ります。（縦割り班による活動、ふれあい活動の継続と活性化）
・読書活動の活性化を図ります。（読書タイムの充実・学校図書館の整備・移動図書館の利用）
・高齢者とのふれあいを積極的に推進します。（老人会との交流、老人ホーム訪問等）
◎社会性を身に付けさせる指導を充実させます。
・積極的なあいさつ、返事、正しい言葉づかいの指導に努めます。
・ボランティア活動の大切さを学ばせます。（月１回のちょっとしたボランティア活動、ペットボトル、キャップの収集活動）
・特別活動を充実させます。（合同学級活動、委員会・クラブ活動の活性化、児童と共につくる学校行事、行事記録の掲示）
◎ふるさとの自然や文化、伝統を愛する子どもを育てます。
・働くことの大切さや働く人々の苦労等、感謝の心を育てます。
・総合的な学習の時間を活性化させ、地域やふるさとを愛する活動を展開します。（自然、文化、伝統など）
◎一人一人の必要に応じた特別支援教育に努めます。
・特別支援コーディネーターを中心とした学校全体の協力体制の構築により、きめ細かな指導に努めます。

◎　心身ともに健康で、めあてに向かって最後までやりぬく子どもの育成（あせいっぱい）

◎健康で安全な生活ができる子どもを育てます。
・積極的な生徒指導を行い、不登校０に努めます。
・学校評価に関するアンケートで「学校が楽しい」を選択する児童・保護者が 90 %を超えるよう努めます。
◎安全教育の充実に努めます。
・学校事故防止に努め、安全な学校生活を推進します。
・危険予知能力の育成を図り、「自分の命は自分で守る」を体現できるようにします。（防災教育の充実、集団下校での継続した声かけ）
・交通事故防止に努めます。（交通教室,学級活動,集団登下校,立哨）
◎基本的生活習慣の確立に努めます。
・保健だよりなどを通して情報を発信し、家庭と連携して生活習慣の改善に努めます。（すこやかチェック、ノーメディアデー、ふれあい弁当デーの設定）
・食後の歯みがきを徹底し、手洗い、うがいを励行します。
・「食に関する指導」等を通して、食事のマナーと望ましい食習慣の育成を図ります。（養護教諭と学級担任とのＴ・Ｔ指導、校内掲示、校内放送）
◎継続的な体力向上の推進に努めます。
・めあて学習を進めるとともに、教科体育を充実します。（鉄棒、なわとび等のがんばりカードの活用、運動の写真・イラストの有効活用）
・継続的な体力づくりを行い、生涯体育の基礎づくりに努めます。
・朝の時間やすこやかタイムの充実（マラソンカードを活用した朝のマラソンの継続、時期毎の推薦種目の運動）

教育課程完全実施

学校経営の基本方針

◎児童・保護者・地域社会に信頼される学校経営の推進
・少人数教育の特性を生かしたきめ細かな学習指導及び生徒指導の推進
・児童相互、児童と教師の心のふれあいを深め、安らぎを感じる学校づくりの推進
・保護者、地域との連携を図った教育活動を推進
・組織的、協働的な指導体制
◎児童一人一人の個性や能力を生かした教育活動の推進
◎学校事故防止と学習環境の整備
・教職員、児童の危機管理意識を高めて、学校事故防止に努める。
・潤いと落ち着きのある学習環境の整備に努める。
◎教職員の資質向上
・教育専門職としての自覚の高揚と倫理意識を持ち、自己研鑽に努める。
・教職員自らの資質や能力の向上のために校内研修の活性化を図る。

保護者との連携・協力

○教育懇談、学校評価、各会合等による双方向のコミュニケーションの確立
○ＰＴＡ活動の充実
○学校だより・学年だより等による情報の発信
○「家庭学習の手引き」の配付、説明による習慣化の確立

開かれた学校づくり

地域社会との連携・協力

○学校通信「杉の子だより」による広報
○「ふくしま教育週間」の設定
○地域人材の積極的活用
○地域素材の教材化
○児童の安全確保（見守り隊）
○学校評議員の効果的な活用
○自己評価の結果公表
○地域の伝統行事への参加

平成２４年度　道徳教育の学校における全体計画（構想図）

（資料２）

◇日本国憲法
◇教育基本法
◇学校教育法
◇学習指導要領
◇児童憲章　　など

・時代や社会の要請
・教育行政の重点施策

『心のノート』活用の基本方針

・道徳の時間の一部で補助的に用いたり，各教科の学習内容と関連させたりして活用を図る。
・児童の心のノートのを掲示するなどして、振り返る場を工夫する。

学校の教育目標

(1) よく考える子
(2) 思いやりのある子
(3) 健康でたくましい子

・児童の実態
・教師・保護者の願い
・学校・地域の実態と課題

道徳教育の重点目標

○　基本的な生活習慣を身に付け，節度を守って節制に心がける児童を育てる。
○　より高い目標を立て、希望と勇気をもって最後まで努力する児童を育てる。
○　美しいものや人間の力を超えたものに対する畏敬の念をもつ児童を育てる。
○　公徳心をもって約束やきまりを守って生活するとともに，自他の権利を尊重しながら，自分に　　課せられた義務を果たす児童を育てる。

各学年の重点指導内容

低学年(1・2年)	中学年(3・4年)	高学年(5・6年)
・基本的な生活習慣および思慮、節制 ・勇気 ・思いやり、親切 ・尊敬、感謝 ・敬虔	・節度、自立 ・生命尊重 ・礼儀 ・友情 ・感謝 ・敬虔	・思慮、節度 ・希望、勇気、努力 ・礼儀 ・友情 ・敬虔 ・規則の尊重、公徳心

各教科における道徳教育

国語	道徳的心情を養う基礎となる思考力，想像力，言語感覚を養う。物語文などを通して，登場人物の心情を読みとり，豊かな人間関係づくりの基礎を築く。
社会	調べたり，学び合ったりする活動を通して社会生活を理解し，地域や，人々の営みのすばらしさに気づき，日本や外国の人々への共感と理解を深める。
算数	見通しを持ち，筋道を立てて考え，数理的に処理する力を養うとともに，工夫して生活をよりよくしようとする態度を育てる。
理科	自然との触れ合いや動植物の飼育・栽培活動を通して，生命を尊重し，真理を追究する態度を育てる。
生活	自然や人とかかわる活動を通して生命を大切にしたり，相手のことを思いやったりする心情を養う。
音楽	表現・鑑賞活動を通して，音楽に対する感性を育て，美しいものを尊重する心や豊かな情操を養う。
図工	造形的な創造活動を通して，表現する喜びを味わい，自他の個性を感じとり，協力し合って活動する態度を育てる。
家庭	家族の一員としての役割を認識し，家庭生活向上への実践意欲や，家族を大切にしようとする心情を養う。
体育	心身の健康・安全への理解を深め，自他の心身を大切にしようとする心情や，協力し合って活動する態度を育てる。

道徳の時間の指導方針

・道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め、道徳的実践力を育成するよう，基本的な指導過程を踏まえながら発問の構成や指導方法を工夫する。
・体験活動を効果的に生かす指導を工夫する。
・協力的な指導体制で行う。
・複式学級のもつよさを生かす。

総合的な学習の時間における道徳教育

・自然体験やボランティア活動等の社会体験を通して，道徳的実践力を育てる。

特別活動における道徳教育

学級活動	・話し合い活動や係活動を通して，学級生活の向上を図り，思いやりの心を持ち，望ましい人間関係を育てる。
児童会活動	・学校生活の向上のために，全校児童のことを考え，互いの創意を生かして課題解決に取り組む態度を育てる。
クラブ活動	・共通の興味関心を追求する活動を通して，協力し合う態度や思いやりの心を育てる。
学校行事	・行事への自主的，積極的な参加を通して，集団の一員としての自覚を深め，道徳的な実践意欲を高める。

学校における教育環境の整備

・校庭・校舎内の美化に努め，季節感のある自然環境づくりをする。
・児童相互，教師と児童の豊かな言語環境を整え、「豊かな心コーナー」を設ける。

生活全般における指導

・教師と児童，児童相互の心の交流を図り，児童一人一人が意欲を持って将来を展望できるよう援助する。
・課題を抱えた児童に対しては，学級，学校全体で組織的に取り組む。

特色ある教育活動や体験活動

・授業や学級活動など，学校におけるすべての教育活動において，道徳的実践を促す他，自然，人，社会との触れ合いの場を設けるなど，豊かな体験の場を計画的に設定する。（縦割り班による活動など）

外国語活動における道徳教育

・外国語を通じてコミュニケーション能力の素地を養うとともに，言語や文化について体験的に理解を深めることで，日本人としての自覚をもって世界の人々と親善に努めようとする態度を育てる。

他の学校や教育機関との連携

・保育所・中学校などとの情報交換を密にし，児童の実態をつかみ，定期的な交流を通して関連を深める。

家庭・地域社会との連携

・学校・家庭・地域が連携し，情報を共有するとともに，道徳の授業公開日を設け、道徳教育について共に語り合う場を設定する。また、「学校だより」や学級通信などを通して，子どもの心を育てる共通の役割を担う者としての相互理解を図る。

平成２４年度 第１学年　年間指導計画

（資料３）

	４　月	５　月	６　月	７　月	８月	９月	１０　月	１１　月	１２　月	１　月	２　月	３　月
道徳	礼儀 「おはよう」	明朗・誠実 「みんな　なかよし」	明朗・誠実 「ふわふわことばちくちくことば」	基本的生活習慣 「うんこのはなし」	基本的生活習慣 「おしゃべりしましょ」	尊敬・感謝 「どろどろ」	自然愛と動植物愛護 「十七年もまっていたんだ」	自然愛と動植物愛護 「みてみてこんなのみつけたよ」	友情 「つとむくんはやさしいんだよ」	尊敬・感謝 「たからものはなに」	愛校心 「このてはだれ」	規則の尊重・公徳心 「おばあさんのけが」
	基本的生活習慣 「あるひのきょうしつ」	勤勉努力 「じぶんでできるよ」	郷土愛 「きゅうしょくじまん」	協力・労働 「わたしのしごと」		感動と畏敬 「そらをみあげて」	家族愛 「でも、だーいすき」	生命尊重 「いただきますということ」	思いやり 「くり」	家族愛 「いいおばけ」	生命尊重 「ぼくのじこ」	愛校心 「きょうしつさんありがとう」
		生命尊重 「こぶたん」	感動と畏敬 「どこにかくれているのかな」	友情 「くまさんのなみだ」		郷土愛 「おまつりにいったよ」	規則の尊重 「らいおんのがっこう」	礼儀 「こころをこめてありがとう」	基本的生活習慣 「もったいないばあさん」	思いやり 「しゅわでうたおう」	善悪の判断と勇気 「いっしょにやろうね」	
心のノート	あいさつは心のリボン					ありがとうをさがそう		生き物をそだてよう				
	気持ちのいい一日	がんばってるね！		大切なそれぞれのしごと		心いっぱいにかんじよう		みんなみんないきているよ	あたたかいこころをとどけよう	家族が大好き		おせわになってます
				ともだちといっしょ		あなたがそだつ町	みんな楽しくきもちよく				よいことすすんで	
日常生活	入学式 はじめての小学校 生活	学校生活に慣れる	動植物の飼育・栽培	規則正しい生活	素直な気持ち	よい行い 日本の良さ	友達との関わり	クラスの深まり	努力	自然への畏敬の念	愛校心	進級への期待
生活	がっこうだいすき		夏といっしょにあそぼう！		いきものとなかよし		あきがいっぱい		みんないっしょに	ふゆをたのしもう	もうすぐ２年生	
国語	はる（読） どうぞよろしく（読）	わけをはなそう（話）	すきなものなあに（書）	ひらがなあつまれ（書）	いちねんせいのうた（読）	はなしをきこう（話）	こえにだしてよもう（読）	むかしばなしがいっぱい（読）	かるたをつくろう（書）	おはなしをたのしもう（書）	ちがいをかんがえてよもう	おもいでをかこう（読）
他教科	体育「マラソンカード」 音楽「にっぽんのうた」			音楽「にっぽんのうた」			書写「書写展」 図工「造形展」 音楽「にっぽんのうた」	体育「校内持久走記録会」	図工「市版画展」	書写「書き初め」 [illegible]	体育「校内なわとび大会」	
特活（学活） （児童会）	●どうぞよろしく ○係を決めよう ●安全な歩き方 １年生を迎える会	●楽しい図書館 ○運動会を成功させよう ●むしばのよぼう	●早寝早起き朝ごはん ○雨の日の過ごし方を考えよう ●きれいなからだ	○七夕集会の準備 ●知らない人に気をつけよう ●夏休みの過ごし方 たなばた集会	●２学期のめあて	○係を見直そう ○遠足について ●音楽祭にむけて	○スポーツ大会をしよう（計画） ○スポーツ大会をしよう（実施） ●ほうしゃせんってなに	●のこさずたべよう ○学習発表会を成功させよう ○学級の時間（計画）	○学級の時間（実施） ●身の回りの整理整頓 ●冬休みの過ごし方	●新年をむかえて ○かかりをきめよう ○豆まき集会の準備をしよう	●男の子女の子 ○学級の時間（計画） ○６年生に感謝しよう 豆まき集会	○１年生のさよならかい ○さよならかい ●春休みの過ごし方 ６年生を送る会
行事	入学式 始業式 交通教室 身体測定	防犯教室 運動会	鑑賞教室	終業式 愛校活動	始業式 愛校活動 身体測定	見学学習 避難訓練 遠足 音楽祭 水泳記録会	おでかけありオス クリーン活動	日曜参観 持久走記録会	学習発表会 避難訓練 終業式 愛校活動	始業式 愛校活動 校内書初め会 身体測定	縄跳び大会	修・卒業式

平成２４年度　第１学年　道徳の学級における指導計画　　年間プラン　　担任　　（資料４）

〈担任教師としての思い〉

いつでも誰にでも、気持ちのよい返事やあいさつができるようにさせたい。また、「ありがとう」「ごめんなさい」が素直に言えるようになってほしい。自分のことは自分でできるようにさせるとともに、友達のよさに目を向け、助け合おうとする心を育てたい。

〈保護者の願い〉

まずは、健康であることが第一である。そして、他人に迷惑をかけず、家族を大事にする人になってほしいという願いがある。普段の様子から、元気で明るくあいさつのできる子、こつこつと努力する子に育ってほしいという考えもある。

〈道徳の重点目標〉と〈学年の重点〉

全体計画に記載
◎今年度の課題…自分や友達のよさに目を向け、よさを認め合うことのできるクラス

〈学級の道徳性の実態〉

何事にも意欲的で、笑顔が多く見られる。しかし、時々自己中心的なところもみられ、友達同士のトラブルで嫌な思いをすることもある。

めざそうとする児童像・学級像	①自分のことが自分でできる児童 ②友達や先生、家族や地域の人などとの関わりから、「他者への意識」を向けることで、相手の気持ちを考えた行動ができる学級	**要となる道徳の時間の位置づけ・考え方**	「自分のこころと向き合う時間」として、自分の内面にある考えや思いを整理する時間にしたい。また、他の授業や行事などの体験を振り返りながら、自分の内面の変化や成長を発見する時間にしたい。

学級の課題	テーマ「楽しい学校生活」～じぶんでできるよ～				テーマ「友情」～ともだちっていいな～					テーマ「協力」～ともだちとたすけあおう		
月	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
今年度の重点実践活動及び関連活動	○校外子ども会 ○縦割り班編成 ○１年生を迎える会	○運動会 ○臨賞教室	○縦割り班活動	○たなばた集会 ○愛校活動	○愛校活動 ○縦割り班編成	○水泳記録会 ○音楽祭	○おでかけアリオス ○クリーン作戦	○持久走記録会 ○縦割り班編成	○学習発表会 ○愛校活動	○愛校活動	○豆まき集会 ○なわとび大会	○６年生を送る会 ○終・卒業式
重点主題 ※体験活動等と特に関連させて取り扱う資料	「みんな なかよし」２-（３） 「ふわふわことば　ちくちくことば」１－（４）		ぼくにも　もたせて４-（３）		「こころはっぱ」<東書>２－（３）	「二わのことり」<光文>２－（３）		「つとむくんは　やさしいんだよ」２－(3)		「この手はだあれ」４－（４）		「きょうしつさん、あ
他の教科や領域，総合（単元）との関連	・「どうぞよろしく」（学）	・「係活動」（学） ・「学校探検」（生）		・夏の遊び（生） ・授業参観	・「はなそう、きこう」（国）			・「つたえよう、わたしのすきないろ・かたち」（図） ・「みんないっしょに」（生）		「しんねんをむかえて」（学）		「思い出して書こう」（国） もうすぐ２ねんせい（生）
実践概要及び反省	第１学期				第２学期				年間の反省			

（資料５）

第１学年　道徳指導案

平成２４年１０月２３日（火）　５校時
場所：１年教室　　授業者：

◎研究主題　自他との豊かなかかわりを通して、よりよい生き方を考える児童の育成

１　主題名　ともだちのきもちをおもうこころ　２－（３）【友情】
（資料名　「二わのことり」　＜光文書院　ゆたかなこころ　１年＞

２　主題設定の理由

（１）ねらいとする価値について

友情は、「友達関係において基本とすべき精神」である。特に低学年では、学級の生活を共にしながら仲良く遊んだり、困っている友達のことを心配し助け合ったりする経験を積み重ねることで、友達のよさをより強く感じるようになる。また、特に身近にいる友達と仲良く活動し、助け合うことの大切さを実感できるようにすることが大切である。

（２）児童の実態について

本クラスは男子３名、女子２名、計５名のクラスである。５人は保育園の時も一緒のため、小学校に入っても人間関係に特に変化はない。仲が良く、毎日楽しく学校生活を送っている。しかし、１年生ということもあり、自己中心性が残り、相手の立場になって考えたり、相手の気持ちを考えて行動したりすることはまだ難しいため、トラブルが起こることがある。また、５人という少人数での生活に慣れているため、人間関係が固定化しており、友達の気持ちを考えないで行動してもお互いに許してしまう傾向もあり、道徳的心情の深まりが実生活につながりくいことが課題である。

そこで、本時の学習を通して、相手の気持ちになって考える大切さを感じさせ、友達に優しくしたいという心情を高めていきたいと考える。

（３）資料について

本資料では、同じ日にうぐいすの家の音楽会とやまがらの家の誕生会に招待され、主人公であるみそさざいの葛藤を題材にした話である。うぐいすの家は華やかでごちそうがあり、たくさんの仲間もいる。一方で、やまがらの家は山奥の寂しいところにあり、誰も行こうとしない。はじめはうぐいすのところへ行ったみそさざいだったが、悩んだあげく、最後にはやまがらのところへ行き、やまがらが涙を流して喜んだという話である。

本時では、みそさざいの立場を追っていきながら、うぐいすの家では楽しくなかったみそさざいの気持ちや、涙を流して喜んだやまがらの姿を見たときのみそさざいの気持ちを考えさせたりすることで、相手の気持ちを考える大切さや友達に親切にしてよかったという気持ちを感じ取らせていきたい。

３　道徳の授業を充実させるための手立て

・手立て①　資料をペープサートで紹介することにより、資料の世界に入り込みやすくし、道徳的価値への気づきを高める。（研究内容①－イ）

・手立て②　吹き出しのワークシートを使うことで、みそさざいの気持ちに迫りやすくさせ、道徳的価値に対する考えを深める。（研究内容①－エ）

4．関連的指導の構想

＜学校行事・特活など＞	＜児童の意識＞	＜各教科＞
○夏休み	○　友達と遊ぶのは楽しいな。 ○　嫌なことされたな。 ○　友達と仲良くしたいな。	○おしゃべりしましょう （朝の会） グループで自分の好きなことや好きなものについて話をする。
○音楽祭の練習 友達と協力しながら、一つの作品を作り上げる。	○　○○さんは、△△が好きなんだね！知らなかったな。 ○　初めて知ってうれしいな。 ○　がんばっていたね！	

９月
○主題名　ともだちっていいな　「友情」２－（３）
○資料名　「こころはっぱ」（東京書籍）
○ねらい　友達と進んでかかわり、相手を思いやって友達を大切にしようとする心情を育てる。

○遠足 見学を通して海の生き物に興味を持ち、仲良く交流する。	○　友達は親切だな。 ○　友達の気持ちを考えてあげたいな。	○ゆうだち（国語） 友達とけんかをして仲直りする時の心情を考える。

１０月
○主題名　ともだちのきもちをおもうこころ　「友情」２－（３）
○資料名　「二わのことり」（光文書院）
○ねらい　やまがらを思いやって揺れ動くみそさざいの気持ちを考えることを通して、友だちのよさに気づき、相手を思いやって友だちを大切にしようとする心情を育てる。

○授業参観 親子や縦割り班でのレク活動を通して、協力して活動する。 ○学習発表会 友達と協力しながら、一つの作品を作り上げる。	○　友達にやさしくしてあげよう。 ○　友達に優しくしてもらうと嬉しいな。	○体育「ボール遊び」 友達と協力してボール遊びをする。

１２月
○主題名　ともだちのよいところ　「友情」２－（３）
○資料名　「つとむくんはやさしいんだよ」（日本標準）
○ねらい　友達と仲良くし、助け合う心をもって接する態度を育てる。

	○　どんなお友達にもいいところはあるんだな。 ○　友達のいいところを見つけたいな。	

5　本時の目標

（1）ねらい　　みそさざいの揺れ動く気持ちを考えることを通して、相手を思いやって友だちを大切にしようとする心情を育てる。

（2）展開

段階 時間	学習内容　○発問　中心発問 ・予想される児童の反応	○指導の留意点　◆評価
気づく（5分）	1　友達について振り返る。 ○　友だちに助けてもらった・親切にしてもらった時はいつですか。	○　自分が友達に親切にしてもらって嬉しかったことを話させて、友達についての学習であることを想起させる。 ○　親切カードを読み返しながら、親切にしてもらったことを思い出せるようにする。
考える（25分）	2　資料をもとに考える。 ○　うぐいすの家に行ったみそさざいは、どうして楽しくなかったのでしょう。 ・　やまがらのことがきになったから。 ・　やまがらが誕生日だから。	○【手立て①】資料の内容をペープサートで紹介することで、資料の世界に入りやすし、みそさざいの気持ちを考えやすくする。 ○　うぐいすの家にいたら楽しいはずだが、やまがらのことを考えると何だか楽しくないというみそさざいの気持ちに共感させる。
	○　やまがらの涙をみて、みそさざいはどう思ったでしょう。 ・　来てよかったな。 ・　親切にしてよかったな。 ・　やまがらさんが喜んでくれて、自分もうれしい。	○【手立て②】吹き出しのワークシートを使うことで、みそさざいの気持ちに迫れるようにする。 ○　思い切って行動したことで、やまがらに親切にできたという、みそさざいの充実感に共感させるようにする。
	○　みそさざいさんのいいところはどこでしょう。 ・　やまがらさんがさみしいだろうなと考えるところ	○　みそさざいの行動を振り返りながら、みそさざいのように、相手の気持ちになって行動するよさを確認する。
見つめる（10分）	3　自分の生活について振り返る。 ○　友達が悲しそうにしていたらどうしますか。 ・　優しい声をかけてあげる。 ・　大丈夫？と聞く。 ・　助けてあげる。	○　悲しそうにしている友達を見かけたらどうするかを想起させ、相手の気持ちを考えて自分はどう行動するかを考える。 ◆　相手の気持ちを思いやって友達を大切にしようとする心情が高まったか。（発言）
深める（5分）	4　友達からの手紙を読む。	○　クラスの友達から親切にしてもらったことを、手紙に書いておき、渡して読むことで、友達に親切にしてよかったなと感じたり、親切にされると嬉しいなと感じたりすることで、今後への意欲を高める。

（資料６）

１．道徳教育全体計画

１　学校の教育目標
○　よく考える子ども
○　思いやりのある子ども
○　健康でたくましい子ども

２　道徳教育の重点目標
○　基本的な生活習慣を身に付け，節度を守って節制に心がける児童を育てる。
○　より高い目標を立て、希望と勇気をもって最後まで努力する児童を育てる。
○　美しいものや人間の力を超えたものに対する畏敬の念をもつ児童を育てる。
○　郷土の伝統と文化を大切にし，先人の努力を知り，郷土を愛する心をもつ児童を育てる。

３　指導方針
（１）道徳教育全体計画に基づき，学校教育活動全体を通して望ましい道徳性を育成するために行うことを基本とする。
（２）「生活習慣、自立節度、思慮節度」と「礼儀」・「敬虔」・「公徳心・規則の尊重」の指導内容，豊かな体験による児童の内面に根ざした道徳性の育成を図る。
（３）道徳の時間の展開部を研究し，特別活動や豊かな体験活動等との関連を図りながら，道徳的価値の内面的自覚を深め，道徳的実践力の育成を図る。
（４）道徳の時間をはじめ，各教科等々日常生活における「心のノート」の活用をさらに促し，自己の道徳的課題に気づいたり，道徳的実践に向けての考えを深めたりできる指導の充実を図る。
（５）学校，家庭，地域社会の連携を図り，共通理解をもって指導にあたるとともに教育環境の整備に努め，豊かな情操をはぐくむ。
（６）特別活動や体験活動，集団活動等を通して，規範意識を高める指導に努める。

４　本年度の重点指導内容
○　生活習慣、自立節度、思慮節度
○　礼儀
○　敬虔
○　郷土愛・愛国心

◆低学年◆
○　健康で安全に気を付け，物や金銭を大切にし，身の回りを整え，わがままをしないで，規則正しい生活をする。１－（１）
○　気持ちのよいあいさつ，言葉遣い，動作などに心掛けて，明るく接する。２－（１）
○　美しいものに触れ、すがすがしい心を持つ。３－（３）
○　郷土の文化や生活に親しみ，愛着をもつ。４－（５）

◆中学年◆
○　自分でできることは自分でやり、よく考えて行動し、節度のある生活をする。１－（１）
○　礼儀の大切さを知り、だれに対しても真心をもって接する。２－（１）
○　美しいものや気高いものに感動する心を持つ。３－（３）
○　郷土の伝統と文化を大切にし，郷土を愛する心をもつ。４－（５）

◆高学年◆
○　生活習慣の大切さを知り，自分の生活を見直し，節度を守り節制に心掛ける。１－（１）
○　時と場をわきまえて，礼儀正しく真心をもって接する。２－（１）
○　美しいものに感動する心や人間の力を超えたものに対する畏敬の念を持つ。３－（３）
○　郷土や我が国の伝統と文化を大切にし，先人の努力を知り，郷土や国を愛する心をもつ。４－（７）

5　道徳の時間の指導の充実

（1）道徳の時間の基本方針

①　各教科，外国語活動，総合的な学習の時間及び特別活動等学校の教育活動全体で行う道徳教育の要の時間として，児童の発達段階に即しながら，学習指導要領に示された基本的な道徳的価値の全体にわたって計画的，発展的に指導する。

②　一人一人の児童が道徳的価値の自覚を深め，自己の中に形成された道徳的価値を基盤として，自己の生き方について考えを深めていくことができるようにするとともに，道徳的心情，道徳的判断力，道徳的実践意欲や態度等の道徳的実践力を育成することができるよう，指導の計画や方法を工夫する。

（2）年間指導計画作成の観点

①　年間指導計画の作成は，学校経営の方針の下に，道徳教育推進教師（道徳主任）を中心に全教師が協力して行う。

②　年間を通して計画的，発展的な指導を行うことができるよう標準授業時数を確保するとともに，各学年段階の内容項目は相当する学年で全て取り上げる。

③　主題（ねらいと資料）の配列に当たっては，主題の内容，他の教育活動との関連，地域の行事，季節的変化等を十分に考慮する。

④　内容相互の関連性や学年段階ごとの発展性を考慮して，６年間を見通した計画的，発展的な指導が行えるようにするとともに中学校における道徳の時間との関連を考慮する。

⑤　本年度の重点目標である「自他の立場を尊重し思いやりの心を育てること，公徳心をもって約束やきまりを守って生活すること」については，年間に複数の主題を配当し，重点的に指導することができるようにする。

⑥　各教科等における道徳教育及び体験活動との関連を考慮し，指導の内容及び時期の位置付け等，具体的な関連の見通しをもつことができるようにする.

⑦　高学年においては，主題や資料の内容に基づき，複数時間の指導を位置付ける.

⑧　年間指導計画の変更や修正は，児童の道徳性の育成という観点から考えて，より大きな効果を期待できるとの判断を前提として，道徳教育研究部での検討を経て行う。

⑨　年間指導計画が一層効果的に実施されるために週指導計画を活用して日常的に実施上の課題を記入する等，全教師の共通理解のもと，常に評価と改善を行う。

（3）道徳の時間の指導

①「道徳的価値についての自覚及び自己の生き方についての考えを深め，道徳的実践力を育成する」という道徳の時間の目標を達成するため，基本的な指導過程を踏まえながら発問の構成や指導方法を工夫する。

○　資料の主人公等への共感を軸としながら，共感のみに終わらない指導

○　ねらいとする道徳的価値に対する多様な感じ方や考え方による学び合い

○　資料の特定場面を離れ，ねらいとする価値に照らして，これまでの自分はどうであったかを深く見つめることができるような指導

②　日常の生活における体験や，集団宿泊活動やボランティア活動，自然体験活動等の体験活動を効果的に生かす指導を工夫する。

○　児童が日常の体験を想起し実感を深めやすい資料を生かす。

○　体験を想起して発表することができるような発問を工夫する。

○　実物の観察を生かした活動，コミュニケーションを深める活動，模擬体験や役割演技等の表現活動を取り入れる。

○　体験活動の中で感じたことや考えたことを道徳の時間の話合いに生かす。

○　体験活動の活動内容と似た題材等を道徳の時間で生かす。

○　道徳の時間で直接的な体験活動そのものを行うのではないことに留意する。

（4）協力的な指導体制

①　道徳の時間の指導は，学級担任が行うことを基本とするが，必要に応じて，校長や教頭などの参加による指導，他の教職員とのティーム・ティーチングなどの協力的な指導を行う。

○　児童の道徳性の育成という観点から，より大きな効果を期待できるという判断を前提として，道徳教育研究部での検討を経て行う。

6　各教科，外国語活動，総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育の充実

（1）各教科，外国語活動，総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育の指導の方針

①　各教科等の目標や内容及に含まれる道徳的価値を明確にし，それらを意識しながら指導する。

②　道徳教育指導の効果をあげることにとらわれ，教科の本質を見失わないようにする。

③　思いやりがあり，温かな学級の雰囲気や入間関係の醸成に努め，自主的で協力的な学習態度や学習習慣を育成する。

④　基本的な学習の方法を習得させ，望ましい学習態度の習慣形成を図る。

⑤　教師は，授業内容の指導に力を入れると同時に，道徳の目標や内容に示されている趣旨を自らが授業の中で実践するように心掛ける。

（2）各教科等における指導

①　各教科及び外国語活動の特質に応じて適切な指導をする。

②　重点指導内容については，特に関連の深い単元，道徳教育の観点から指導内容を明らかにする。

（3）総合的な学習の時間における指導

①　子どもの思いにもとづくテーマを設定し展開する学習を通して，自己の生き方を探究することができるようにする。

②　様々な事象に向き合い，様々な人々と対話をし，探究的な学習を行っていく中で自分自身を見つめ，互いに認め合い，高め合うことの意義に気付くとともに　自分なりの価値観を育てていくことができるようにする。

また、地域の人々との交流を一層促進し、自分が住む地域を大切に思い、地域の一員としての自覚を深め、よりよく生きていこうとする意識を高めていくことができるようにする。

（4）特別活動等における指導

①　集団の一員として，なすことによって学ぶという特別活動の特質から，道徳的実践が効果的に展開できる場や機会であることを積極的に生かし，道徳性の育成を図る。

②　各領域においては，次の点を重視して道徳的実践の指導を行う。

・学級活動……「学級活動の内容」を踏まえ，児童自らが充実した学級や学校の生活をつくっていく活動や日常生活や学習への適応及び健康や安全に関する指導を行う。

・児童会活動…学校生活の充実と向上を図る活動や異年齢集団での活動を通して，異年齢による望ましい人間関係の形成やよりよい学校づくりに参画する態度の育成を図る。

・クラブ活動…異年齢の交流を深め，協力して共通の興味・関心を追求する活動を通して，異年齢による望ましい人間関係の形成や個性の伸長，よりよいクラブ活動づくりに参画する態度の育成を図る。

・学校行事……各行事特有の体験的な活動を通して，望ましい人間関係を形成し，集団への所属感や連帯感を深め，公共の精神を養い，協力してよりよい学校生活を築こうする態度の育成を図る。特に、地域との関わりを重視した活動では、郷土愛に対する意識のこれまで以上の育成を図る。

7　豊かな体験活動における道徳教育の充実

（1）体験活動における道徳教育の指導の方針

①　児童の道徳的成長のために，集団生活を通して協力して役割を果たすことの大切さ等を考える集団宿泊活動，社会の一員であるという自覚と互いが支え合う社会の仕組みを考え，自分自身をも高めるためのボランティア活動，自然や動植物を愛し，大切にする心を育てるための自然体験活動を重視して指導にあたる。

②　様々な体験活動を通して，調和のとれた形で児童の内面に道徳性が育成されるよう配慮する。

③　体験活動を通して育成が期待できる道徳性を明確にするとともに、様々な活動の場面で児童の道徳的行為が見られた場合は，積極的に価値づける機械を設ける。

④　道徳の時間が、体験活動を踏まえ，児童が様々な道徳的価値に気付き，その意味や大切さについて考えを深める要の時間として機能するよう指導方法を工夫する。

8　学級，学校の人間関係，環境の整備や生活全般における指導の充実

（1）学級，学校の人間関係，環境の整備や生活全般における指導の方針

①　日常生活の全体が道徳性を育む機会であるという認識に立ち，児童の実態を把握し，児童の発達段階や特性等に応じて，基本的な生活習慣や礼儀等の生活上のマナー，人間としてしてはならないことをしないこと等を身に付けられるよう，児童の内面に根ざした指導を行う。

② 朝の活動，ふれあいタイム等を活用し，教師と児童がともに語り合う場，児童一人一人が互いに認め合い，励まし合い，学び合う場と機会を積極的に設けることで，温かく心の通い合う教師と児童，児童相互の人間関係を醸成し，道徳的価値の醸成を行う。

③ 多様な人間関係を体験すること自体が道徳性を高める重要な機会になるとの認識に立ち，異学年間の交流や教職員も含めた学校全体での交流，さらには，家庭や地域社会と連携した幅広い人々との関わりを生み出していく。

④ 教室や校舎・校庭などの物的な環境は，児童の道徳性の育成に深く関わっているとの認識に立ち，環境美化や整理整頓の指導，学校や地域の歴史を伝えるもの，学校や学級における道徳的な学習情報に関する展示等を工夫する。

（２）道徳的実践を促すコーナーの経営

① 子どもたちの心に響き，心を耕し，心の力を引き出すことや，多様な考え方に触れさせ，子どもたちの道徳的実践を促すために，学級前廊下の掲示板を道徳コーナーとして活用する。

② 道徳コーナーは，子どもの学校生活における豊かな表情の写真や心をゆさぶるような作文，心のノートを拡大したもの、道徳的な価値にかかわる詩、日々の生活の様子などを掲示する。

９　家庭や地域社会との連携による道徳教育の充実

（１）家庭や地域社会との連携による道徳教育の指導の方針

① 児童の道徳性は全ての環境との影響によって育まれるものであり，とりわけ，基本的な生活習慣の確立や規範意識などの育成は，道徳的実践力を高めていく上で家庭や地域社会の果たす役割が大きいことを認識して指導に当たる。

② 学校と家庭，地域社会とが一体となって，ともに子どもを育てているという意識をもてるよう，学校だよりや学年だより等を通して情報を提供していくとともに道徳の時間の授業を積極的に公開し，道徳教育について共に語り合う場を設定する。

③ 生活科，総合的な学習の時間等を中心として「地域に学ぶ」「地域で学ぶ」活動を積極的に取り入れ，地域の多様な人々と触れ合い，交流を深めたり，地域で行われる諸行事に参加したりすることで連携を深める。

④ 授業前のアンケートや児童への手紙等，道徳の時間の実施に保護者の協力を得たり，地域教材の開発や活用に当たって地域の人々の協力を得たりする等，道徳の時間を中心とした連携を計画的に進める。

（２）家庭や地域への道徳の時間の授業公開

① 授業参観において道徳の授業を保護者に公開する機会を設定する。その際に学校における道徳教育の取組をまとめた資料を配付するとともに、それらの資料をもとに保護者と教師が道徳教育について共に語り合う場を設定する。

１０　道徳教育の推進体制

（１）道徳教育推進教師の位置づけ

① 校長の方針のもと，学校が組織体として一体となって道徳教育を進めるために全教師が参画する体制を整える。その際に，道徳教育の推進を中心となって担う教師（道徳教育推進教師）の位置づけを明確にし，機能するようにする。

（２）道徳教育推進教師の役割

① 道徳推進教師は，全教師の参画，分担，協力のもとに道徳教育が円滑に推進され，充実していくようにするため，次の役割を担う。

ア　道徳教育の指導計画の作成に関すること
イ　全教育活動における道徳教育の推進，充実に関すること
ウ　道徳の時間と指導体制に関すること
エ　道徳用教材の整備・充実・活用に関すること
オ　道徳教育の情報提供や情報交換に関すること
カ　授業の公開など家庭や地域社会との連携に関すること
キ　道徳教育の研修の充実に関すること
ク　道徳教育における評価に関すること

（３）全教師による推進体制

○ 道徳推進教師を中心に，全教師がそれぞれの役割意識をもち，自らの役割を進んで果たすことができるように，道徳部等の組織を生かしながら機能的な推進体制を確立する。

平成２５年度 第６学年　年間指導計画

（資料7）

	４　月	５　月	６　月	７　月	8月	9月	１０　月	１１．月	１２　月	１　月	２　月	３　月
道徳	理想・勇気・努力 日付とコトバ	郷土愛・愛国心 よみがえった立ち ねぶた	個性の伸長 自分の気持ちおしゃ べりしあおう	思いやり しらんぷりはできな いよ	自然愛と環境保全 サケの一生	公徳心、規則の尊 重、権利・義務 落書き	集団への参加と責 任 ゴミ出しまかせて	自由、自立と責任 犬と私の10の約束	勤労・社会奉仕 二十一世紀をにな う若い人たちへ	勤労・社会奉仕 助け合って生きる	真理の尊重と創意 工夫 木のいのち	生命尊重 ヘソのおの話
	明朗・誠実 だから私はがんばれ る！	生命尊重 涙そうそう	礼儀 親しき仲にも礼儀あ り	望ましい生活習慣、 思慮・節制 キッパリ！自分を変 えよう		信頼、友情と男女 の協力 積極的に聞こう	家族愛 まゆみちゃんと私	郷土愛・愛国心 フダバスズキリュ ウの里	望ましい生活習慣、 思慮・節制 「欲しい」ってなに？ 「必要」ってなに？	公徳心・規則の尊 重 どうして、学校へ行 くのかな	国際理解、親善と 人類愛 科学は平和のため にある	公正・公平、正義 こんなとき、どうす る？
	信頼・友情と男女の協 力 ロレンゾの友だち	寛容と謙虚 今、一番苦しんでい るのは	国際理解・親善と人 類愛 世界がもし100人の 村だったら	理想・勇気・努力 目の前にあることを 一生懸命やる		尊敬・感謝 人と人をつなぐ地域 通貨	勤労・奉仕 助け合って生きる 生命尊重 エイズと闘った少年 の記録	思いやり 積極的に話そう	個性の伸長 オトちゃんルール	愛校心 卒業まで五十日	自由、自立と責任 インターネットの掲 示板	感動と畏敬 コタンに生きる
心の ノート		「見つめようわたしのふ るさと　そしてこの国」 P104～107	思いやり しらんぷりはできな いよ		「生きているんだね自然 とともに」P68～71		「いきいきしている自分 かがやいている仲間」P88 ～91					「いま生きている わたしを感じよ う」P64～67
	「まじめであることはわたし のほこり」P24～27		「心と心をつなぐネット ワーク」P40～43			「『ありがとう』って言 えますか？」P56～59		「見つめようわたしのふ るさと　そしてこの国」 P104～107	「自分を見つけみがきを かけよう」P32～35		「心は世界を結 ぶ」P108～111	
				「夢に届くまでの ステップがある」 P16～19			「働くってどういうこ と？」P92～95		「自分を見つけみがきを かけよう」P32～35	「学び合う中で」 P100～103		「大いなるものの息づか いをきこう」P72～75
日常生活	目標を持った行動 学習に向かう姿勢	よい行い 命の大切さ	自分らしさ	規則正しい生活	環境を大切に	友達との関わり 自分を見つめる		家族への思いやり	感謝の気持ち	生き物に親しむ 愛校心	ルールやマナー	命の大切さ
総合	森林環境・地球温暖化				国とともに 日本の文化・歴史を調べよう			保存食作り		郷土食調べ		
国語	詩を楽しもう	春は、あたたか 生き物はつながりの中に 学級討論会をしよう	町のよさを伝えるパンフレットを作ろう 伝統文化を楽しもう	夏は、暑し	たのしみは「とんぼ」の俳句を比べる	自分の考えを明確に伝えよう	生活の中の敬語 作品の世界を深く味わおう	秋は、人恋し 物の見方を広げよう		冬は、春の隣 言葉について考えよう	物語を読んで、考えを深めよう	生きる
他教科	体育「マラソンカード」		理科「生き物のくらしとかんきょう」		社会「江戸の文化と新しい学問」		書写「書写展」 図工「造形展」	体育「校内持久走記録会」	図工「市版画展」	書写「書き初め」 音楽「伝えよう日本の楽器」	体育「校内なわとび大会」 図工「１２さいの力で」	音楽「音楽におもいをこめて」
特活 （学活） （児童会）	●６年生としての心がまえ ○学級の組織を作ろう ○１年生を迎える会の準備をしよう ●交通安全について １年生を迎える会	●図書館の利用 ○運動会を成功させよう ●むし歯の予防	●早ね・早おき・朝ごはん（食） ○陸上大会に向けて ○七夕集会の準備をしよう	○学級の問題を話し合おう ●防犯意識をもとう ●夏休みの過ごし方 七夕集会	●２学期のめあて	●宿泊活動について ○係を見直そう ○音楽祭に向けて	●放射線から身を守るには ○スポーツ集会をしよう ●誘いにのらない（性） 高齢者に学ぼう集会	●将来の健康を考えよう（食） ○学習発表会を成功させよう ○卒業文集の計画を立てよう	●ボランティアについて考えよう ○学級の時間（実施） ●冬休みの生活	●新年をむかえて ○卒業文集を作ろう ○豆まき集会の準備をしよう	○卒業に向けて計画を立てよう ○学級の時間（計画） ●中学校の新しい生活 豆まき集会	○学校のためにできること ○学級の時間（実施） ●春休みの過ごし方 ６年生を送る会
行事	入学式 始業式 避難訓練 交通教室	大運動会 防犯教室 鑑賞教室 バケツ稲作り	クリーン活動 リハーサル大会 陸上競技大会	終業式 愛校活動	始業式 愛校活動	避難訓練 宿泊活動 方部音楽祭	クリーン活動 学習発表会	親子ふれあい活動 昔遊びをしよう	わら細工作り 防災教室 終業式 愛校活動	始業式 愛校活動		修・卒業式

【いわき地区】いわき市立川部中学校

推進校紹介

学　校　名	福島県いわき市立川部中学校
所　在　地	福島県いわき市川部町坂下２６番地
学校長名	佐　藤　隆　宏
学校の教育目標	・広い心を持った、思いやりのある生徒 ・意欲的に学習し、主体性のある生徒 ・心身ともに健康で、たくましい生徒
学級及び児童生徒数	第１学年１学級（２３名）、第２学年１学級（２６名） 第３学年１学級（３０名）、計３学級、７９名
道徳教育にかかわる取組みの概要	価値内容項目３－（１）「生命の尊重」を中心に、生徒一人一人に道徳性の発展を促す道徳の時間のあり方についての研究を行う。

1　研究テーマ

「生徒一人一人に道徳性の発展を促す道徳のあり方」
～授業の実践を軸として、資料の選択・分析・提示・効果的な導入のあり方の研究～

2　テーマ設定の理由

＜道徳性の発展とは　＝　道徳的実践力を高めること＞

道徳の授業を通して道徳的実践力を高めるためには、資料等を通して自分との関わりにおいて道徳的価値を十分に考え合わせる必要があると考える。そこで、考え合わせる上での適切な資料や効果的な扱い方について研究を深める。

＜育成したい力と道徳的価値＞

説得力のある自己表現力の育成　＝　自分の考えを相手にわかりやすく楽しく、説明・説得することができる能力

《道徳的価値》「生命の尊重」、「寛容な心」、「自主的な行動」、「時と場に応じた言動」

＜研究仮説＞

自分の考えを整理し自分のことばで分かりやすく発表することや、他の人の考えをよく聞き自分との共通点や相違点を明確にしていくことができれば、道徳的価値を深め、さらなる道徳性の発展を促し、道徳的実践力の向上につなげることができるのではないか。

3　研究計画

月　日	内　　容
５月３０日	県道徳教育推進協議会
６月上旬	研究計画作成
６月～７月	指導案検討委員会、授業研究
９月２１日	道徳地区別推進協議会（授業公開、事後研究会）
１０月中旬	指導案検討委員会
１１月１４日	中教研道徳部授業公開、研究協議会

4　生徒の実態及び地域の課題

（１）生徒の実態から

○生徒対象の道徳性検査「ヒューマン」から

・総合的な道徳性は全国とほぼ同じ傾向にある。

・２学年は道徳性総合が、全国より「一般的に望ましい道徳的心情あるいは判断力と認められる選択肢」の回答が多い傾向にあり、主として自分自身に関すること以外は望ましい回答が多い傾向にある。

・道徳的心情と道徳的判断力を同じ程度に高めていくとよい。

（２）保護者の考え（アンケート調査より）

○特に劣っていると考えている項目

・１－（２）「強い意志」　・２－（１）「適切な言動」　・２－（５）「寛容の心」

○生きていく上で特に大切な項目

・３－（１）「生命の尊重」・２－（２）「思いやりの心」　・２－（６）「感謝の心」

（３）前年度の保護者アンケートでは「寛容の心」「自主的な行動」「適切な言動」が特に劣っていると考えている保護者が多かった。今年度のアンケートでは、さらに「強い意志」が加わっている。

以上、ヒューマンテスト及び保護者アンケートから考えられることは、これらの価値は知識として理解していても、それをことばにして表明したり、行動に表すところ、すなわち道徳的実践までには高められていない状態にあるといえる。

5　道徳教育における校長の指導の方針（資料１）

教育活動全体を通し、家庭や地域と連携しながら生徒一人一人の道徳性の発展を図るために道徳教育を充実させる。特に道徳の時間を中心に、生徒の内面に根ざした道徳的実践力を高める。

6　平成２４年度　道徳教育の全体計画の特徴（資料２）

前年度の反省を生かし、生徒や地域の実態を反映した全体計画としている。特に全学年指導重点内容項目に３－（１）「生命尊重」として計画を作成した。

7　平成２４年度　道徳の時間の年間指導計画の特徴（資料３）

年間を通し、学校行事と関連する内容項目が同じ時期になるように配列した。

8　平成２４年度　学級における指導の計画の特徴（資料４）

事前調査を行い、生徒の実態を把握した上で、保護者、学校、担任の願いを含めた計画を作成した。

9　道徳教育推進教諭等における実践レポート

１．主題設定の理由

（１）生徒の実態から

○生徒対象の道徳性検査「ヒューマン」から

・総合的な道徳性は全国とほぼ同じ傾向にある。

・２学年は道徳性総合が、全国より「一般的に望ましい道徳的心情あるいは判断力と認められる選択肢」の回答が多い傾向にあり、主として自分自身に関すること以外は望ましい回答が多い傾向にある。

・道徳的心情と道徳的判断力を同じ程度に高めていくとよい。

（２）保護者の考え（アンケート調査より）

○特に劣っていると考えている項目

・強い意志１－（２）

・適切な言動２－（１）

・寛容の心２－（５）

○生きていく上で特に大切な項目

・思いやりの心２－（２）

・感謝の心２－（６）

・生命の尊重３－（１）

（３）前年度の保護者アンケートでは「寛容な心」「自主的な行動」「適切な言動」が特に劣っていると考えている保護者が多かった。今年度のアンケートでは、さらに「強い意志」が加わっている。

以上、ヒューマンテスト及び保護者アンケートから考えられることは、これらの価値は知識として理解していても、それをことばにして表明したり、行動に表すところ、すなわち道徳的実践力までには高められていない状態にあるということであろう。

２．育成したい力と道徳的価値

説得力のある自己表現力の育成	＝	自分の考えを相手にわかりやすく楽しく、説明・説得することができる能力

《道徳的価値》

「寛容な心」「自主的な行動」「時と場に応じた言動」「生命の尊重」

３．研究主題について

「生徒一人ひとりに道徳性の発展を促す道徳の在り方」
～授業の実践を軸として、資料の選択・分析・提示・効果的な導入の在り方の研究～

道徳性の発展とは　＝　道徳的実践力を高めること

道徳の授業を通して道徳的実践力を高めるためには、資料等を通して自分との関わりにおいて道徳的価値を十分に考え合わせる必要があると考える。そこで、そうした考え合わせる上で適切な資料や効果的な扱い方について研究を深める。

４．研究仮説

生徒一人ひとりの実態を把握し、道徳の時間を通して、自分の考えを整理し、自分のことばで分かりやすく発表したり、他の人の考えをよく聞き、自分との共通点や相違点を明確にしていくことができれば、道徳的価値を深めさらなる道徳性の発展を促し、実践力の向上につなげることができるのではないか。

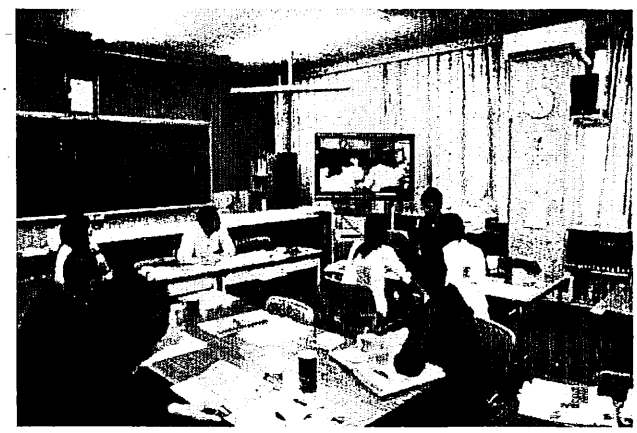
５．研究内容

（１）道徳の時間における指導の工夫
（２）総合的な学習時間の充実
（３）特別活動やPTA活動の充実
（４）各教科での道徳的価値の扱い
（５）道徳的実践力を高めた生徒像

６．研究の実際

（１）道徳の時間における指導の工夫

指導案検討委員会



校内研修会

①昨年度の研修より

昨年度、学習過程の役割や発問の工夫、資料分析の方法、読み物資料やモラルジレンマ資料の活用、構成的グループエンカウンターを導入した授業などについての研修を行い、道徳の時間の基本的なスタイルを確認した。

今年度も道徳の時間の基本的な学習過程を以下の通りとし、授業を行った。

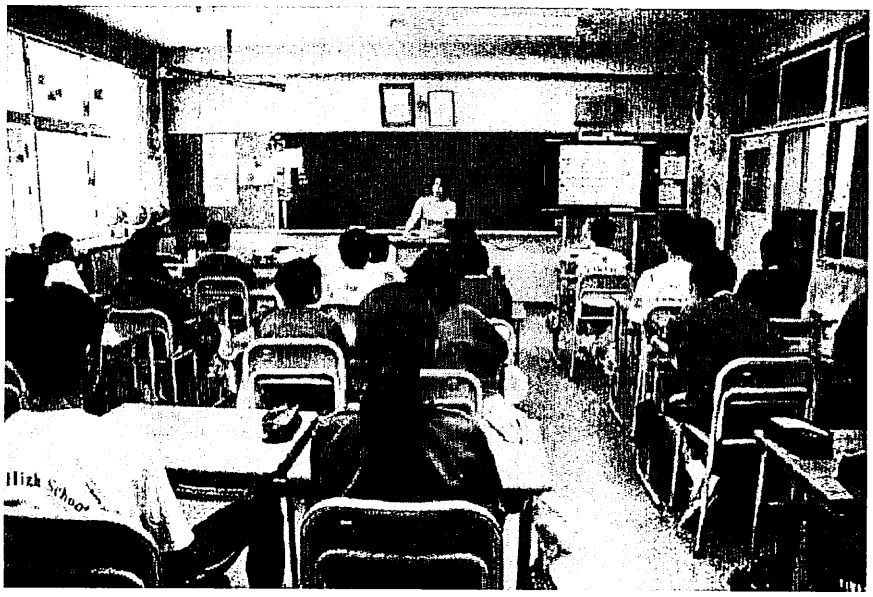
学習過程	主　な　役　割
導　　入	本時への関心・意欲の喚起、資料へのスムーズな移行 （事前アンケート調査の結果の提示、写真、VTRの提示など）
展開（前半）	資料を用いて道徳的価値を追求する。 （資料提示の工夫、発問の工夫、話し合い活動の工夫、板書の工夫、ワークシートの工夫など） ※多様な価値観を引き出す発問。意見を否定しない。
展開（後半）	資料から離れ、今までの自分を振り返る。 （事前アンケート調査の結果の提示、話し合い活動、ゲストティーチャーの説話、お手紙の披露など） ※資料離れをしっかりする。
終　　末	実践意欲を高める。 （感想の発表、詩の朗読、教師の説話、手紙の朗読など） ※決意表明にしない。押し付けない。

②資料の選択・分析・提示について

本校では、東京書籍の「明日をひらく」を使用しているが、生徒の実態によってはストックしてある別資料を活用したりしている。また、教師間で以前使用した資料などを共有

したりしている。
　また、資料分析図を活用することにより、その資料の特性を知ることができ、発問構成などに役立てている。関連価値も押さえることができるため、ゆさぶりをかけ、ねらいに焦点を当てた発問づくりをすることができた。
　資料の提示については基本的に副読本をそのまま使用しているが、２分割で提示する場は印刷して配布したり、部分的に消して印刷したり、工夫して提示している。
③多様な導入の在り方について
　導入については、その資料の特性、生徒の実態などにより、多面的に検討する必要がある。授業全体の流れを考えながら、一番効果的な方法を選択した。
（例）
・「花に寄せて」　→作者の星野富弘さんについて知る。
　事故当時、生死を彷徨うような状態で絶望的な心情であったことを知らせるために、大型モニターで写真などを提示する。
　→資料（展開）へ移行する。
・「妹に」　→幼いころの写真を見る。名前の由来を知る。
　それぞれが周囲から多くの愛情を受け、願いを込められて育ってきたことに気づかせる。
　→関心・意欲の喚起、中心発問に関連付け。（妹の誕生に対し、家族がどんな思いを持っているか）
・「この子のために」→教室の写真を見る。
　普段生活している教室の写真を見せ、ここに潜んでいるものは何かと問いかける。
　→関心・意欲の喚起、中心発問に関連付け（どうすればよかったのか）
④発問の工夫について
　資料の特質に合わせて中心発問を考える。
（例）
・登場人物の考えが前半と後半で変化する資料
　→登場人物の考えがなぜ変化したのか、その理由を考えさせる。
・登場人物の行為について考えさせる資料
　→その行為をとった理由を問う。
　→どうすればよかったのかを問う。
・モラルジレンマ資料
　→理由づけをさせて行為の是非を問う（１次判断）。多くの生徒の理由を聞いた後、また同じ発問をする（２次判断）。
・感動資料
　→どんなところに感動したか、感想を聞く。
⑤ワークシートの工夫
・自分の考えをまとめ、記入させる発問を絞る。
・先読みされないように、ワークシートに発問は印刷しない。
・イラストなどを活用し、場面によっては吹き出しにするなど、生徒に興味を持たせるようにする。
⑥板書の工夫
・１時間に黒板１面を基本として、導入から終末までの流れが見てわかるようにする。
・氏名票の活用により、類型したときにわかりやすく、簡単に移動したりすることができる。
⑦指導案検討会・事後研究会
　指導案ができた段階で事前に検討会を行った。学習過程の各段階ごとに授業をシミュレーションしながら、生徒の実態に合わせて本時のねらいに迫るための発問や学習活動につい検討した。特に中心発問については、上記④に基づいて考えた。
　また、授業参観では、「授業参観の記録」と照らし合わせて授業の評価を行い、事後研究会の資料とした。
　授業後には事後研究会を行い、ねらいが達成できたか、各段階での補助発問や切り返し、資料の提示の方法などが適切であったかなどについて協議した。
⑧「生命の尊重３－（１）」の指導について
　それぞれの学年で研究授業を行った。重点指導内容項目として位置づけしているが、自他の生命を尊重する心情を養うために、道徳の時間だけではなく、教育活動全体を通

して指導している。入学式や始業式、終業式での校長式辞、生徒指導主事の講話、全校集会などでも命の大切さについて指導を行った。



研究授業（1年1組）

研究授業（2年1組）

（2）総合的な学習時間の充実

総合的な学習の時間（保健体育ゼミ）

総合的な学習の発表（文化祭）

①表現の力を育てるテーマの研究
②人間関係を深められる集団の作り方
本校の総合的な学習の時間は、縦割りのゼミ形式で実施している。担当教師の専門性を生かしてテーマを設定し、学習した内容を文化祭で発表した。プレゼンテーションソフトを用いたり劇を演じたり、それぞれのゼミによっていろいろな表現の仕方で発表することができた。同じ興味・関心を持つ集団で学習活動を行う中、上級生が下級生をリードし、役割分担しながら楽しく学習を進め、望ましい人間関係を醸成することができた。

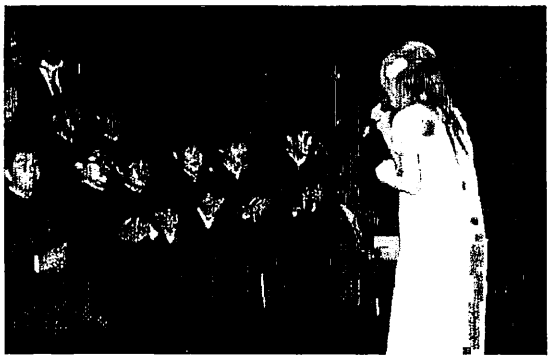
（3）特別活動やPTA活動の充実

合唱コンクールに向けての練習

親子ケイタイ電話講座

文化祭特別ゲスト
シンガーソングライター

①多様な話し合いを取り入れた特別活動の研究
②豊かな体験や多様な人との出会いを経験できる特別活動やPTA活動の工夫
生徒会を中心として生徒が主体的に活動できるようにするために、教師の支援体制を整えている。生徒会総会では準備された議案だけではなく、その場での質疑や学校への要望など、本音での話し合いを行わせた。
（例）○体育館工事のため文化祭の会場をどうするかを話し合わせた。
→生徒の考えからアリオスで開催することに決定した。サプライズ企画で、シンガーソングライター「はな」さんに来ていただき、ショートコンサートを開催した。はなさん自身の命にかかわる体験談を話していただいた。
○いも煮会について雨天時にどうするかを話し合わせた。
→中止ではなく調理室や渡り廊下など、学年で割り振りして実施する案が出された。
体育祭においてはＰＴＡ種目を設定し、保護者と地域の方にも参加していただき、盛り上げることができた。


文化祭「はな」さんコンサート

いも煮会

（４）各教科での道徳的価値の扱い

①各教科の単元、題材と道徳的価値との関連を明確にする。

②それの取り上げ方の研究

道　徳　教　育　と　各　教　科　と　の　関　連

教科	道徳との関連	関連する指導内容		
		1年	2年	3年
国語	言語能力を高めるための豊かな表現力、思考力を培うとともに、人間や社会、自然などについて深く考えさせることによって豊かな心情を育成する。	1-(2) 希望、勇気、強い意志 1-(3) 自主自律、誠実と責任 3-(1) 生命の尊重 4-(9) 愛国心、伝統の継承と文化創造	1-(2) 希望、勇気、強い意志 1-(3) 反省と向上、創造力の伸長 2-(2) 人間愛、思いやり 4-(10) 国際理解と平和、人類愛	1-(2) 希望、勇気、強い意志 1-(3) 自主自律、誠実と責任 2-(2) 人間愛、思いやり 3-(1) 自然愛護、豊かな心、良識の心
社会	社会事象に対する正しい見方や考え方を培うとともに、社会の一員としての自覚を高め、地域を愛護する能力を養成、地域社会や国に対する豊かな心情を育成する。	4-(3) 正義、公正公平、差別・偏見の克服 4-(5) 敬老愛、先人への感謝と感謝 4-(9) 愛国心、伝統の継承と文化創造 4-(10) 国際理解と平和、人類愛	4-(3) 正義、公正公平、差別・偏見の克服 4-(5) 敬老愛、先人への感謝と感謝 4-(9) 愛国心、伝統の継承と文化創造 4-(10) 国際理解と平和、人類愛	4-(1) 温故、地域開発、社会の発展と繁栄 4-(4) 信頼と責任の自覚、業績生活の向上 4-(3) 正義、公正公平、差別・偏見の克服 4-(10) 国際理解と平和、人類愛
数学	論理を立てて論理的な思考力を高めるとともに、問題を発掘し、解決し、主体的に取り組ませようとする態度を育成する。	1-(2) 希望、勇気、強い意志 1-(3) 自主自律、誠実と責任 1-(4) 真理愛、真実の追求、理想の実現	1-(2) 希望、勇気、強い意志 1-(3) 自主自律、誠実と責任 1-(4) 真理愛、真実の追求、理想の実現	1-(2) 希望、勇気、強い意志 1-(3) 自主自律、誠実と責任 1-(4) 真理愛、真実の追求、理想の実現
理科	自然に親しみ、自然を愛する心情を培うとともに、さまざまな事象・現象を探求する態度や能力を養い、自然との調和をもって生きていこうとする心情を育成する。	1-(4) 真理愛、真実の追求、理想の実現 3-(1) 生命の尊重 3-(2) 自然愛護、豊かな心、良識の心	1-(4) 真理愛、真実の追求、理想の実現 3-(1) 生命の尊重 3-(2) 自然愛護、豊かな心、良識の心	1-(4) 真理愛、真実の追求、理想の実現 2-(4) 正しい異性理解と人格の尊重 3-(1) 生命の尊重 3-(2) 自然愛護、豊かな心、良識の心
音楽	音楽や芸術を通した豊かな表現力を育成し活動を通し、美しさ、楽しさを深く味わうとともに、美しいものに感動する心情を育成する。	3-(2) 自然愛護、豊かな心、良識の心 4-(4) 信頼と責任の自覚、創造生活の向上 4-(9) 愛国心、伝統の継承と文化創造 4-(10) 国際理解と平和、人類愛	3-(2) 自然愛護、豊かな心、良識の心 4-(4) 信頼と責任の自覚、創造生活の向上 4-(9) 愛国心、伝統の継承と文化創造 4-(10) 国際理解と平和、人類愛	3-(2) 自然愛護、豊かな心、良識の心 4-(4) 信頼と責任の自覚、創造生活の向上 4-(9) 愛国心、伝統の継承と文化創造 4-(10) 国際理解と平和、人類愛
美術	絵画、彫刻、デザインなどの造形による表現活動や美術や自然の感動活動を通して豊かな情動を育うとともに、自らの生活を創造的に工夫する豊かな心情を育成する。	1-(3) 自主自律、誠実と責任 1-(5) 反省と向上、個性の伸長 3-(2) 自然愛、豊かな心、良識の心 4-(10) 国際理解と平和、人類愛	1-(3) 自主自律、誠実と責任 1-(5) 反省と向上、個性の伸長 3-(2) 自然愛、豊かな心、良識の心 4-(10) 国際理解と平和、人類愛	1-(3) 自主自律、誠実と責任 1-(5) 反省と向上、個性の伸長 3-(2) 自然愛、豊かな心、良識の心 4-(10) 国際理解と平和、人類愛
	自主的にくらす能力を養い、不安で実践的で自主的、自己の一員としての自覚を	1-(1) 望ましい生活習慣、心身の健康、規則遵守	1-(1) 望ましい生活習慣、心身の健康、規則遵守	1-(1) 望ましい生活習慣、心身の健康、規則遵守

新学習指導要領の完全実施に基づいて、道徳教育と各教科との関連を見直した。特に今年度の重点指導内容項目の「生命の尊重」については、関連する教科とその領域の学習で取り上げ指導した。

（５）道徳的実践力を高めた生徒像

①現状から変容させたい姿を明確にする。

②その姿を行動目標化する。

教師の目指す生徒像の具体的な言動や姿を事前に調査して明確にして指導に生かした。

１０　道徳の時間に係る資料（資料５）

１１　平成２５年度　道徳教育の全体計画の特徴（資料６）

１２　平成２５年度　道徳の時間の年間指導計画の特徴（資料７）

１３　研究の成果と課題

（１）道徳性の発展、自己表現力の育成について

○生徒一人一人の自主性・主体性が高まってきた。

自己の立場や役割を理解し、責任を持った言動が少しずつとれるようになってきている。授業中の発言や普段の生活での会話でも、筋道を立てて自分の考えを表現したり、発表したりすることができるようになってきた。

○リーダーシップをとれる生徒がふえてきた。

生徒会を中心とした自主的・主体的な活動を通して、それぞれが自信を持つようになり、委員会活動や部活動に積極的に取り組むようになってきた。

○教師の共通理解と支援体制が整っていること、また、生徒どうし、生徒と教師の望まし

い人間関係ができていること、学校と家庭・地域が連携していくことが大切である。

（２）授業の実践を通して

○道徳の時間の基本的な学習過程と、各段階での役割を知ることができた。

○導入のあり方については、道徳の時間をどのように進めていくのか全体をイメージして検討していくことが大切である。生活に関連する内容や資料にそのままつながるものなど、扱う資料によって検討する必要がある。

○資料の提示については、部分的に動画を使用したり、プレゼンテーションソフトを用いて提示すると効果的であった。ただし、一度流れてしまうと残るものがないので、あらすじを拡大コピーするなどして、もう一度見直すことができるようにする工夫が必要である。

（３）生命の尊重について

○命があることを当たり前のこととして何も感じずにいた生徒が多かったが、たった一つのかけがえのないものとして、生きていることに幸せを感じる生徒がふえた。

○「生命を尊重する心」がどれだけ高まったかを判断するのは非常に難しい。生徒の変容を見るための教師の観察ばかりではなく、家庭の様子のアンケートなど、多面的に見ていく必要がある。

○年間指導計画で行う授業時数が限られているため、心に残る授業を行う必要がある。また、学校の教育活動だけではなく、家庭や地域が連携して「生命を尊重する心」を育んでいくことが大切である。

子どもの心に灯をともす学校

2012年　川部中学校はこんな学校を目指します

いわき学校教育改革プラン
『子どもたちに「いきる力」を育みます。』

地域との連携・協力を深め、地域に誇りをもたせます
○　クリーン活動（６月、10月）
○　職業講話・体験活動（９月）
○　ふくしま教育週間（11月）
○　総合学習発表会(10月)

保護者と連携し夢や目標を達成させます
○　学校便りやホームページにて、きめ細やかに情報を発信します。
○　学校評価を実施し、学校経営に生かします。
○　保護者がより参画できる活動を推進します。
ＰＴＡ・体育文化後援会総会、学級懇談会、授業参観、部活動保護者会、体育祭、四時祭、講演会

小学校・高校との連携を深め、川部中生としての誇りをもたせます
○　高等学校体験入学　（夏季休業中）
○　県立高等学校説明会（11月）
○　小中、中高連携授業研究　（10月他）
○　小学６年生中学１日体験（10月、２月）
○　入学説明会　（２月）

教育目標
◎　広い心をもった思いやりのある生徒
◎　意欲的に学習し主体性のある生徒
◎　心身ともに健康でたくましい生徒

夢や目標達成のための基盤をつくります
○　学びの基礎力を高め、着実に根気強く学ぶ習慣を確立する。
○　命の大切さを理解し、体を鍛え、健康・安全に生活する態度を育成する。
○　自分や仲間の個性を理解し、多様な集団の中で豊かな人間関係を築く能力を育成する。

一人ひとりの生徒を大切にします
○　テストや調査、日常の観察を通し一人一人の実態を把握する。
○　日常の会話、定期・随時の教育相談、道徳・学級活動により生徒の思い、願いを受け止める。
○　授業や学校生活において、一人ひとりの能力や特性に応じた指導を推進する。

川部中学校の授業は…
○　学びの基礎力を高めるとともに、学習内容や学習方法がよくわかり、学習したことが役立つ授業を目指します。
○　少人数学級のメリットを生かし、生徒一人ひとりに応じたきめ細やかな指導に努め、基礎・基本の確実な定着を図ります。
○　家庭学習と連携した授業を目指します。
○　数学、英語を中心に補充的な学習、発展的な学習のためのカリキュラムを充実させます。
○　毎時間の授業に工夫を凝らし、生徒の可能性を見つけ伸ばす指導に努めます。
○　ノーチャイムの日課を通し、目的意識と主体的な学習態度を育てます。

願う生徒像・教師像
《生徒像》
○短期・長期の目標をもち、何事にも挑戦する生徒
○地域、学校、自分に誇りをもてる生徒
○お互いを大切にし、豊かなコミュニケーション能力をもつ生徒
○目標をもち継続的に学習に励む生徒
○心身ともに健康で困難に負けない生徒

《教師像》
○生徒の心に灯をともせる教師
○心身ともに健康で、生徒、保護者、地域から信頼される教師
○よく聴きよく看ることに努める教師
○わかりやすく個を伸ばす授業のできる教師
○見通しをもって計画的に仕事を進める教師

川部中学校の活動は…
○　生徒同士が支えあい、認めあえる集団づくりの基盤となる思いやりの心とコミュニケーション能力の育成に努めます。
○　総合的な学習の時間や生徒会活動、部活動など縦割り集団による活動のメリットを生かします。
○　生徒との相談のみならず、保護者との相談の機会を数多く設定します。
○　部活動や対外コンクール参加への積極的な指導支援を通して、主体性やチャレンジ精神の育成に努めます。
○　ボランティア活動や森林環境学習等の豊かな体験を通して、「豊かな心」の育成に努めます。
○　夢や目標を育みます。

道徳的実践力を育成するために
○　積極的にあいさつを交わし、他の人々に対し、感謝と思いやりの心を表現できる温かな集団づくりに努めます。
○　ボランティア活動や自然体験活動等、創意工夫のある指導を充実させ、「豊かな心」の育成に努めます。
○　自分を見つめ、考え、実践する力を育む、道徳の時間を充実させます。

健康・体力の増進のために
○　保健体育や学級活動の授業を通して、基本的な生活習慣の育成や薬物乱用防止等の指導に力を入れます。
○　健康・安全・食に対する正しい知識を身に付けさせ、家庭と連携し、適切に健康を管理・改善する実践力を育成します。
○　保健体育と部活動の連携のもと、基礎体力の向上を図り、心身ともに調和のとれた生徒の育成をめざします。

生徒一人ひとりの夢や目標の達成のために

道徳教育全体計画

（資料２）

道徳教育の重点目標

○日常生活において、望ましい生活習慣を身につけさせる。
○物事に積極的に取り組み、最後まで責任を持ってやり遂げる態度を養う。
○相手の立場や気持ちを考え、優しく思いやりのある心で接することのできる態度を養う。
○心身ともに健康で、自ら適切に判断し、その考えに従って自主的に行動できる主体性に富んだたくましい生徒を育てる。
○自他の生命を尊重するとともに、節度と調和のある生活を営もうとする態度を養う。
○他からの助言や忠告を素直に聞き入れ、自らの生活を反省することのできる謙虚な態度、および、他との協力を惜しまない態度を養う。

各学年の重点目標

第１学年	第２学年	第３学年
・毎日の生活の中で基本的な生活習慣を身につけさせるとともに、自分なりの目標を定め、意欲的に努力する強い意志を育てる。 ・助言や忠告を素直に聞き入れる態度を育てるとともに、自己の確立を支援する。	・集団での生活を通して望ましい生活習慣を身につけさせるとともに、物事に粘り強く取り組む強い意志を育てる。 ・人間関係の中から、自他の命の尊さを自覚させ、感謝や思いやりのある態度を育てる。	・毎日の奉仕活動を通して勤労の尊さを認識させ、美しい環境の中で生活しようとする心情を育てる。 ・生徒理解に心がけ、生徒の個性を伸ばす。 ・計画的な生活を送ることで、けじめのある生活態度を身につけさせる。

道徳の時間の指導方針

共通項目

○適切な資料の収集に努め、授業における効果的な活用方法を研究する。
○手作り資料の整備に努め、全職員が利用できるようにする。
○道徳の時間に対する意欲を高揚するような授業の実現に努める。

第１学年	第２学年	第３学年
・道徳の時間に対する意欲を高揚するために、楽しみながら学べる構成を工夫する。	・日常の学校生活の中で、道徳的体験を振り返らせる場を設定する。	・モラルジレンマ資料の活用などを工夫し、積極的な討論ができるようにさせる。 ・発問を工夫し、生徒の多様な考えを引き出す。

家庭、地域社会関係機関との連携

○基本的な生活習慣や善悪の判断、社会生活上のルールなどにつて内面や実感に訴える指導を徹底する。
○ボランティア活動や自然体験活動などの体験活動を生かした学習を充実し、道徳性の育成を図る。
○授業公開等を通し、道徳的価値に対する保護者との共通理解を図る。

主　題　一　覧　表　1年

（資料３）

月	主題名	資料名	内容項目
4	感謝の気持ち	1．キタジマくんからのメッセージ	2－（6）感謝、報恩
	かけがえのない自然	2．ハチドリのひとしずく	3－（2）自然の愛護、豊かな心、畏敬の念
5	責任の自覚	3．増えた塩ます	1－（3）自主自立、誠実と責任
	生命の尊さ	4．花に寄せて	3－（1）生命の尊重
	男女の理解と協力	5．班でのできごと	2－（4）正しい異性理解と人格の尊重
	広い心で	6．自分らしさ－松井秀喜	2－（5）個性や立場の尊重、謙虚、広い心
6	正義を貫く	7．いじめっ子の気持ち	4－（3）正義、公正公平、差別・偏見の克服
	ひとのやさしさ	8．心をつなぐバス	2－（2）人間愛、思いやり
	世界の人々のために	9．命を助けたい	4－（10）国際理解と平和、人類愛
	奉仕の精神	10．楽寿号に乗って	4－（5）勤労、社会への奉仕、公共の福祉
7	節度ある生活	11．山に来る資格がない	1－（1）望ましい生活習慣、心身の健康、節度節制
	やり抜く心	12．九番バッター	1－（2）希望、勇気、強い意志
8	心と形	13．朝市の「おはようございます」	2－（1）礼儀、適切な言動
9	みんなのために	14．合唱コンクール	4－（7）愛校心、校風の樹立
	友情の尊さ	15．ちいちゃんのつめ	2－（3）友情・信頼
	集団の中での協力	16．全校一をめざして	4－（4）役割と責任の自覚、集団生活の向上
10	よりよい社会をめざして	17．本が泣いています	4－（2）公徳心、社会連帯の自覚
	明るい家庭	18．母はおしいれ	4－（6）家族愛
	誠実な生き方	19．デンさん	1－（3）自主自律、誠実と責任
	心がけたいこと	20．忘れ物	1－（1）望ましい生活習慣、心身の健康、節度節制
11	真の思いやりとは	21．思いやりの日々	2－（2）人間愛、思いやり
	正義を求めて	22．正義ってなに？	4－（3）正義、公正公平、差別・偏見の克服
	権利と義務	23．選手に選ばれて	4－（1）遵法、権利義務、社会の秩序と規律
	命を見つめ命を支える	24．決断！骨髄バンク移植第一号	3－（1）生命の尊重
12	ふるさとに生きる	25．ぼくのふるさと	4－（8）郷土愛、先人への尊敬と感謝
	働く喜び	26．「看護する」仕事	4－（5）勤労、社会への奉仕、公共の福祉
	生きがいのある人生	27．シュリーマンの夢	1－（4）真理愛、真実の追求、理想の実現
1	国際社会への貢献	28．日本から来たおばさん	4－（10）国際理解と平和、人類愛
	自主と責任	29．父のひとこと	1－（3）自主自律、誠実と責任
	広い心	30．二度と通らない旅人	3－（3）人間の強さと気高さ、生きる喜び
2	反省と努力	31．木箱の中のえんぴつたち	1－（5）反省と向上、個性の伸長
	伝統や文化の継承	32．古都の雅、菓子の心	4－（9）愛国心、伝統の継承と文化の創造
	集団生活の向上	33．席がえ	4－（4）役割と責任の自覚、集団生活の向上
	生きることの大切さ	34．見沼に降る星	3－（1）自然の愛護、豊かな心、畏敬の念
3	自然のすばらしさ	35．火の島	3－（2）生命の尊重
	合　計　　３５　時間		

学級における道徳教育全体計画

第１学年１組　　（資料４）

教育目標 ― 道徳教育全体計画 ― 年間指導計画

学級における道徳性の実態
・思いやりや感謝の気持ちはあるが、行動や言葉としてうまく表現することが苦手である。
強い意志を持って、自分の生活を見直したり、反省して自らを高めようとしたりするのが苦手である。

保護者の願い
・あいさつや言葉遣いがきちんとできる生徒
・目標に向かって努力できる生徒
・周囲の人に感謝できる生徒

学級担任の願い
・規則正しい生活を心がけ、心身共に健康な生徒
・自分で考え、行動できる生徒
・自分の意見をしっかり持ち、堂々と発表できる生徒

道徳教育重点目標

学年重点目標
・毎日の生活の中で、基本的な生活習慣を身につけさせるとともに、自分なりの目標を定め、意欲的に努力する強い意志を育てる。
・助言や忠告を素直に聞き入れる態度を育てるとともに、自己の確立を支援する。

目指す生徒像
・進んで学習に取り組み、自分のよさを伸ばすことができる生徒
・規則正しい生活をし、積極的に心と体を鍛えることができる生徒
・自分の将来に希望を持って進路計画を立てることができる生徒

目指す学級像
・生徒どうしで支え合い、助け合うことができるクラス
・将来に希望を持って計画的に学習し、目標を達成できるクラス

学級における重点目標
・より高い目標に向かって、計画的に努力する心を育てる。
・他の生き方、考え方を受け入れ、自己を見つける心を育てる。

学級目標
・明日笑うために、今日努力するクラス
・個性を認め合えるクラス

教科指導における道徳教育
・目標を持たせ、地道に努力を継続させる指導を通して、自己の理想の実現に対する意欲化を図るとともに、豊かな人間性の育成を図る。

生徒指導における道徳教育
・自主的、自立的に諸活動に参加させる意欲を育て、集団の向上のために努力する態度を育てる。
・教育相談、カウンセリングを通して個人の悩みや問題など、個に応じた指導を心がけ、学校生活への適応を図る。

性教育・人権教育を通しての道徳教育
・エイズの疾病の概念を理解させ、人間尊重の精神に基づき、相手の人格を思いやる態度の育成を図る。

日常生活を通しての道徳教育
・基本的な生活習慣と健康安全についての理解を深め、学校生活の充実・向上を図るとともに、集団生活における自己の役割の自覚を図る。

特別活動における道徳教育
＜学級活動＞
・人間としての生き方の指導を通して、自己実現を目指す意欲を養う。
・学級の一員としての自覚を深め、集団生活の向上に貢献しようとする態度を育成する。
＜生徒会活動＞
・委員会活動を通して、自己の役割を理解し、集団生活の向上に寄与する態度を育成する。
・活動を通して、自己実現を図ろうとする実践的な態度を育成する。
＜学校行事＞
・行事への参加、協力を通して、集団生活の向上を図ろうとする意欲を育成する。
・体験活動を通して、学校や地域社会に対し、寄与する態度を育成する。

総合学習における道徳教育
・自ら課題を見つけ、学び、主体的に判断し、よりよく問題を解決しようとする意欲を高める。
・問題解決や探求活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えさせる。

「道徳の時間」の指導方針
・生徒の実態を的確に把握し、人間としてよりよい生き方への指針となる指導の実践を図る。
・生徒の実態に即した資料の選定、指導過程、形態の工夫に努める。
・教師と生徒、生徒相互の人間関係を重視し、自由に発言できる雰囲気作りを心がけ、他の生き方、考え方を通して自己を見つめる場とする。

家庭・地域との連携に関する内容と方法
・家庭訪問、学級懇談などを通して保護者との連携を図り、学級、及び生徒一人一人の道徳的課題の解決に役立てる。

基本的な生活習慣に関する指導計画
・言語環境を整え、場に応じた言動ができるように意識化を識化を図る。
・けじめある生活習慣の定着を図るために、時間を有効に使う態度の育成を図る。
・生活の中に目標を持たせ、学校生活の充実が図れるように自主性を育成する。

教育環境の整備計画
・個性を生かした学級掲示物の作成に取り組ませ、教室環境に対する一人一人の意識化を図る。
・係活動を通して、教室環境の整理整頓を図り、責任感を養うとともに、習慣化を図る。
・校舎内外の環境美化、整備に対する意識化、意欲化を図る。

豊かな体験活動計画
・勤労生産的活動を通して、勤労の意義の理解を深め、進んで事にあたる実践的態度の育成を図る。
・奉仕的活動を通して、学校や地域社会における個人の役割や責任の意識化を図る。
・社会に目を向けさせ、健全な社会性と主体的判断力の育成を図る。

（資料５）

１年１組　道徳の時間の指導案

日　時　　平成２４年１１月１４日（水）５校時
場　所　　１　年　１　組　　教　室
指導者

１．主題名　　生命の尊重

２．資料
（１）資料名　　「決断！　骨髄バンク移植第一号」

（２）中心価値　〔内容項目　３－（１）　生命の尊重〕
　　関連価値　〔関連項目　２－（２）　人間愛、思いやり〕

３．主題設定の理由
（１）価値観
　全国的にいじめ問題がクローズアップされ、中学生が命を絶つという痛ましい事件が起きている。いじめの背景には他人の存在を軽んじる風潮が、自殺の背景には自己肯定感の低さが感じられる。
　本時の中心価値である「生命の尊重」について、７月に星野富弘さんの「花に寄せて」を基にした資料で授業を実施した。「当たり前の生活ができる幸せを誇りに思う。」「人生に全力を注ぐことが、自分にはまだできていない。いつかそうなりたい。」などの意見が多くあり、かけがえのない自己の生命について考えさせることができた。本時はさらに、周囲の人々に支えられて自己の命があることに気づかせ、自己以外の生命も同様に大切にできるようにさせたい。

（２）生徒観
　５月に実施した道徳性検査の結果は、多くの項目において，全国の傾向とほぼ同様である。しかし、道徳的心情は理解できても、なかなか行動に移せないという側面が見られる。学活や二者面談などで、は、道徳の授業で学んだことを行動できたクラスメートを褒めたり、認めたりすることを意図的に行っている。
　また、小学校から知っている仲間であるため、「○○君は小学校から、ああだから。」と決めつけ、それ以上の関わりを持とうとしないこともある。道徳や各教科を通じて、グループや班で話し合う活動をできるだけ取り入れた。こういった話し合いや表現活動から、少しずつ、他の生徒の意見に影響を受け、自分の考えを深めたりする姿が見られるようになった。自分や他人の存在や意見を大切にし、お互いの成長を認めあえるクラスになることが期待される。

（３）資料観
　テレビ番組「プロジェクトＸ」を資料化した読み物である。白血病患者を救うかけがえのない制度である骨髄バンクの設立と、日本初の移植手術を行ったドナーと患者のドラマである。
　ドナーが、恐怖と使命感の間で揺らぐ心情を理解させながら、自分の命と同様に他人の命を大切にするとはどういうことか、考えさせることができる資料である。

（４）指導観
　事前にアンケートをとり、骨髄バンクや臓器移植などについて、どれくらい知っているか、また、自分だったらどうするかなどを把握した結果を見せ、ねらいにせまることが効果的と考えた。
　また、他者の意見にも耳を傾ける姿勢を育てるために、資料を読んで個人の考えを深めてから、グループで話し合いをさせることとした。これらの指導を通じて、かけがえのない自他の生命を尊重する態度を育成したい。
　最後に、教師自身の「臓器提供ドナーカード」を提示することで、身近に自分のできることがあると気づかせたい。

４．本時のねらい
　命の大切さやありがたさをしっかりと見つめ、その尊さを理解したうえで、現実に自他の生命の尊重に努めようとする態度を育てる。

５．準備・資料
　コンピューター、モニター、ワークシート

６．中教研研究主題との関連
　本校現職の研究主題は「生徒一人ひとりに道徳性の発展を促す道徳のあり方」である。２４年度は２年次であり、副主題として「資料の選択・分析と効果的な導入のあり方」が設定されている。本時の題材である骨髄バンクについての知識がどの程度あるのか、事前にアンケートを行って把握した。その結果、視聴覚教材を用いて、アンケート結果を示すことで、本時のねらいに気づかせたいと考えた。

７．資料分析

＜主要場面＞	＜心の動き＞	＜道徳的価値＞	＜発問＞
医師の森島康雄さんを中心に、日本で最初の「骨髄バンク」が設立される。			
岐阜県大垣市の田中直勝さんに、骨髄バンク提供の電話が入り、承諾する。	・なんだか宝くじにでも当たったような気持ち。 ・お父さんは人助けをするんだぞ。		
提供のために生活を変えた。	・不注意とか自分のわがままのために提供できないことになったらたいへん。	２－（２） 人間愛、思いやり	○なぜ、田中さんは生活を変えたのでしょうか。
検査が始まった。しかし、心が揺れる毎日だった。	・毎日つらい思いをして提供するのに、相手のことは分からない。 ・仕事が手につかない。		○どうして、田中さんは、一度「提供します。」と答えたのに、「断りたい」と思ったのでしょうか。
断るなら今だと考えたが、決心を固めた。	・もし、この手のひらに自分の子どもの命が乗っていたら、握りつぶすことはできない。	３－（１） 生命の尊重	
骨髄バンクの全国集会で、田中さんと橋本さんは、固い握手をして抱き合った。	・生きていることを実感した。 ・感謝の気持ちを伝えられた。 ・勇気を出して、良かった。 ・一つの命を救うことができた。	３－（１） 生命の尊重	◎田中さんと橋本さんが握手したとき、どんな気持ちでしょう。 二人が大事にしたことは何でしょう。

8．指導過程

段階	学習活動	時間	形態	予想される生徒の反応	指導上の留意点 評価
導入	1．本時の課題をつかむ。 (1)事前アンケートの結果を知る。	5	一斉	・骨髄バンク、骨髄移植へのイメージなどを示す。	・本時のねらいについて、意識させる。
展開	2．資料について考える。 (1)前半部分の教師の朗読を聞く。 ○なぜ、田中さんは、生活まで変えたのでしょうか。 ○どうして、田中さんは、一度「提供します。」と答えたのに、「断りたい」と思ったのでしょうか。 (2)後半部分のＴＶ番組を視聴する。 ◎田中さんと松本さんが握手したとき、どんな気持ちでしょう。二人が大切にしたことは何でしょう。	３０ (15) (15)	一斉 個別 個別 ペア	・不注意とか自分のわがままのために提供できなかったらたいへん。 ・提供しても、どんな人だか分からない。 ・ボールペンほどの太い針を体に刺すのが怖い。 ・自分だったら、怖くてできない。 ・勇気を出して良かった。 ・感謝の気持ち。 ・命の助け合い ・人と人とのつながり ・命を分け合うこと	・生徒たちの反応を見ながら、はっきり、ゆっくり朗読する。 ・移植による痛みなど、マイナスの部分にばかりに注意がいかないように声かけをする。 ・「自分にはできない。」と言う反応には、「自分の家族や大切な友だちのためだったら。」など、補助質問をする。 ・田中さんと松本さんの役になり、実際に握手をして、吹き出しに入る気持ちを考えさせる。 ・二人が大切にしたことを考えさせ、ワークシートに書かせる。
	3．本時で学んだことをふまえて、自分の生活を振り返る。 ○命の大切さを感じるのは、どんなときですか。	１０	グループ	・いろんな人の支えがあって、命が救われる。 ・自分にできることをしたい。 ・命で命が救えると知った。	・話し合いをスムーズにするため、ワークシートに書かせる。 ・グループの意見を聞いて感じたことを発表させる。 自他の生命の尊さについて、真剣に考えようとしているか。
終末	4．まとめをする。 (1)教師の話を聞く。	5	一斉		・教諭自身の「臓器提供カード」を見せ、改めて今日のねらいを確認させる。

道徳教育全体計画

（資料６）

道徳教育の重点目標

○日常生活において、望ましい生活習慣を身につけさせる。
○物事に積極的に取り組み、最後まで責任を持ってやり遂げる態度を養う。
○相手の立場や気持ちを考え、優しく思いやりのある心で接することのできる態度を養う。
○心身ともに健康で、自ら適切に判断し、その考えに従って自主的に行動できる主体性に富んだたくましい生徒を育てる。
○自他の生命を尊重するとともに、節度と調和のある生活を営もうとする態度を養う。
○他からの助言や忠告を素直に聞き入れ、自らの生活を反省することのできる謙虚な態度、および、他との協力を惜しまない態度を養う。

各学年の重点目標

第１学年	第２学年	第３学年
・毎日の生活の中で基本的な生活習慣を身につけさせるとともに、自分なりの目標を定め、意欲的に努力する強い意志を育てる。 ・助言や忠告を素直に聞き入れる態度を育てるとともに、自己の確立を支援する。	・集団での生活を通して望ましい生活習慣を身につけさせるとともに、物事に粘り強く取り組む強い意志を育てる。 ・人間関係の中から、自他の命の尊さを自覚させ、感謝や思いやりのある態度を育てる。	・目標を高く持ち、達成に向けて着実に努力しようとする態度を育てる。 ・計画的な生活を送ることで、けじめのある生活態度を身につけさせる。

道徳の時間の指導方針

共通項目		
○適切な資料の収集に努め、授業における効果的な活用方法を研究する。 ○手作り資料の整備に努め、全職員が利用できるようにする。 ○道徳の時間に対する意欲を高揚するような授業の実現に努める。		
第１学年	第２学年	第３学年
・道徳の時間に対する意欲を高揚するために、楽しみながら学べる構成を工夫する。	・日常の学校生活の中で、道徳的体験を振り返らせる場を設定する。	・モラルジレンマ資料の活用などを工夫し、積極的な討論ができるようにさせる。 ・発問を工夫し、生徒の多様な考えを引き出す。

家庭、地域社会関係機関との連携

○基本的な生活習慣や善悪の判断、社会生活上のルールなどにつて内面や実感に訴える指導を徹底する。
○ボランティア活動や自然体験活動などの体験活動を生かした学習を充実し、道徳性の育成を図る。
○授業公開等を通し、道徳的価値に対する保護者との共通理解を図る。

※生徒の実態をもとに各学年の重点目標を設定した。

主　題　一　覧　表　　1年　（資料７）

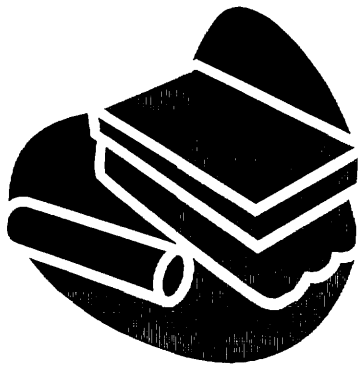
月	主　題　名	資　料　名	内　容　項　目
4	自分の良さを伸ばして	1．世界に一つだけの花	1－（5）反省と向上、個性の伸長
	決まりよい生活	2．朝のうた	1－（1）望ましい生活習慣、心身の健康、節度節制
	決まりを守る心	3．オーストリアのマス川	4－（1）遵法、権利義務、社会の秩序と規律
	郷土に尽くす	4．五色桜	4－（8）郷土愛、先人への尊敬と感謝
5	理想を求めて	5．認められたグラブ	1－（4）真理愛、真実の追求、理想の実現
	伝統の継承	6．伝統文化に夢をもって	4－（9）愛国心、伝統の継承と文化の創造
	集団の中の自分	7．パーカッションとともに	4－（4）役割と責任の自覚、集団生活の向上
6	友情の尊さ	8．心のつながり	2－（3）友情・信頼
	思いやる心のリレー	9．涼風	2－（2）人間愛、思いやり
	ルールを守る	10．キャッチボール	4－（2）公徳心、社会連帯の自覚
7	責任ある行動	11．裏庭のできごと	1－（3）自主自立、誠実と責任
	家族とのかかわり	12．とつげき家族	4－（6）家族愛
8	感謝する心	13．「ありがとう」に出会いたくて	2－（6）感謝、報恩
9	生命の尊重	14．溺れかけた兄妹	3－（1）生命の尊重
	集団の一員として	15．長縄跳び	4－（4）役割と責任の自覚、集団生活の向上
	思いやり	16．絆を結ぶ、虹のかけはし	2－（2）人間愛、思いやり
10	時間を守る	17．釣りざおの思い出	1－（1）望ましい生活習慣、心身の健康、節度節制
	国際理解	18．これからの私	4－（10）国際理解と平和、人類愛
	自然との心のつながり	19．夏の思い出	3－（2）自然の愛護、豊かな心、畏敬の念
	健康な生活	20．自然教室での出来事	1－（1）望ましい生活習慣、心身の健康、節度節制
11	広い心で	21．ふと目の前に	2－（5）個性や立場の尊重、謙虚、広い心
	男女理解	22．クラスメート	2－（4）正しい異性理解と人格の尊重
	責任をもった誠実な行動	23．気まずい時間	1－（3）自主自律、誠実と責任
12	あいさつの大切さ	24．あいさつについて	2－（1）礼儀、適切な言動
	思いやりの心	25．淳子ちゃん、ありがとう	2－（2）人間愛、思いやり
	公正な態度	26．シカト	4－（3）正義、公正公平、差別・偏見の克服
1	家族の絆	27．何だっていいんだなぁ	4－（6）家族愛
	崇高な生き方	28．二度と通らない旅人	3－（3）人間の強さと気高さ、生きる喜び
	公徳心	29．傘の下	4－（2）公徳心、社会連帯の自覚
2	真の友情	30．吾一と京造	2－（3）友情・信頼
	人間の弱さの克服	31．つかの間の出来事	3－（3）人間の強さと気高さ、生きる喜び
	働く喜び	32．自然な笑顔のままで	4－（5）勤労、社会への奉仕、公共の福祉
3	自分の学校に誇りをもって	33．玄さん	4－（7）愛校心、校風の樹立
	着実な進歩	34．実践目標は小きざみに	1－（2）希望、勇気、強い意志
	かけがえのない生命の尊重	35．ＴＳＵＢＡＳＡ	3－（1）生命の尊重
	合　計	３５　時間	

※平成２５年度より、使用副読本を変更するため、主題名と資料名が変わる。
　使用する資料の配列は、基本的には副読本の通りにしてあるが、行事などと関連させて使用していく予定である。小規模校ならではの機動力を生かして指導する。

【資料】

1　地域に根ざした推進校へ！
　　道徳教育地区別推進協議会に係る道徳教育推進校の役割について

2　平成２４年度道徳教育総合支援事業「ふくしま道徳教育推進プラン」



地域に根ざした推進校へ！

道徳教育地区別推進協議会に係る道徳教育推進校の役割について

文部科学省の指定校制度が廃止されたことを受け、福島県では、平成２４年度から地域に根ざした道徳教育推進校を設定することにしました。推進校は次のような活動をします。

１　推進校は、学校、児童生徒等の実態を踏まえ道徳教育に関する課題を設定し、実践研究の推進をする。
２　推進校は、ゲストティーチャー（教室ＧＴ）を活用して、児童生徒に魅力的な「道徳時間」を提供する。
３　推進校は、ゲストティーチャー（職員室ＧＴ）とともに、校内研修会を開催し職員研修の機会を確保する。
４　推進校は、域内の各学校に道徳教育を公開し、推進校として道徳教育に関する情報を発信する。
５　推進校は、自校の取組を依頼された様式に従って紹介する。

なお、リスト化された中からゲストティーチャーを選択するので、経費にかかる事務手続きがありません。

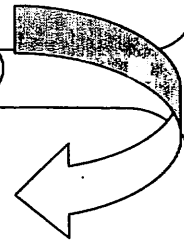
実践研究内容

■研究テーマの設定・・・・・・・・・・・学校における今年度の重点を核として１年間のテーマを設定。
■校長の指導の方針の明確化・・・・・・年度当初に「指導の方針」を周知したときの資料を提出。
■全体計画・年間指導計画の提出・・・・年度初めと教育課程の編成後に改訂したものをセットで提出。
■道徳教育推進教師の実践報告・・・・・年間を通じて道徳教育推進教師として取り組んだ事例を報告。
■道徳の時間の授業公開・・・・・・・・保護者や地域への公開授業を開催。
■地区別推進協議会等での実践発表・・・地区別推進協議会で中間報告。
■１年間の成果の報告と普及への協力・・道徳教育実践資料集への実践報告の提供と掲載の許諾。

○１年間の研究推進校です。県内６地区に１校ずつ、小・中・高等学校の中から推進校を設定します。
○推進校による実践研究、地区別推進協議会の事例等の中から、優れた取組みや有効な教材（資料）等をもとに事例集を作成します。
○推進校の関係者は、県道徳教育推進協議会に参加（年２回）し、他地区の推進校と情報交換しながら１年間の研究推進を行います。

さらに、県教育委員会から魅力的なゲストチャーチャーを派遣します。

授業作りを
支援します！



道徳教育「ゲストティーチャー」派遣計画

■推進校にゲストティーチャーを派遣・・リスト化された講師の中から選択。

① 教室（道徳の時間）にゲストティーチャーを派遣する。

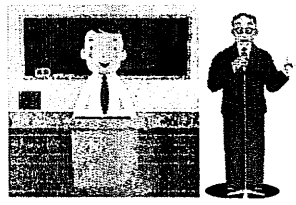
○各小・中学校の「道徳の時間」及び高等学校の「ＨＲの時間」に魅力的な人材を派遣して、一緒に道徳の授業を行う。授業の実施過程において、道徳教育推進教師としての役割や道徳教育についてのあり方や高等学校における道徳教育の方策等を実践レベルで提案することを目的とする。

ケース１　映画監督とともに、自然への畏敬の念を育てる授業。
ケース２　スポーツ選手とともに、いのちを輝かせる授業。
ケース３　作家とともに、いのちのつながりに思いを馳せる授業。
ケース４　詩人による読み聞かせとともに、生命を表現する授業。
ケース５　海洋研究者（水族館）とともに、自然の摂理について考える授業。
ケース６　被害者遺族等の講演講師とともに、命を守る授業。

② 職員室（校内研修）にゲストティーチャーを派遣する。

○道徳教育に係る教員研修を希望する学校の職員室に講師を派遣する。全職員で道徳教育を推進するために、学識経験者や道徳教育実践者を交えて、校内研修の充実を図る。

ケース１　道徳の時間の多様な指導方法についての研修。
ケース２　道徳の時間の教材作成に関する研修。
ケース３　道徳の時間と体験活動との関わりに関する研修。
ケース４　道徳教育とキャリア教育に関する研修。
ケース５　道徳教育と人権教育に関する研修。
ケース６　道徳教育と生徒指導に関する研修。



平成24年度道徳教育総合支援事業「ふくしま道徳教育推進プラン」

【県の課題】

○東日本大震災を経験した今だからこそ、「生命の尊さ」や「いのちを考える」ことのできる道徳教育を推進し、児童生徒の心の発達に寄与する事業が求められている。
○道徳の時間を公開し、学校と家庭・地域が一体となって道徳教育を推進することは、児童生徒の道徳的実践力を養うばかりでなく、県民一丸となって取組み育てる「生きる力」を身に付ける機会とする。

ふくしまから はじめよう。 Future from Fukushima

「輝け！いのち」道徳教育推進計画

福島県道徳教育推進メンバーによる学校・地域支援事業。教職員を対象に道徳にまつわる授業エピソードと大震災を乗り越えた県民を対象としたモラルエッセイを募集したり、教材開発をしたりと、「いのち」をテーマに、広く道徳教育を推進していきます。

学校

道徳教育「ゲストティーチャー」派遣計画

■「道徳の時間」にゲストティーチャーを派遣します！

ケース1　しゃくなげ大使（映画監督）とともにいのちのつながりに思いを馳せる授業。
ケース2　絵本作家による読み聞かせとともに、いのちを考える授業。
ケース3　被害者遺族等の講演講師とともに命を守る授業。

■　職員室「校内研修」へのゲストティーチャー
ケース4　道徳の時間の多様な指導方法についての研修。
ケース5　道徳の時間の教材作成に関する研修。
ケース6　キャリア教育と道徳教育に関する研修。

児童生徒

「ふくしま道徳教育資料」教材作成委員会

■　教材作成委員会（年3回）を開催
■　作成委員　大学教授②　各教育事務所指導主事⑦　小・中・高等学校⑮
■　小・中・高等学校の道徳教育に関する読み物教材を開発する。
■　いのちの偶然性・有限性・連続性を考える資料を作成する。
■　エッセイコンテストの優秀作品を添付し、メッセージの活用推進を図る。

地域

今伝えたいメッセージ「モラルエッセイコンテスト」子どもたちに残したいエピソード大募集！

県民参加型の道徳教育を推進するために、モラルやマナー、いのちや家族、人との絆など、心温まるちょっといい話を大募集！コンテスト入賞作品は、県内の各学校で道徳の時間に紹介されます。

■　年1回　優秀作品は、「ふくしま道徳教育資料」に掲載予定。

福島県道徳教育推進協議会

県内における道徳教育を推進し、その充実を図るため、本事業の実施を含め本県の道徳教育を推進するために必要な指導・助言を行う。

■　年2回開催（5月・2月予定）
■　構成員　学識経験者（大学教授等）、道徳教育推進協議会委員、学校関係者（小・中教研道徳部長、高等学校代表）県教委・教育事務所・教育センター、担当指導主事

福島県道徳教育地区別推進協議会

学習指導要領の趣旨並びに児童生徒、学校、家庭及び地域等の実態を踏まえ、創意工夫を生かした道徳教育を推進するための実践研究を行い、その成果を普及する。

■　参加対象
○各地区の小中高等学校の道徳教育推進教師等
○保護者、地域住民、関係機関・関係団体等
■　各地区年1回開催（各教育事務所の計画による）
■　内容
①「道徳の時間」の授業研究会、道徳教育推進協議会メンバー等による模擬授業や保護者等を対象とした道徳の授業実践
②道徳教育指導者養成研修（中央・ブロック別研修）受講者・学識経験者等による講義・演習・協議等
③推進校及び先進校等の実践報告
④「ふくしま子ども憲章」と連携した道徳の時間の調査研究
『ふくしま子ども夢宣言』
（小学6年生対象）

推進校7校による実践研究

推進校は、学校、児童生徒等の実態を踏まえ道徳教育に関する課題を設定し、実践研究を推進する。

《推進校の研究内容》

■研究テーマの設定
■校長の指導の方針の明確化
■全体計画・年間指導計画の提出
■道徳教育推進教師の実践報告
■道徳の時間の授業公開
■1年間の成果の報告と普及への協力
■地区別推進協議会等での実践発表
○1年間の研究推進校
○県内6地区に1校ずつの推進校
○推進校による実践研究、地区別推進協議会の事例等の中から、優れた取組みや有効な教材（資料）等をもとに、道徳教育実践事例集を作成し、県内に普及する。

生命の尊重
「いのち」について考える
（1年次）

家族愛
「敬愛」について考える
（2年次）

郷土を愛する心
「絆」について考える
（3年次）

教員の実践指導力の向上　家庭・地域の協力・参画

和で奏でる！望ましい道徳性の育成

平成２５年３月１２日　印刷
平成２５年３月２５日　発行

福島県教育委員会